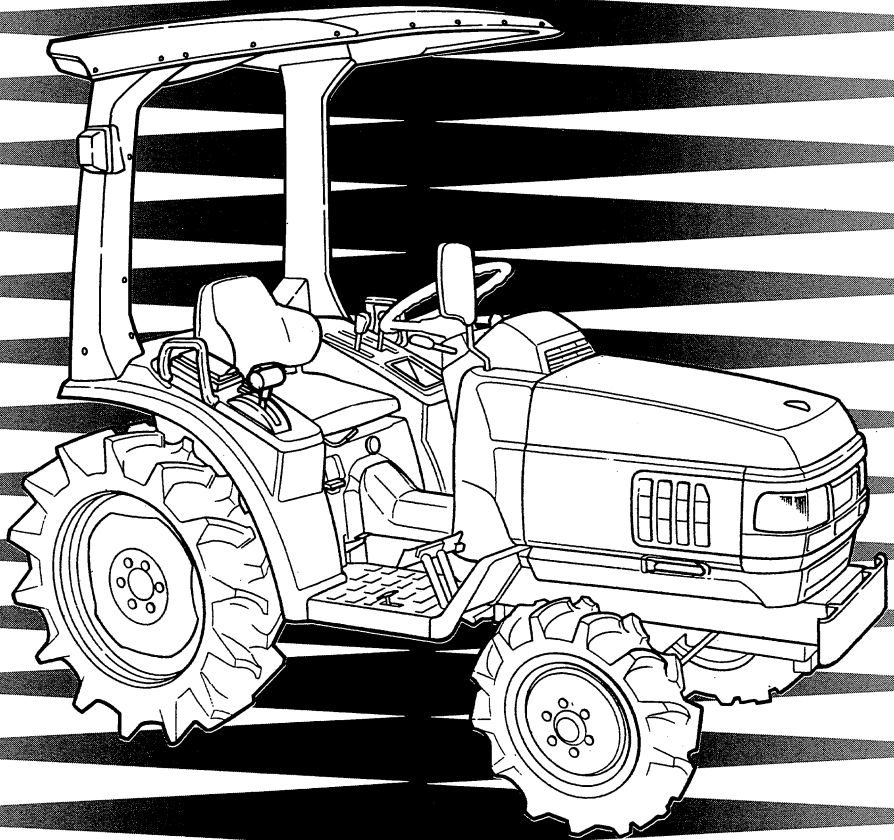


ホンダ[®]ディーゼルトラクタ

TX18・TX20・TX22

取扱説明書



ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。

操作位置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために、操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですので良く理解して戴き誤操作のないようご注意ください。



燃料(残量)



水温警告灯



予熱表示灯



ホーン



充電警告灯



方向指示器表示



エンジンオイル警告灯



前照灯上向き照射位置



駐車ブレーキ表示灯



前照灯下向き照射位置



エンジン回転(低)



エンジン回転(高)

は じ め に

このたびはホンダ製品をお買いあげいただきありがとうございます。

この取扱説明書は、商品の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明しています。

トラクタを運転する前に本書をよくお読みいただき、十分理解してからご使用ください。取扱説明書はわからない事があったときに読むことができるよう**大切に保存**し、日常の手引きとしてご活用ください。

なおこの取扱説明書では、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。ご了承ください。

安全に関する表示について

本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法を説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠ 危険

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠ 警告

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠ 注意

指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント

指示に従わないと、本機やその他のものが損傷する可能性があるもの

この取扱説明書は

- ・作業をするときは、必ず携帯してください。
- ・本機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。
- ・紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店にご注文ください。
- ・保証書は良くお読みいただき裏面のサイン欄にご署名の上、大切に保管してください。

目 次

安全作業のお願い	5
安全にお使いいただくためにこれだけは必ず守りましょう	6
安全ラベル	27
小型特殊自動車について	29
フレーム号機とエンジン号機	30
各部の名称と取扱いをおぼえましょう	31
コンビネーションメータ	33
1. 燃料計	33
2. 水温計	33
3. エンジン回転計	34
4. 積算時間計	34
5. 方向指示器表示灯	34
6. エンジンオイル警告灯	34
7. 駐車ブレーキ表示灯	35
8. 充電警告灯	35
9. 予熱表示灯	35
10. 前照灯上向き表示	35
11. HiS異常警告灯(HiS仕様)	36
12. 耕深モード表示灯(HiS仕様)	36
13. 水平モード表示灯(HiS仕様)	36
走行装置	37
1. エンジンスイッチ	38
2. 警告ブザー	38
3. 方向指示器スイッチ	39
4. 前照灯スイッチ	39
5. ホーン(警音器)スイッチ	39
6. エンジン回転調整レバーとアクセルペダル	40
7. 駐車ブレーキレバー	41
8. ブレーキペダル	41
9. クラッチペダル	42
10. ボンネットオープナ	42
11. バックミラー	43
12. 2WD・4WD(2輪駆動・4輪駆動)切換ノブ	43
13. 主変速レバー、副変速レバー	44
14. デフロックペダル	45
15. シートスライド調節レバー	45
16. 小物入れ(固定式二柱安全フレーム仕様)	45
17. 安全フレーム	46
18. シートベルト	47
作業機操作装置	48
1. 油圧リフトレバー(機械式ポジションコントロール仕様)	49
2. レバーストップ(機械式ポジションコントロール仕様)	49

3. PTO軸変速レバー	50
4. PTO軸カバー	50
5. 下降速度調整ノブ	51
6. フロントPTOレバー	52
7. 油圧前後切換レバー	52
8. フロント油圧下降速度調整ノブ	53
9. 操作パネル・油圧リフト レバー(HiS仕様)	54
運転する前に点検しましょう	55
ボンネットの開けかた、閉めかた	57
ボンネットの外しかた、取付かた	57
サイド コラム カバーの外しかた	58
1. タイヤの空気圧、亀裂、損傷、締付けボルト、ナットの点検	58
2. エンジン オイルの点検	59
3. ラジエータ(冷却水)の点検	60
4. フューエル フィルタ(燃料ろ過器)の点検	61
5. ファン ベルトの点検	61
6. パワー ステアリング ベルトの点検(パワー ステアリング仕様)	62
7. パワー ステアリング液の点検(パワー ステアリング仕様)	62
8. ハンドルの遊び、ガタの点検	63
9. ブレーキ ペダルの遊びの点検	63
10. クラッチ ペダルの遊びの点検	64
11. 燃料の点検	64
12. 駐車ブレーキ、警告ブザーの点検	65
13. 電装品の点検	65
運転のしかた	66
エンジンのかけかた	66
暖機運転とならし運転	68
発進・走行のしかた	68
停車・エンジン停止のしかた	72
旋回のしかた	74
坂道での運転のしかた	75
ほ場への出入り時の注意	76
公道走行時の注意	77
上手な装置の使いかた	78
1. HiS(ホンダ インテリジェント システム)の使いかた	78
2. SL(超低速)の使いかた	91
3. 4 WD(4 輪駆動)の使いかた(SL仕様)	92
4. デフロックの使いかた	93

5. パワー ステアリングの使いかた(パワー ステアリング仕様)	94
運搬・保管のしかた	95
定期手入れを行いましょ う	98
携帯工具	98
定期点検表	99
やさしい点検・整備	101
エンジン オイルの交換	101
前車軸ケース オイルの交換	102
ブレーキ ペダルの遊びの点検・調整	103
フューエル フィルタ(燃料ろ過器)の清掃・エレメントの交換	104
トランスミッション オイルの点検	105
ラジエータ スクリーンの清掃	106
エア クリーナ(空気清浄器)・プリ エア クリーナの点検・清掃・交換	107
バッテリー アンダ トレーの清掃(フロントPTO仕様)	109
フロントPTOギヤ ケース オイルの交換(フロントPTO仕様)	110
バッテリーの点検	111
各部のゆるみ点検、増締め、グリス塗布	114
ヒューズの交換	115
ヘッドライト バルブ・コーナ ランプ バルブの交換	116
特 3 Pヒッチの取付け、取外し	117
故障のときは	119
主要諸元	122
配線図	136

安 全 作 業 の お 願 い

本機を運転する前に本書をよくお読みいただき、十分理解してからご使用ください。
本書の中に安全に関する項目を「安全にお使いいただくためにこれだけは必ず守りましょう」(6頁)に記載しています。また本文中にも⚠警告、⚠注意としてそのつど取りあげています。

- ・本機や作業機に貼ってある安全ラベルをよくお読みになり警告に従ってください。
- ・本機を他の人に貸す場合は、この「取扱説明書」をよく読んでいただくようご指導ください。また取扱いの方法や安全に関する項目を説明してください。

安全にお使いいただくためにこれだけは必ず守りましょう

1. 一般的な注意項目	6
2. 安全フレームとシート ベルト	9
3. 運転する前に点検	10
4. エンジンの始動	10
5. 発進・走行	11
6. 道路走行	13
7. 下り坂では	14
8. 登り坂では	14
9. ほ場への出入り	16
10. アユミ板を使うときは	17
11. ほ場での作業	18
12. 作業機（ロータリなど）の着脱	21
13. 作業途中や走行途中での駐車・点検	22
14. 使用後の手入れ	23
15. 点検・整備	24
16. 長期保管	26



安全にお使い
いただくために

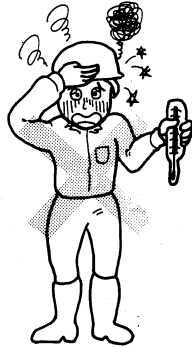
これだけは必ず守りましょう

・イラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。ご了承ください。

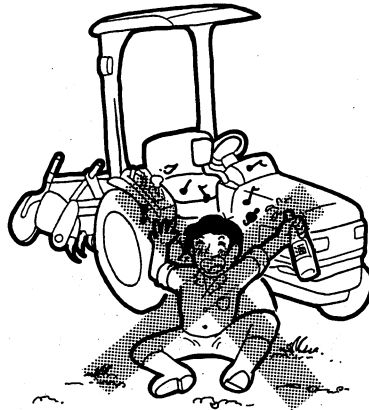
1. 一般的な注意事項

こんな人は、運転をやめましょう

- ・病気や薬物の影響、その他の理由で正常な運転の
できない人



- ・酒気をおびた人



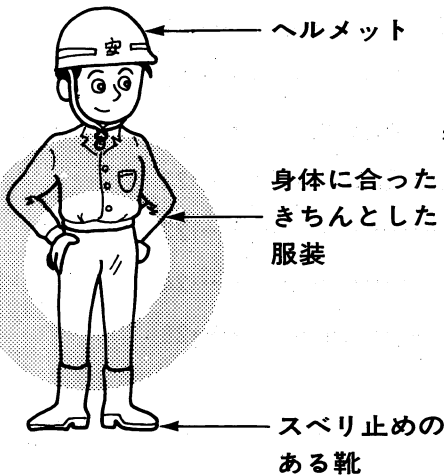
- ・子供
- ・未熟練者

- ・妊娠している人

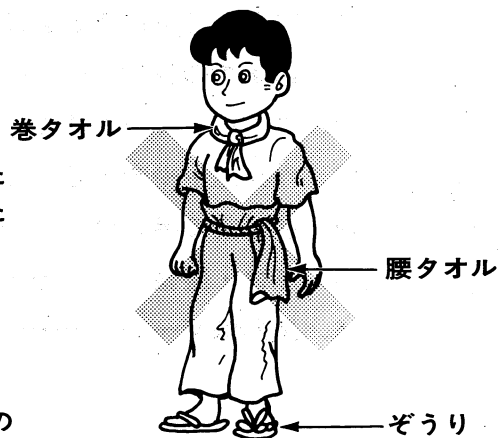


作業に合った服装をしていますか

〈良い服装〉



〈悪い例〉



安全のため、ヘルメット、安全靴、保護メガネや手袋などを必要に応じて使用してください。

ダブダブの服や破れた服、かさばった大きな服は着用しないでください。

これらの服は回転部分や操縦装置などにひっかかることがあり、事故の原因になります。



安全にお使い
いただくために

これだけは必ず守りましょう

火災に注意しましょう

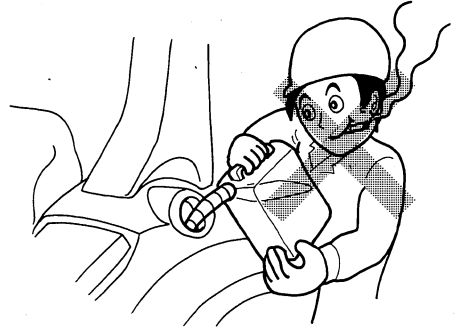
必ず守りましょう

- 燃料は、引火しやすく、火災を引き起こすことがあります。

燃料の補給は、

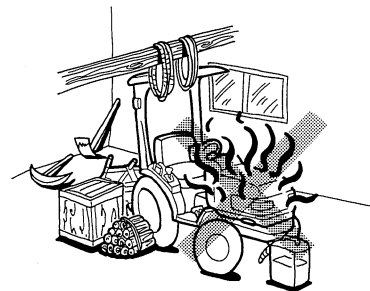
- ・ エンジンを停止してください。
- ・ 火気を近づけないでください。
- ・ 燃料はこぼさないように入れてください。万一、こぼしたら布きれなどで完全にふきとり、火災や環境に注意して処分してください。

こうなる前に!!



- 運転中や停止直後のエンジンなどは熱くなっています。

- ・ エンジン、マフラ、燃料タンクの周辺はきれいにしておいてください。
- ・ 燃えやすい物の近くにトラクタを止めないでください。
- ・ 本機にカバーをかけるときは、エンジン、マフラが冷えてから行ってください。





安全にお使い
いただくために

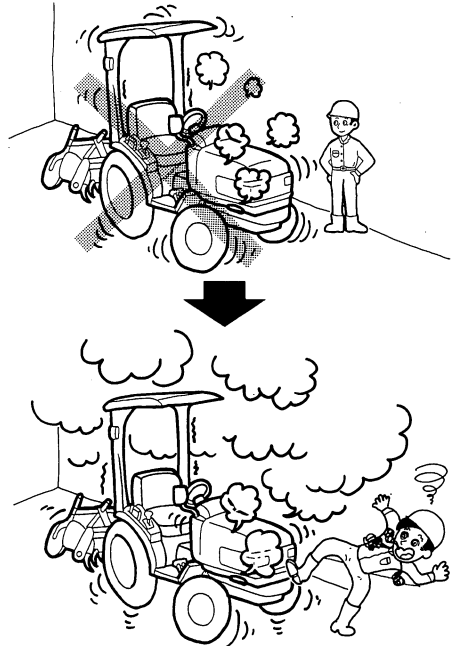
これだけは必ず守りましょう

排気ガスに注意しましょう

必ず守りましょう

- 排気ガスの中には有害な一酸化炭素が含まれています。
- 換気の悪い場所ではエンジンをかけたり、アイドリングをしないでください。

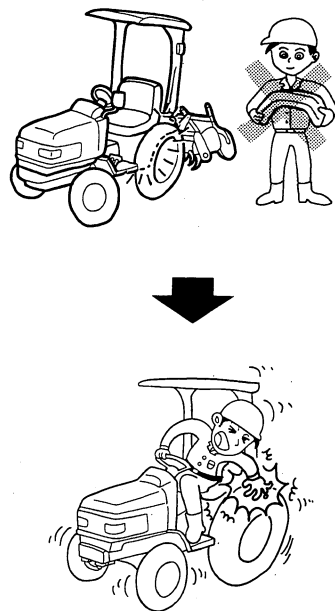
こうなる前に!!



必ず守りましょう

- カバーやラベル類、その他の部品を外して操作しないでください。
- 誤った部品を取付けたリ改造をしないでください。思わぬ事故の原因となることがあります。

こうなる前に!!





安全にお使い
いただくために

これだけは必ず守りましょう

2. 安全フレームとシート ベルト

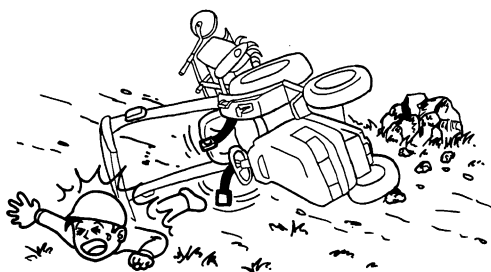
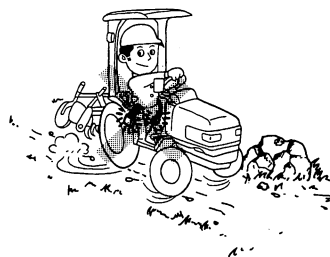
必ず守りましょう

- 安全フレームは万一転倒した場合、運転者を保護するために取付けられています。絶対に外さないでください。
- 安全フレームを改造しないでください。
- 安全フレームに破損や曲がりなどがあると強度が低下します。破損、曲がりなどが発生した場合はお買いあげ販売店で点検を受けてください。
- 運転時は、シート ベルトと安全フレームを使用してください。
- 可倒式安全フレーム仕様は：
 - ・ 納屋の出入りなど、安全フレームが当たる場合を除き、運転時はいつも安全フレームを立て、確実に固定してください。安全フレームを倒した状態では万一転倒した場合に安全にフレームの役目をしません。
 - ・ 運転前に安全フレームにがたが無く、ノブ ボルトが確実に締付けられていることを確認してください。
 - ・ 安全フレームを倒した状態ではシートベルトをししないでください。

こうなる前に!!



シート ベルトを着用していますか
安全フレームは固定されていますか

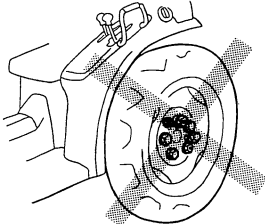





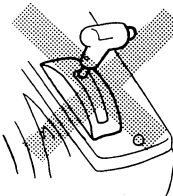
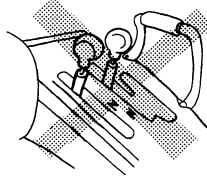

安全にお使い
いただくために

これだけは必ず守りましょう

3. 運転する前に点検

必ず守りましょう	こうなる前に!!
<ul style="list-style-type: none"> ●点検するときは、必ずエンジンを停止し、エンジン スイッチ キーを外してください。 ●本説明書に従って各部の点検を行ってください。(55～65頁参照) ●足廻りの締付けボルトやナットを1つ1つ確認して、もしゆるんでいたら締付けてください。 ●ブレーキ ペダルは左右セット(連結)してください。 	<p>こうなる前に!!</p> <p>各部の締付け確認は</p>  <p style="text-align: center;">↓</p> 

4. エンジンの始動

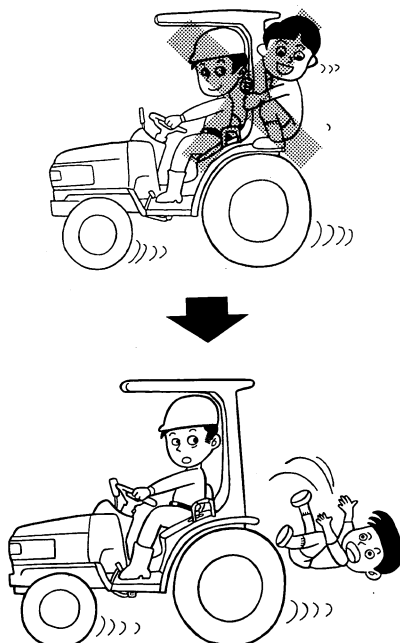
必ず守りましょう	こうなる前に!!
<ul style="list-style-type: none"> ●必ず運転席に座って始動してください。 ●周囲の安全を確認してください。 ●主変速、PTO軸変速レバーを“中立”にして、クラッチ ペダルを踏み込んでエンジンを始動してください。 	<p>こうなる前に!!</p> <p>レバー類は“中立”の位置になっていますか</p>   <p style="text-align: center;">↓</p> 

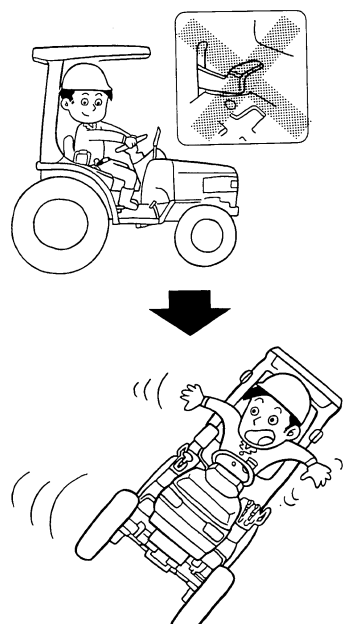


安全にお使い
いただくために

これだけは必ず守りましょう

5. 発進・走行

必ず守りましょう	こうなる前に!!
<p>●乗車定員は1名です。運転者以外の人や物を絶対にのせないでください。</p>	<p>乗車定員は1名です</p> 

必ず守りましょう	こうなる前に!!
<p>●デフロックが解除されているか、必ず確認してください。</p> <p>[デフロック解除の確認方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ブレーキ ペダルの連結板を外します。 2. 右・左どちらかのブレーキ ペダルを軽く踏んでください。踏んだ側の後輪が停止すれば解除しています。 3. 解除しにくい場合は、クラッチ ペダルを踏んで、ブレーキ ペダルを右・左交互に軽く踏んでください。(強く踏むと故障の原因になります。) 	<p>デフロックは解除しましたか</p> 



安全にお使い
いただくために

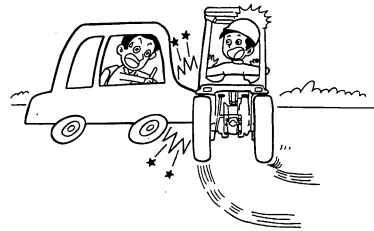
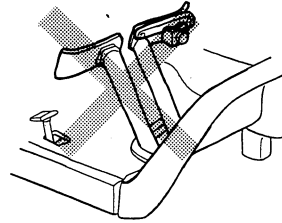
これだけは必ず守りましょう

必ず守りましょう

- ブレーキ ペダルの右・左をセット(連結)してください。

こうなる前に!!

ブレーキ ペダルはセット(連結)してありますか

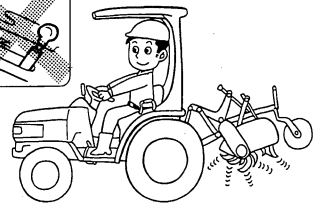
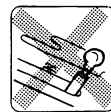


必ず守りましょう

- 発進する前に、必ずPTO軸変速レバーを“中立”にしてください。
- 発進するときは、エンジン回転を下げて、クラッチをゆっくり離して、スムーズに発進してください。

こうなる前に!!

PTO軸変速レバーは“中立”になってますか





安全にお使い
いただくために

これだけは必ず守りましょう

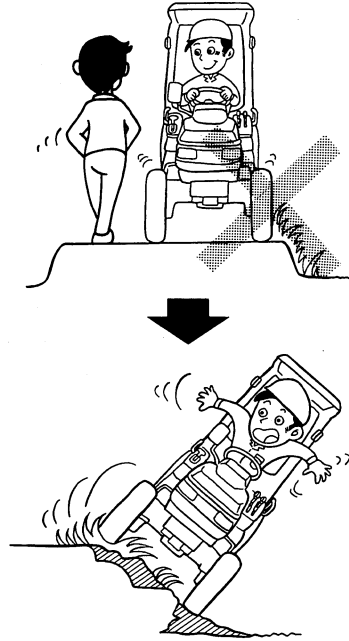
6. 道路走行

必ず守りましょう

- デフロックが解除されているか、必ず確認してください。その後、ブレーキペダルの右・左をセット(連結)してください。
- 免許証を携帯し、交通法規を守ってください。
- 道路状況を確認し、路肩に注意して走行してください。
路面の状況が良くわからないときは、本機から降りて良く確認しましょう。
- 低速車線を走行してください。
- エンジン回転調整レバーを“低”の位置にして、アクセルペダルで走行してください。
- 急発進・急停止・急旋回は避けてください。

こうなる前に!!

路肩に注意してますか

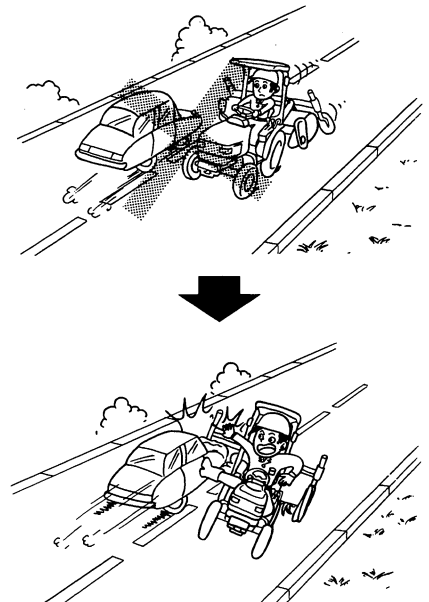


必ず守りましょう

- 作業機やトレーラをつけたまま公道を走行することは法律で禁じられています。作業機をつけたまま公道を移動する場合は、トラックに積んで運搬してください。

こうなる前に!!

作業機をつけたまま、公道を走行していませんか。

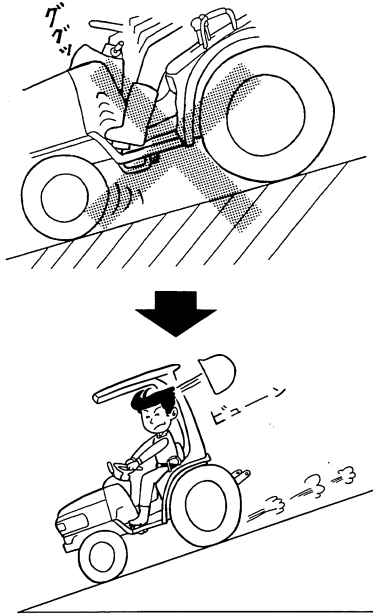




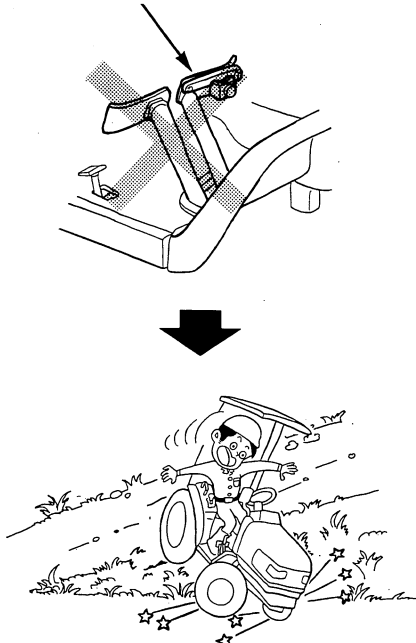
安全にお使い
いただくために

これだけは必ず守りましょう

7. 下り坂では

必ず守りましょう	こうなる前に!!
<ul style="list-style-type: none"> ●デフロックが解除されているか、必ず確認してください。その後、ブレーキペダルの右・左をセット(連結)してください。 ●坂の手前でいったん停止して、エンジン回転調整レバーを“低”の位置にし、主変速レバーを低速にしてから、エンジンブレーキを使って坂を下ってください。 ●坂の途中でクラッチを切ったり、変速操作をしないでください。 ●むやみに急ブレーキをかけないでください。 	<p>こうなる前に!! クラッチは切らない</p> 

8. 登り坂では

必ず守りましょう	こうなる前に!!
<ul style="list-style-type: none"> ●デフロックが解除されているか、必ず確認してください。その後、ブレーキペダルの右・左をセット(連結)してください。 ●坂の手前でいったん本機を止めて、主変速レバーを低速に入れ、クラッチペダルを静かに離してください。 ●急発進はしないでください。 	<p>こうなる前に!! ブレーキペダルの連結が外れていませんか</p> 



安全にお使い
いただくために

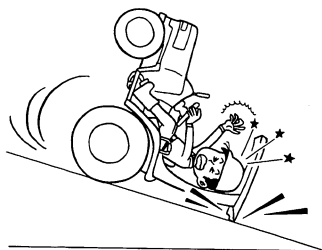
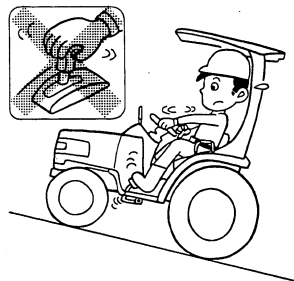
これだけは必ず守りましょう

必ず守りましょう

- 坂の途中では絶対にクラッチを切らない
てください。

こうなる前に!!

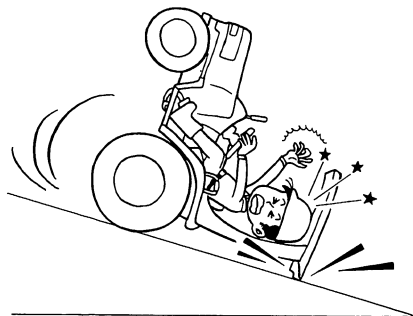
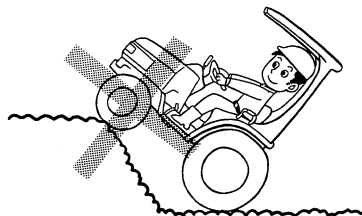
途中でクラッチを切らない



必ず守りましょう

- 溝やぬかるんだ所から前進で脱出したり、
急な坂を前進で登るとトラクタが後ろに
転倒することがあります。
トラクタの転倒防止のため、このような
所では必ず後進で登ってください。

こうなる前に!!

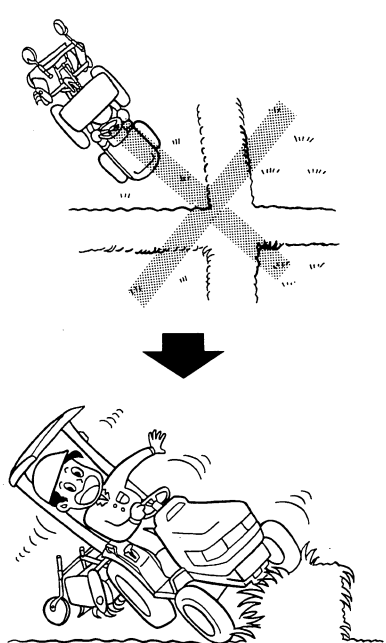


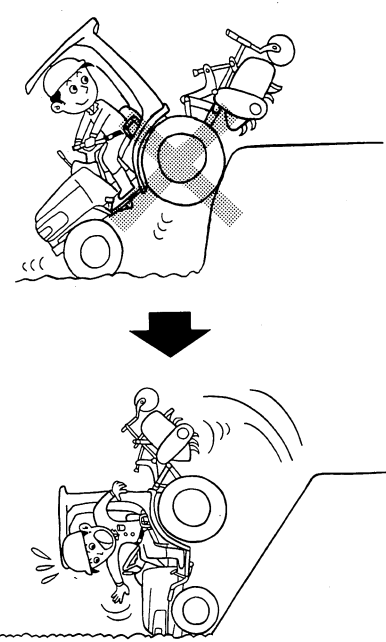


安全にお使い
いただくために

これだけは必ず守りましょう

9. ほ場への出入り

必ず守りましょう	こうなる前に!!
<ul style="list-style-type: none"> ● デフロックが解除されているか、必ず確認してください。その後、ブレーキペダルの右・左をセット(連結)してください。 ● ほ場への出入りは、本機を畦、溝に直角に向けて止め、必ず直角方向で行ってください。 ● エンジン回転を下げ、低速で行ってください。 ● 出入り場所をよく確認してください。 ● 段差の大きい溝越えのときは、アユミ板を使用するか出入り口に傾斜や渡り橋を設けてください。 ● 作業機が斜面の上側になるように出入りしてください。 	<p>低速で直角に出入りしてますか</p> 

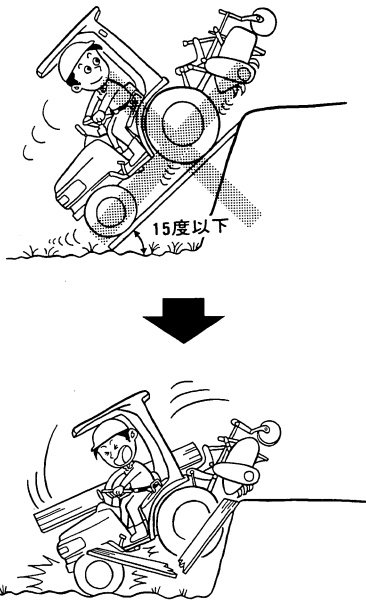
必ず守りましょう	こうなる前に!!
<ul style="list-style-type: none"> ● ほ場への出入りにはアユミ板を使用してください。 	<p>アユミ板を使ってますか</p> 

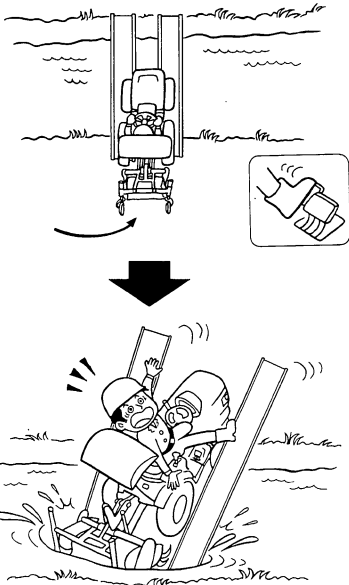


安全にお使い
いただくために

これだけは必ず守りましょう

10. アユミ板を使うときは

必ず守りましょう	こうなる前に!!
<ul style="list-style-type: none"> ●本機及び作業機の重量に耐えるすべり止めのある金属製のアユミ板を使用してください。 ●アユミ板を使うときは傾斜角度15度以下になるような長さの物を使ってください。 ●アユミ板を使用する場所を良く確認してください。 ●アユミ板の安定・平行を確認してください。 	<p>アユミ板の強度、材質、傾斜角度は</p> 

必ず守りましょう	こうなる前に!!
<ul style="list-style-type: none"> ●アユミ板を登り降りする前に必ずデフロックが解除されているか確認してください。その後、右・左のブレーキペダルのセット(連結)を確認してください。 ●片ブレーキ、デフロックは絶対に使用禁止です。 	<p>ブレーキペダルはセット(連結)してありますか</p> 



安全にお使い
いただくために

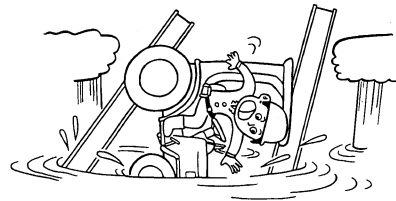
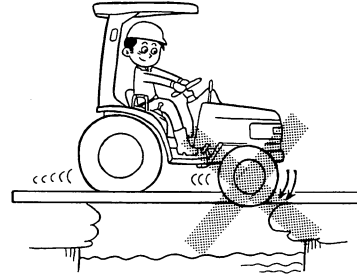
これだけは必ず守りましょう

必ず守りましょう

- アユミ板を使うときは、畦、溝などに対して本機を直角に止めてください。
- アユミ板の上では脱輪しないようハンドルを大きく操作しないでください。
- 本機の車輪幅に合わせ、アユミ板を左・右平行にして、ハンドルは直進状態にしてから、真直ぐに低速で走行してください。
- 作業機が斜面の上側になるように走行してください。
- ロータリの爪がアユミ板にひっかからないよう注意してください。

こうなる前に!!

低速で脱輪に注意してますか



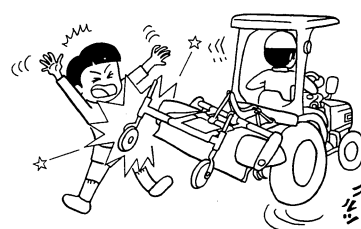
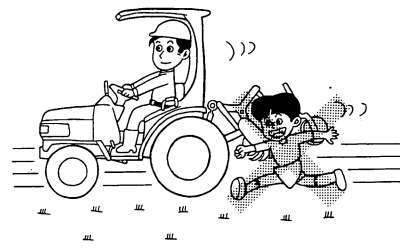
11. ほ場での作業

必ず守りましょう

- 作業する場所には人や動物を近づけないでください。特に旋回するときは、前後左右に注意してください。
- 畦際で旋回するときは、畦に人がいないか確認してください。
高速では絶対に旋回しないでください。
横転など重大な事故につながります。
- カミナリが鳴り出したらエンジンを停止し、本機から離れて安全な場所に避難してください。

こうなる前に!!

本機周囲の安全確認(人は近くにいませんか)





安全にお使い
いただくために

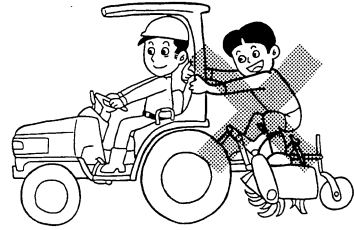
これだけは必ず守りましょう

必ず守りましょう

- 乗車定員は1名です。必ずお守りください。
- 作業機を使用するときは、必要に応じてトラクタの前部に適正なウエイトを取付けてください。
ウエイトは純正ウエイトを使用してください。
- 作業機を装着したときの走行は、低速で行い、急発進、急停止、急旋回は避けてください。
- けん引にはけん引ヒッチを使用してください。(別売部品)

こうなる前に!!

運転者以外に人を乗せていませんか

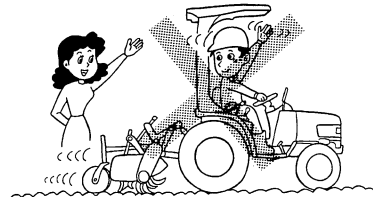



必ず守りましょう

- 手放しや、わき見運転をしないでください。
- 傾斜地では、遅い車速を選んで運転してください。速い車速では転倒したり、思わぬ事故を起こします。

こうなる前に!!

わき見運転、手ばなし運転をしていませんか



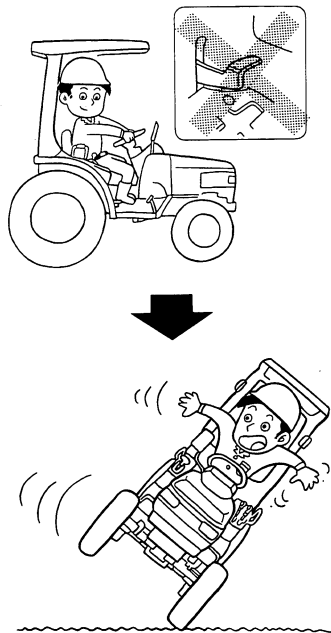
 安全にお使い
いただくために **これだけは必ず守りましょう**

必ず守りましょう

- デフロックは指定された作業以外、使用しないでください。
 - デフロックを使用した後は必ず解除されているか確認してください。
〔デフロック解除の確認方法〕
 - 1. ブレーキ ペダルの連結板を外します。
 - 2. 右・左どちらかのブレーキ ペダルを軽く踏んでください。踏んだ側の後輪が停止すれば解除しています。
 - 3. 解除しにくい場合は、クラッチ ペダルを踏んで、ブレーキ ペダルを右・左交互に軽く踏んでください。(強く踏むと故障の原因になります。)
- デフロックを入れたまま旋回すると、転倒など思わぬ事故を起こします。

こうなる前に!!

デフロック使用後解除を確認しましたか

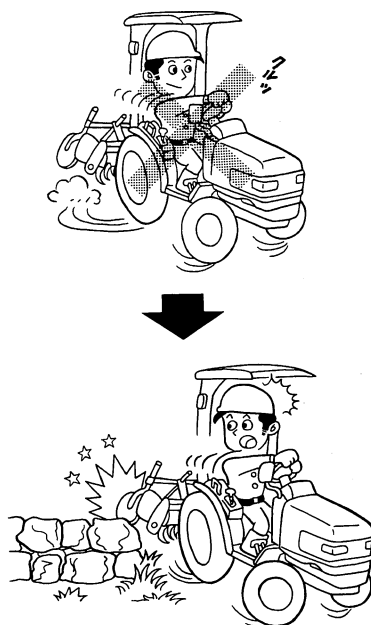


必ず守りましょう

- 壁ぎわなどで旋回するときは、前後左右に注意しながら作業機の位置を十分考えてハンドルを操作してください。
- 発進するときは、エンジン回転を下げて、クラッチをゆっくり離して、スムーズに発進させてください。

こうなる前に!!

障害物に注意していますか





安全にお使い
いただくために

これだけは必ず守りましょう

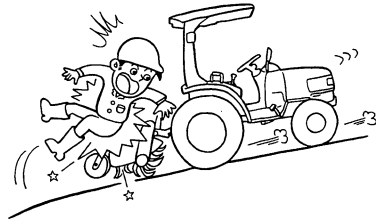
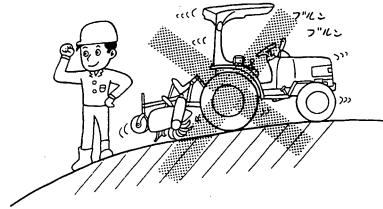
12. 作業機(ロータリなど)の着脱

必ず守りましょう

- 着脱は平坦な場所でエンジンを停止し、必ず駐車ブレーキをかけてください。
- PTO軸が停止していることを確認してください。
- 夜間は適切な照明を用いてください。

こうなる前に!!

エンジンは停止しましたか

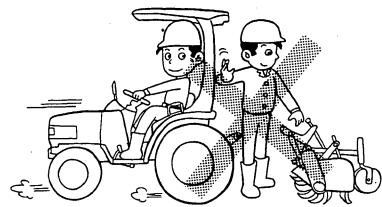


必ず守りましょう

- 作業機を着脱するときは、トラクタと作業機(ロータリなど)の間に人が入らないように注意してください。
- 作業機の下へ入ったり、足を入れたりしないでください。

こうなる前に!!

人はいませんか





安全にお使い
いただくために

これだけは必ず守りましょう

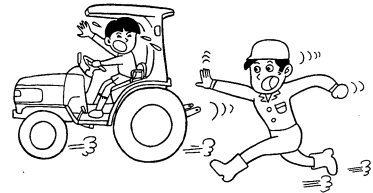
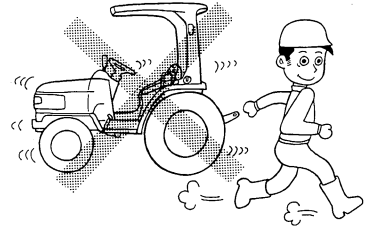
13. 作業途中や走行途中での駐車・点検

必ず守りましょう

- 平坦な場所に止め、エンジンを停止してください。
- 運転席から降りるときは、駐車ブレーキをロックして、エンジン スイッチ キーを外してください。

こうなる前に!!

エンジンは停止していますか

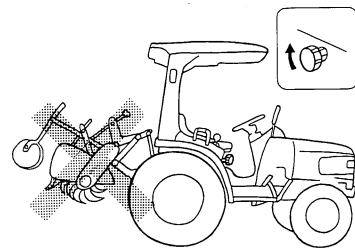


必ず守りましょう

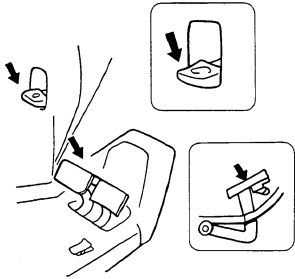
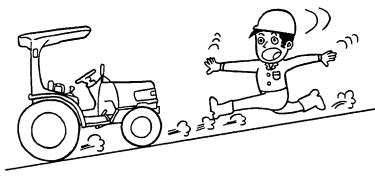
- 作業機を点検・調整する場合には、作業機の下降を防止するため、下降速度調整ノブを“遅い”(右回り)いっぱいに締めて油圧をロックしてください。

こうなる前に!!

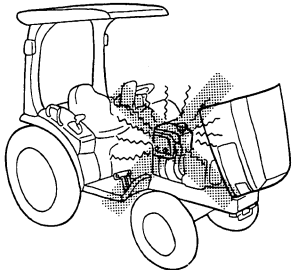

油圧をロックしましたか



! 安全にお使い いただくために **これだけは必ず守りましょう**

必ず守りましょう	こうなる前に!!
<ul style="list-style-type: none"> ●非常の場合以外、坂道では駐車しないでください。 ●万一坂道で駐車する必要があるときは、駐車ブレーキをロックして車輪に車止めをしてください。主変速レバーは1速または後進、副変速は低速度(SL、L、M)にしてください。 ●右・左のブレーキ ペダルを必ず連結してください。 	<p>駐車ブレーキはロックしてありますか</p>  <p>↓</p> 

14. 使用後の手入れ

必ず守りましょう	こうなる前に!!
<ul style="list-style-type: none"> ●エンジンを停止してください。 ●エンジン停止直後は、エンジン、マフラなどが高温になっています。点検、整備などは十分に冷えてから行ってください。 ●各部の清掃を行ってください。(特にマフラ及びエンジンの高温部分のゴミ) ●作業機の清掃、点検、交換時は下降速度調整ノブで油圧をロックしてください。 ●格納するときは、作業機を下げ、駐車ブレーキをロックして、エンジン、マフラが完全に冷えてから格納してください。 	<p>冷えていますか</p>  <p>↓</p> 



安全にお使い
いただくために

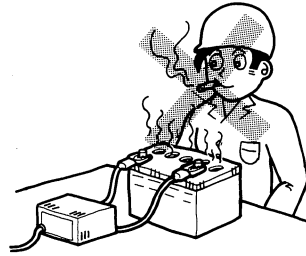
これだけは必ず守りましょう

15. 点検・整備

必ず守りましょう

- バッテリー液は希硫酸です。目や皮ふに付くとその部分は侵されますので十分注意してください。万一、付着したときはすぐに大量の水で少なくとも15分以上洗浄し、直ちに専門医の診断を受けてください。
- バッテリーを取扱うときはショート(短絡)による火花や火気に注意してください。バッテリーからは可燃性のガスが発生しているため爆発の危険があります。

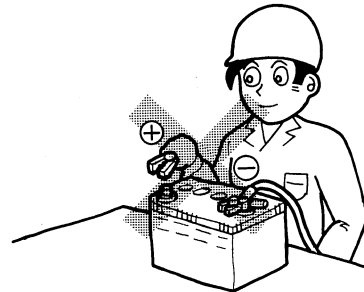
こうなる前に!!



必ず守りましょう

- バッテリーのショート(短絡)を防ぐために、バッテリーの結線順序を守ってください。バッテリーを外すときはマイナスコードを先に外します。バッテリーを取付けるときはプラスコードを先に接続します。

こうなる前に!!





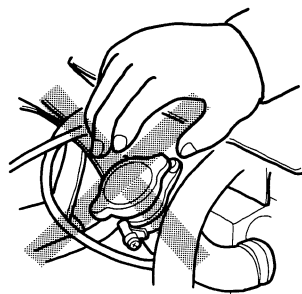
安全にお使い
いただくために

これだけは必ず守りましょう

必ず守りましょう

- エンジン運転中や、エンジンを停止した直後は、ラジエータ液が高温になります。ラジエータ液の温度が高いときに、ラジエータ本体のキャップを外すと蒸気や熱湯がふき出し危険です。ラジエータ液の温度が十分下がってから、布切れなどでキャップを包み静かに開けてください。ラジエータ本体のキャップはリザーブタンクが空になった時やラジエータ液を交換するとき以外開けないでください。

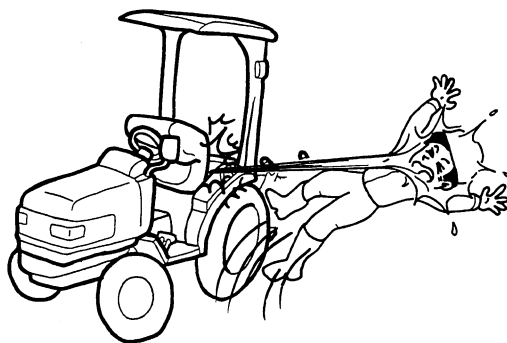
こうなる前に!!



必ず守りましょう

- 油圧回路から噴出した油は、皮ふに穴をあける程の力があり、傷害の原因になります。油圧部品を外すときは必ず残圧を抜いてください。
- 見えない小さな穴からの油漏れを探すときは、素手で探さないでください。探すときは保護めがねをかけ、ボール紙などを利用して防御してください。万一、油圧により負傷したときは、強度のアレルギーを起こすおそれがあるので、すぐ医師の診断を受けてください。

こうなる前に!!





安全にお使い
いただくために

これだけは必ず守りましょう

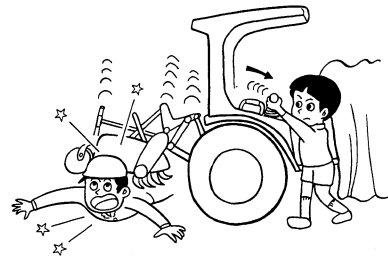
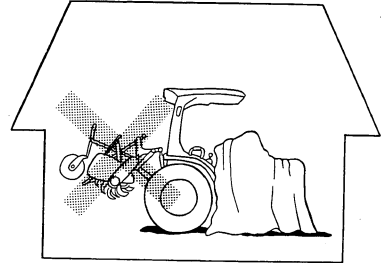
16. 長期保管

必ず守りましょう

- 駐車ブレーキをロックして風通しの良い乾燥した場所に本機を水平にして格納してください。
- バッテリーのマイナスコードを外してください。
- 後輪の前後に車止めをしてください。
- 作業機は外すか、地面に接地するまで下げてください。
- 本機にカバーをかけるときは、エンジン、マフラが冷えてから行ってください。

こうなる前に!!

作業機は下げてありますか



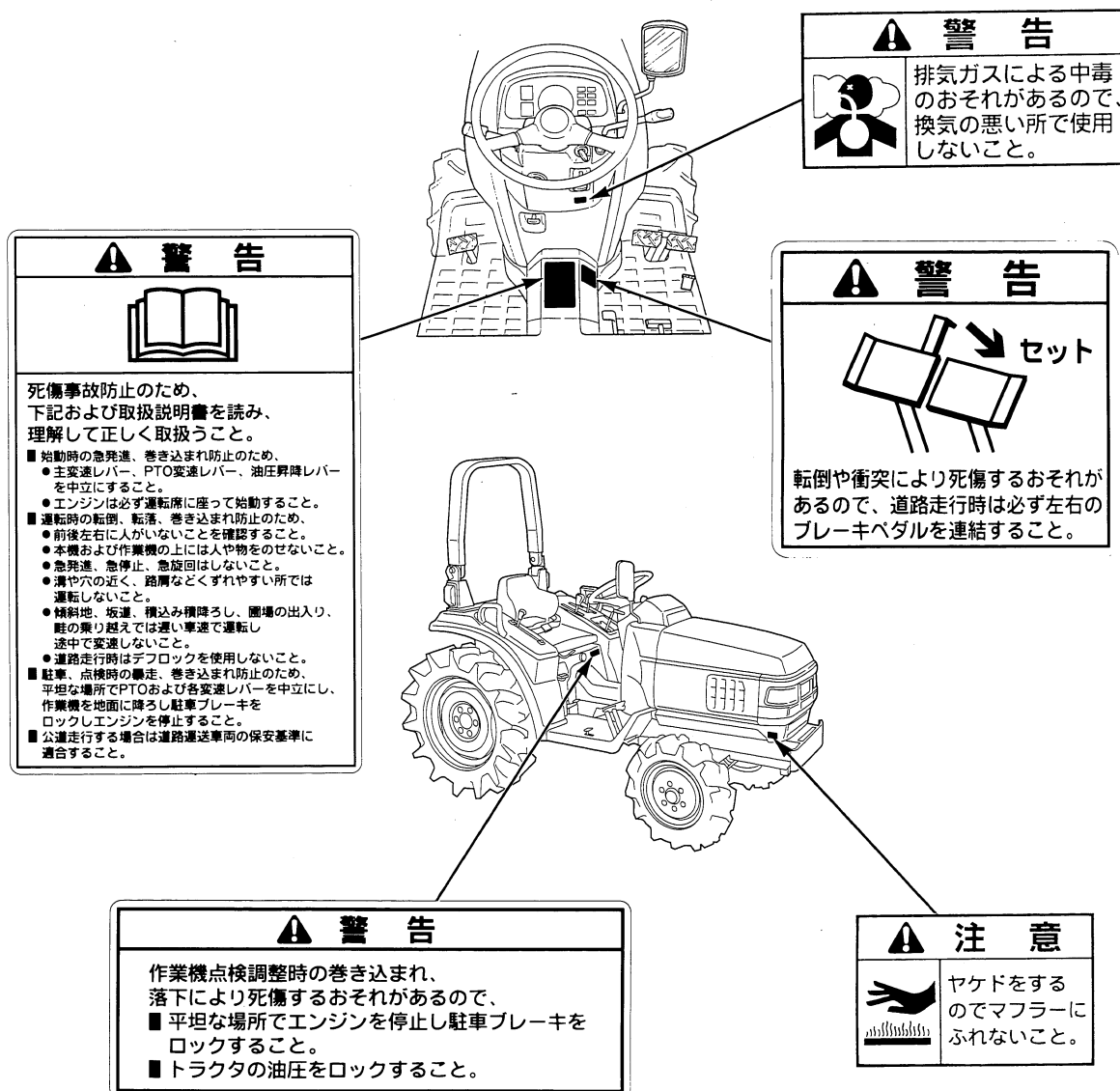
安全ラベル

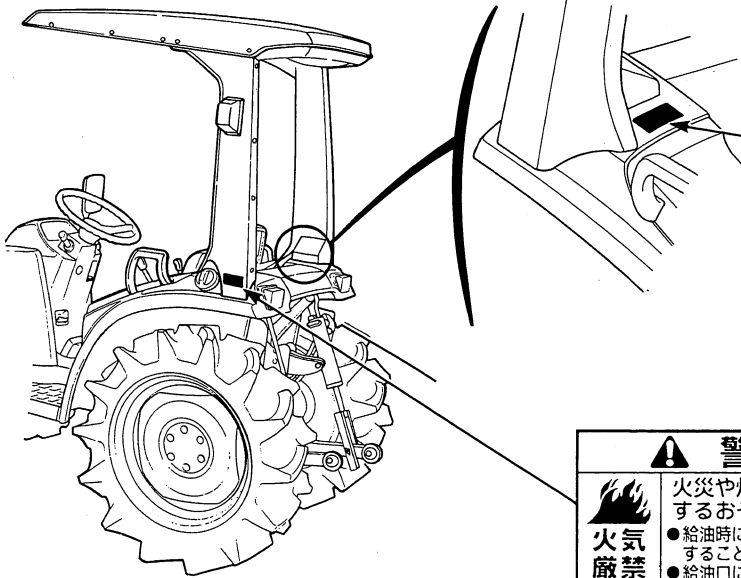
トラクタを安全に使用していただくために、本機に安全ラベルが貼られています。ラベルをすべて読んでからご使用ください。

ラベルはハッキリと見えるように、きれいにしておいてください。

本機に貼ってあるラベルが汚れたり、傷ついたり、なくなったりして読めなくなったら新しいラベルに貼り替えてください。安全ラベルが貼られている部品を交換する場合はラベルも新しい物を貼ってください。

ラベルはお買いあげ販売店にご注文ください。





警告

転倒や転落により死傷するおそれがあるので、

- 二柱式安全フレームを外して使用しないこと。
- シートベルトは必ず装着すること。

警告

火気厳禁

火災や爆発により死傷するおそれがあるので、

- 給油時にはエンジンを停止すること。
- 給油口に火を近づけないこと。

警告

転倒や転落により死傷するおそれがあるので、

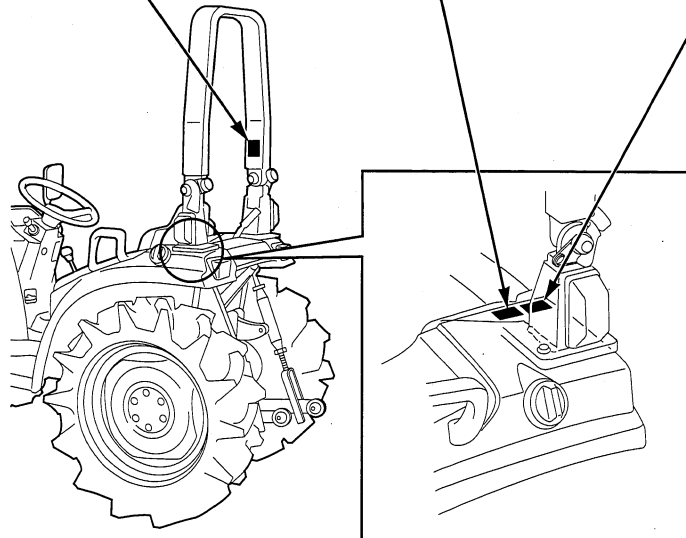
- 運転時は安全フレームを立て確実にロックし、シートベルトを装着すること。
- 納屋の出入等安全フレームを折って使用する場合は、周囲の安全を確認し、シートベルトは着用しないこと。

警告

- けん引にはけん引ヒッチを使用のこと。
- 転倒し死傷するおそれがあるので、車軸やトップリンクをけん引には使用しないこと。

警告

- 回転中のPTO軸にふれるとケガをすることがあるので、近づかないこと。
- PTO軸を使用しない時は必ずカバーを付けること。



小型特殊自動車について

この商品は、道路運送車両法により小型特殊自動車として、運輸大臣の型式認定の認可を受けております。

公道を走る可能性がある場合は、下記事項に従ってください。

●小型特殊自動車の届出とナンバープレートの取付けについて

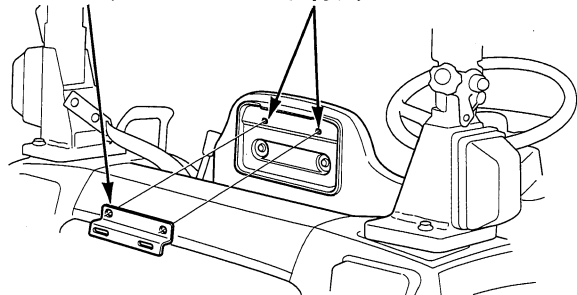
新たに小型特殊自動車の所有者となられた方は、市町村税条例により、市町村役場に届出、ナンバープレートの交付を受けなければなりません。（手続きは市町村により多少異なりますので詳細は、お買いあげ販売店へお申しつけください。）

1. 小型特殊自動車取得の証明書に軽自動車税を添えて市町村役場に届出てください。届出が済むとナンバープレートが交付されます。
2. ナンバープレートをナンバープレート取付穴に

取付けてください。

ナンバープレート
ブラケット

ナンバープレート
取付穴



市町村役場に小型特殊自動車を申請する時に必要な諸元は下記の通りです。

車名	: ホンダTX18	TX20・22
型式及び年式	: TAAD	TABD
原動機の型式及び機関番号	: GRA-0000000	GRB-0000000
車体番号	: TAAD-0000000	TABD-0000000
総排気量又は定格出力	: 1,061cm ³	1,235cm ³
型式認定番号	: 農1747	農1748

●運転免許について

公道を走行する場合は、小型特殊自動車の運転可能な運転免許証が必要です。必ず携帯してください。

●自動車損害賠償責任保険のお勧めについて

万一の交通事故補償に備え自動車損害賠償責任保険、任意保険に加入されることをお勧めします。

●小型特殊自動車とは

農耕作業用自動車の場合、車体の全長4.7m以下、全幅1.7m以下、全高2m以下、最高速度15km/h以下、原動機の総排気量1500cc以下の構造を有する車であり、このうち一つでも条件が満足しないと大型特殊自動車扱いとなりますので、次のようなことには特にご留意してください。

1. 認定を受けたエンジン以外を搭載して公道を走行することはできません。
2. 認定時の構造を変更した状態では公道を走行することはできません。
3. 作業機を装着したまま公道を走行することはできません。

フレーム号機とエンジン号機

サービスについてのお問い合わせや部品などご用命のときは、フレーム号機とエンジン号機をお買いあげ販売店へお知らせください。

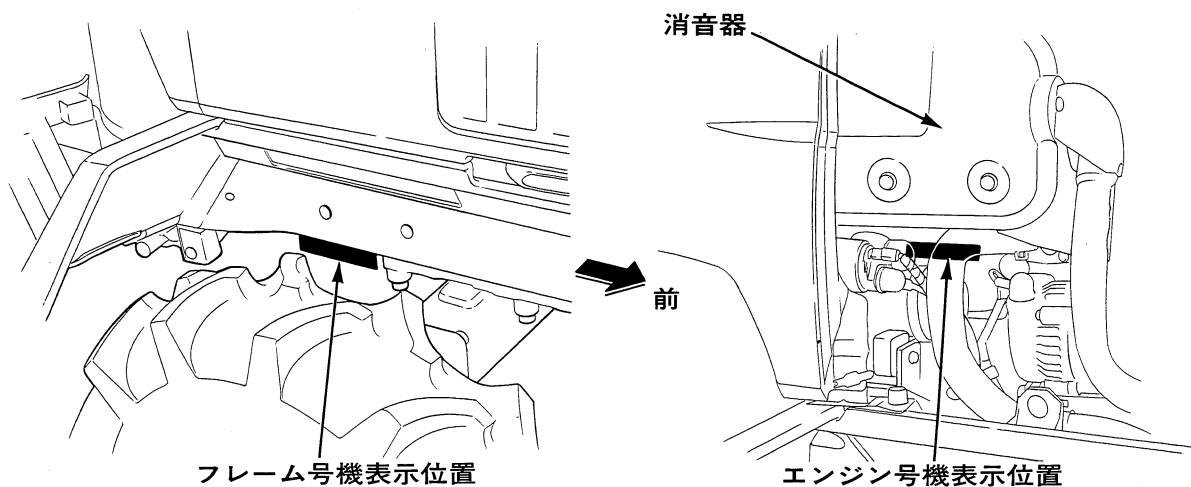
フレーム号機は右側、前輪の横のフレームに表示されています。

エンジン号機はボンネットを開けると右側、マフラ(消音器)の下側エンジン本体に表示されています。

ご参考のために、ここに番号を記入しておかれると便利です。

フレーム号機 No. _____

エンジン号機 No. _____

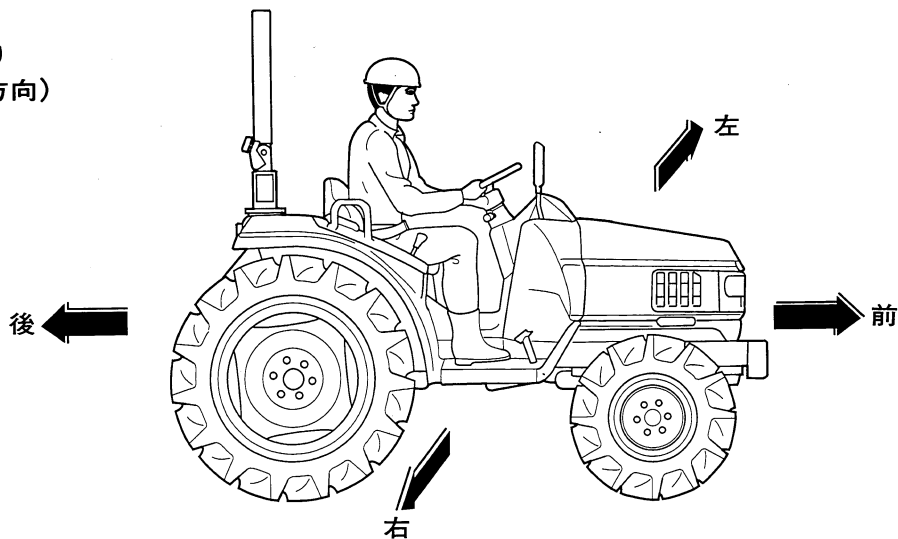
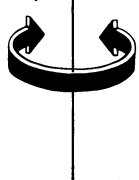


方向

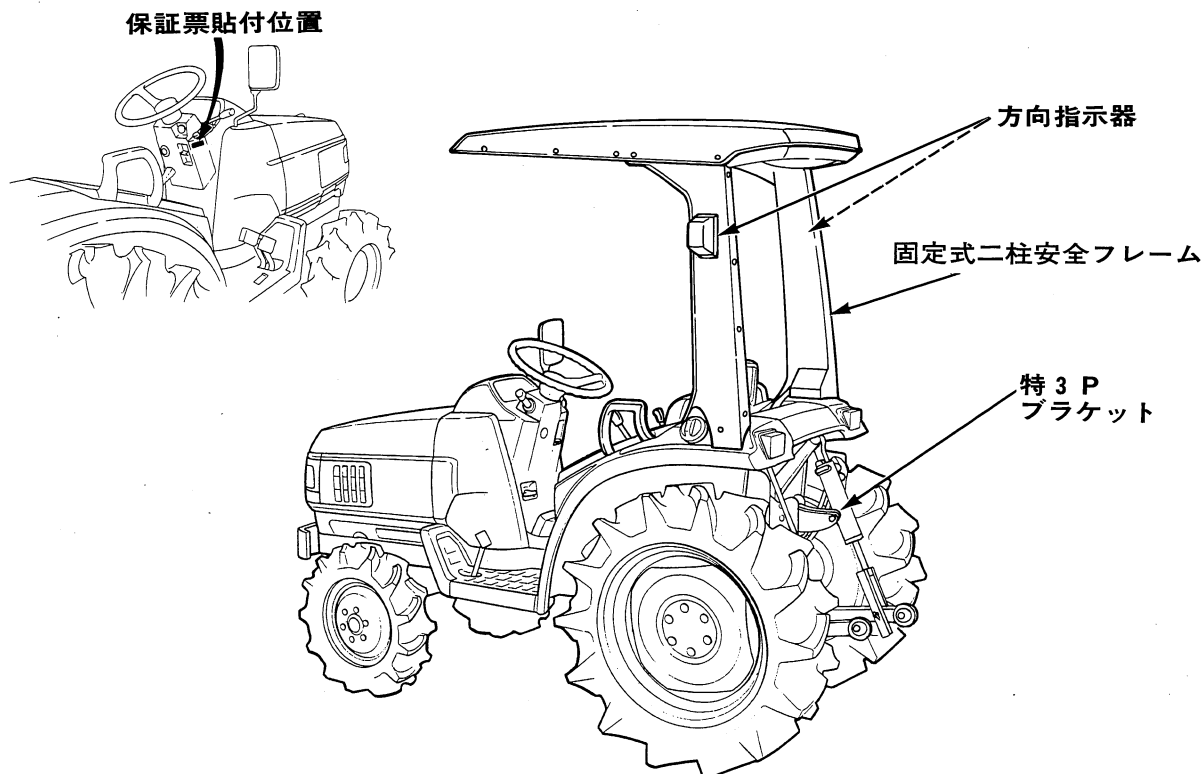
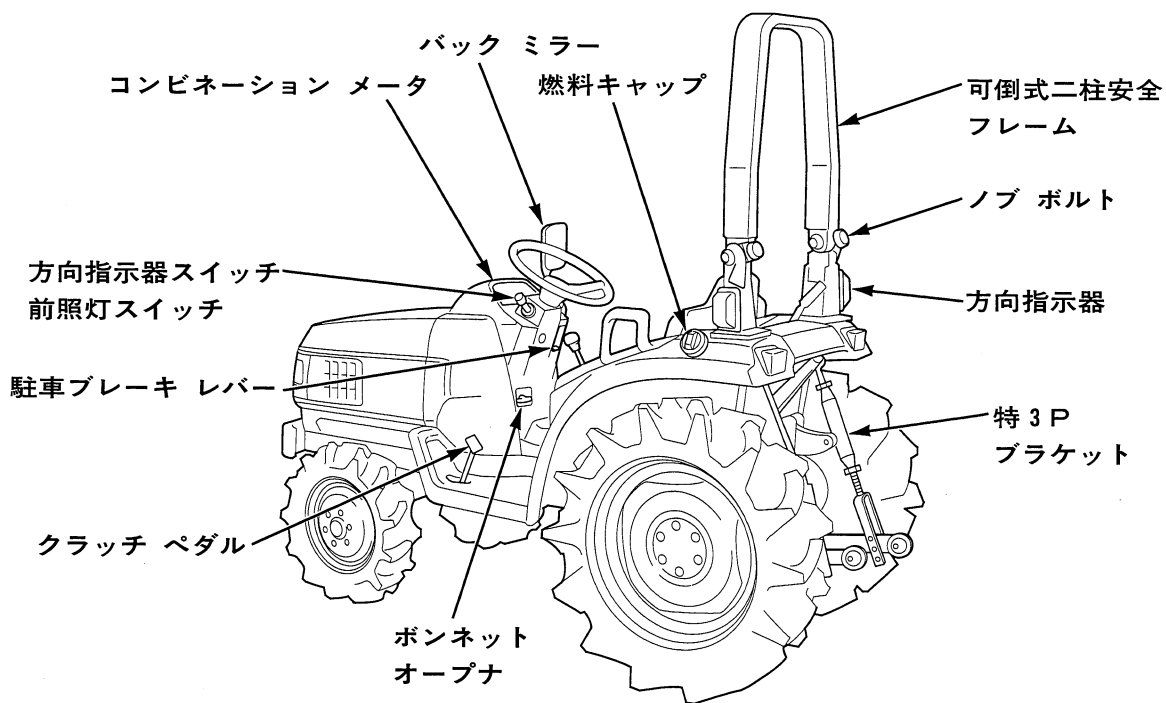
この取扱説明書で使用している《前後・左右・右回り・左回り》などの用語は下の図のようになっています。

右回り
(時計方向)

左回り
(反時計方向)

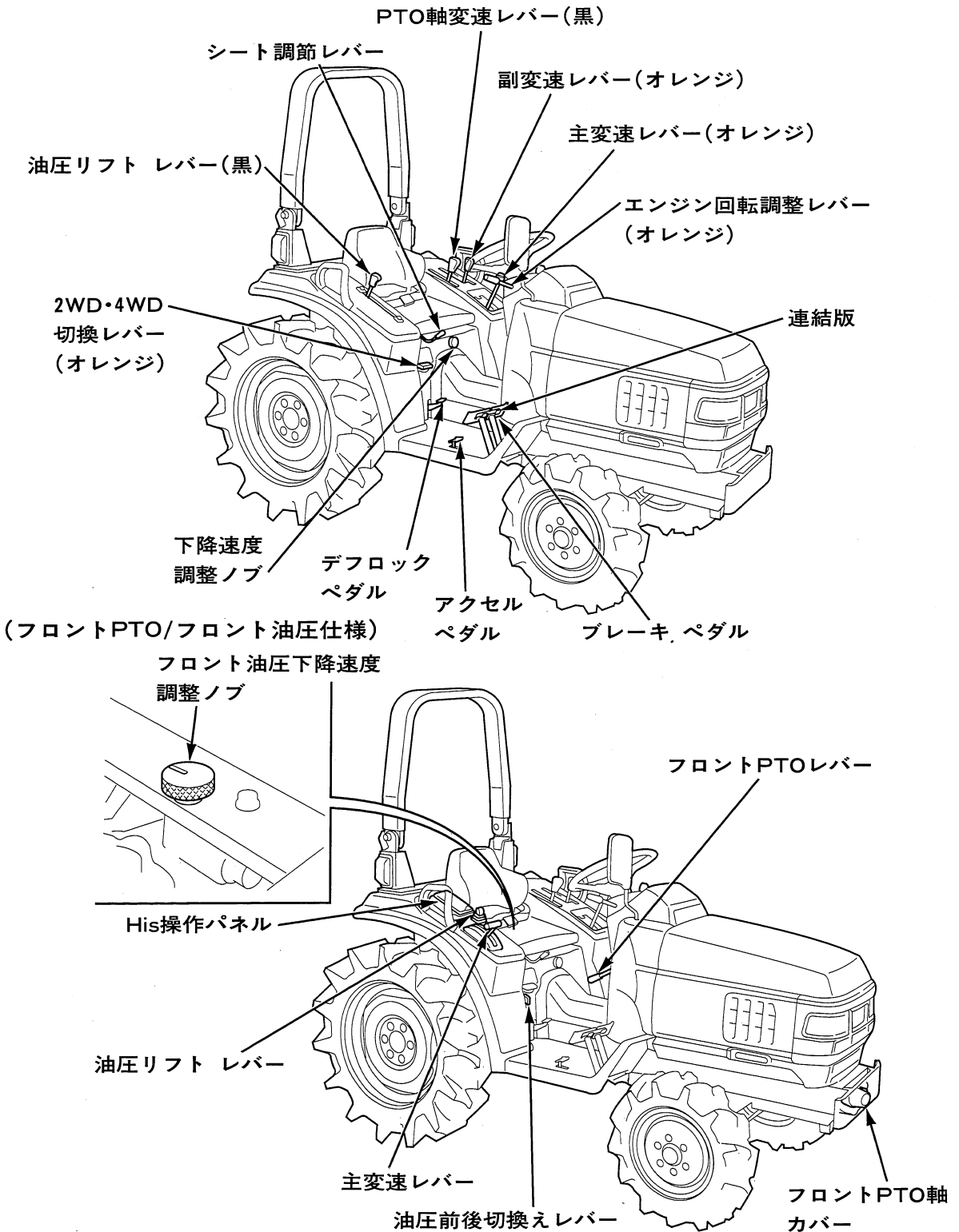


各部の名称と取扱いをおぼえましょう

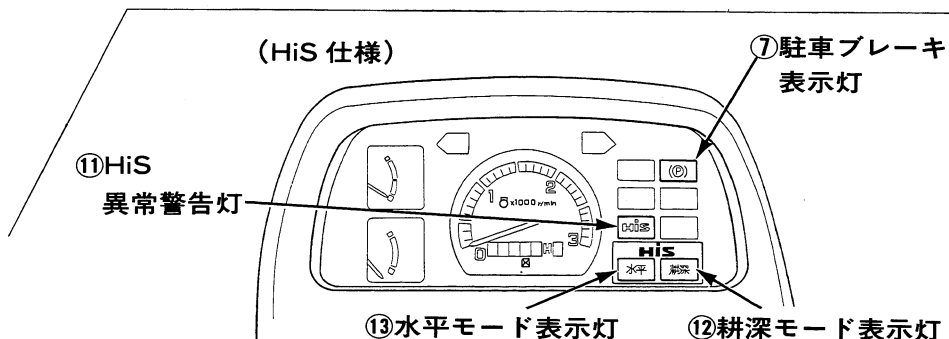
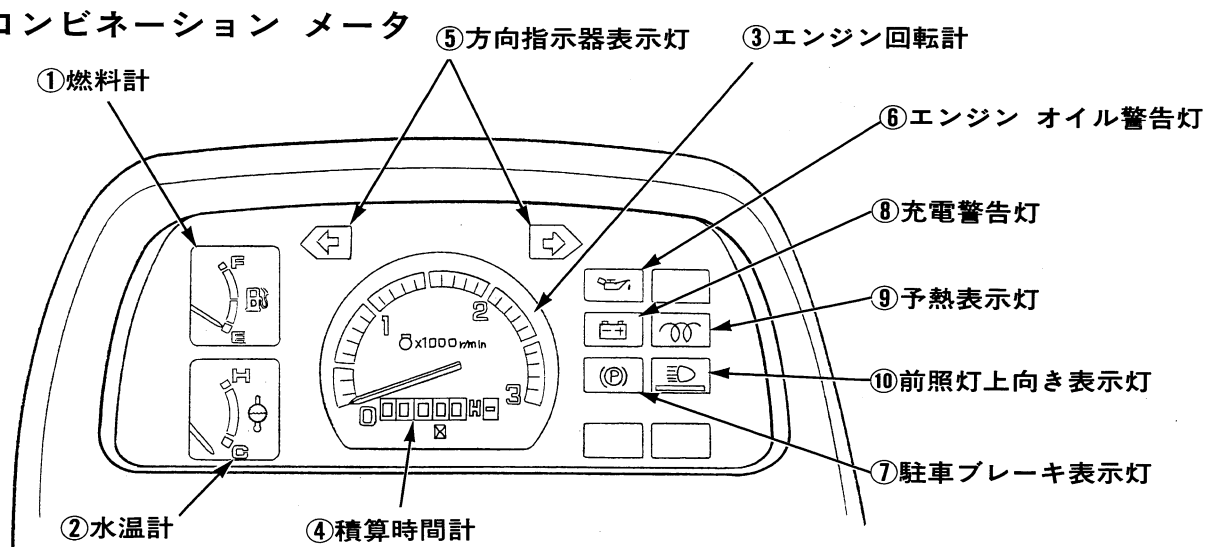


(固定式二柱安全フレーム仕様)

(操作レバーは走行系はオレンジ色、作業機系は黒色に色わけされています。)



コンビネーションメータ

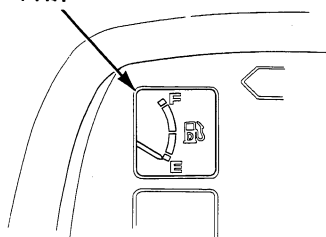


1. 燃料計

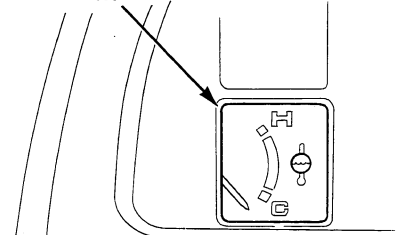
燃料タンク内の燃料の量を表示します。

燃料計の針はエンジンスイッチを切っても残量を表示します。しかし燃料を補給するときや正確な量を知りたいときは、エンジンスイッチを“運転”の位置にしてください。

燃料計



水温計



2. 水温計

ラジエータ液(冷却水)の温度を示します。

運転中はメータの針が中央付近を指すのが正常です。

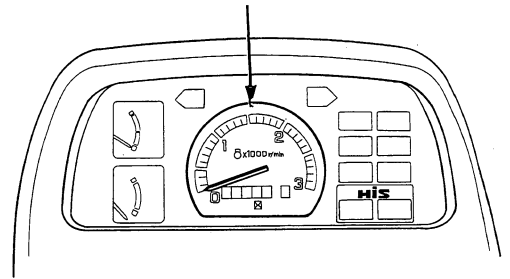
取扱いのポイント

万一、指針が赤いマーク(H)に入った場合はオーバヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所へ移動し、エンジンを冷やしてください。オーバヒートしたときの処置は故障診断(121頁)を参照してください。

3. エンジン回転計

1 分間あたりのエンジン回転数を示します。

エンジン回転計



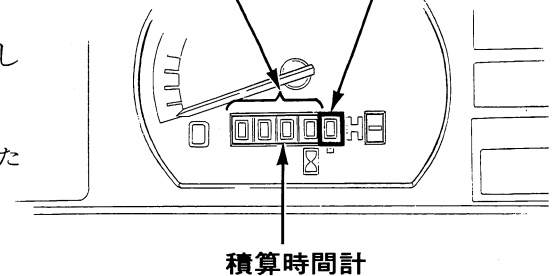
4. 積算時間計

トラクタの使用時間を示します。

左から 4 桁は時間を、最後の 1 桁は 1/10 時間を示します。

(積算時間計はエンジン回転約 2,150rpm で 1 時間使用した場合を基準にしています。)

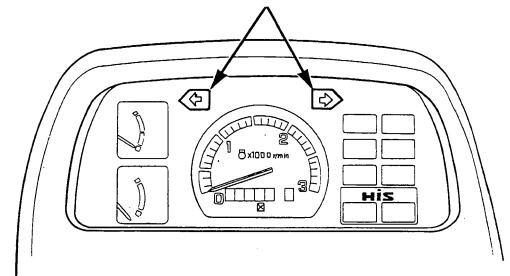
時間表示 分表示



5. 方向指示器表示灯

方向指示器スイッチを操作すると点滅します。

方向指示器表示灯

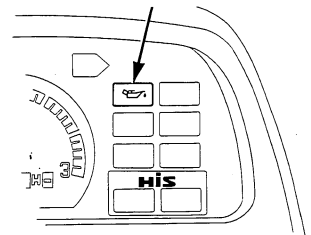


6. エンジン オイル警告灯

エンジン オイルが不足していたりエンジンの潤滑システムに異常があると点灯します。

エンジン スイッチを“運転”の位置にすると点灯し、エンジン始動後消灯すれば正常です。

エンジン オイル警告灯

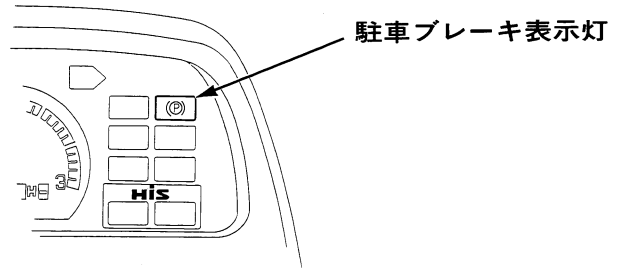


取扱いのポイント

- エンジン回転中に点灯した場合は、ただちに安全な場所に停車してエンジンを止め、エンジン オイル量を点検してください。(58頁参照)
- エンジン オイルが減っていないのに点灯しているときや、エンジン オイルを補給しても点灯するときは、ただちに買いあげ販売店へご連絡ください。
- 点灯したまま走行しないでください。エンジンが破損するおそれがあります。

7. 駐車ブレーキ表示灯

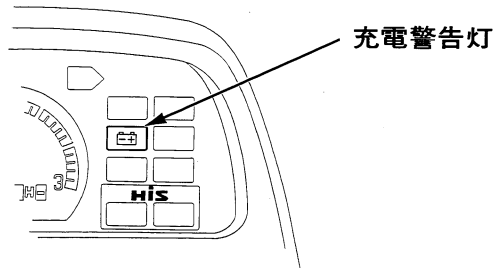
駐車ブレーキ レバーを押し下げると表示灯が点灯します。



8. 充電警告灯

エンジン運転中、充電系統に異常が発生した場合点灯します。

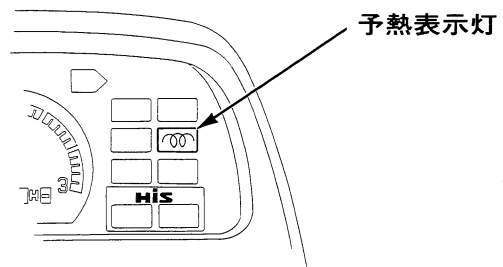
エンジン停止中、エンジン スイッチを“運転”にすると点灯し、始動後消灯すれば正常です。



9. 予熱表示灯

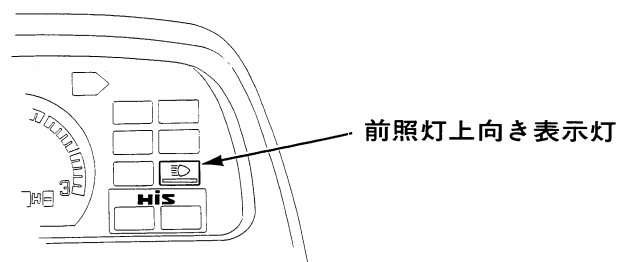
グロー プラグが予熱中であることを表示します。

エンジン スイッチを“運転”の位置にすると点灯し、予熱が終ると消灯します。



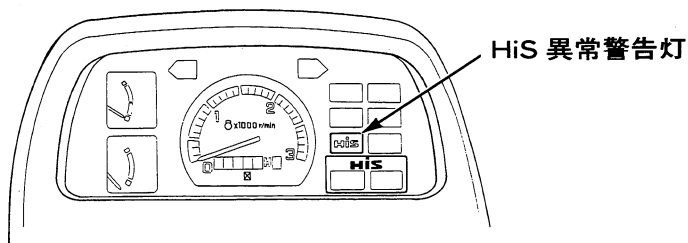
10. 前照灯上向き表示灯

前照灯スイッチを上向きにすると点灯します。



11. HiS異常警告灯(HiS仕様)

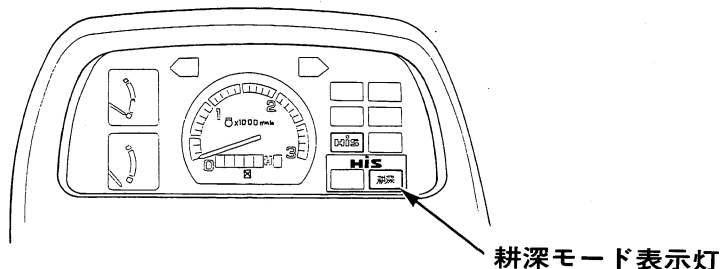
エンジン スイッチを“**運転**”の位置にすると点灯し、エンジンを始動すると消灯すれば正常です。HiSモード切換つまみを“**非常**”の位置にしたとき、またはHiS装置に異常が発生すると点灯します。



12. 耕深モード表示灯(HiS仕様)

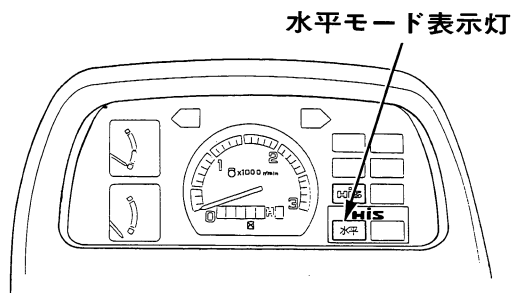
HiSモード切換つまみを“**耕深**”または“**水平・耕深**”の位置にし、エンジン スイッチを“**運転**”の位置にすると点灯します。

エンジンを始動し、油圧リフト レバーを一度下降側にいっぱい倒すと点滅から点灯にかわります。一度点灯(耕深制御状態)にかわると、レバーを操作しても点灯しつづけます。

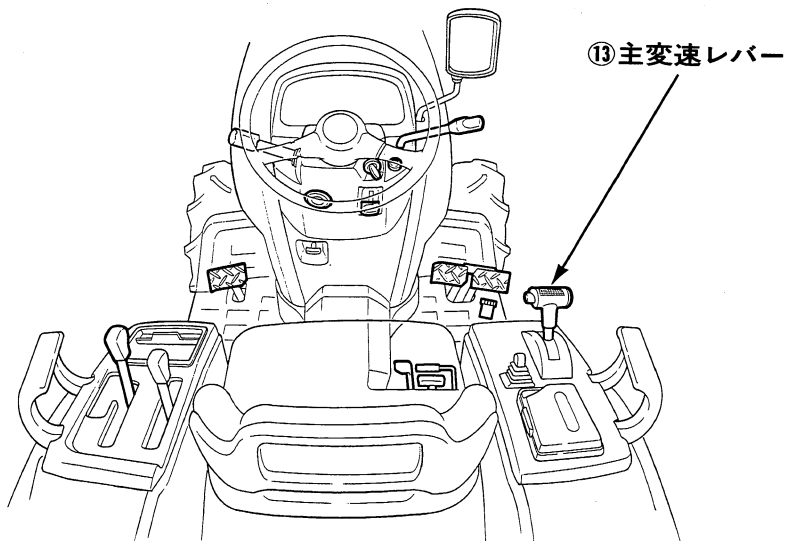
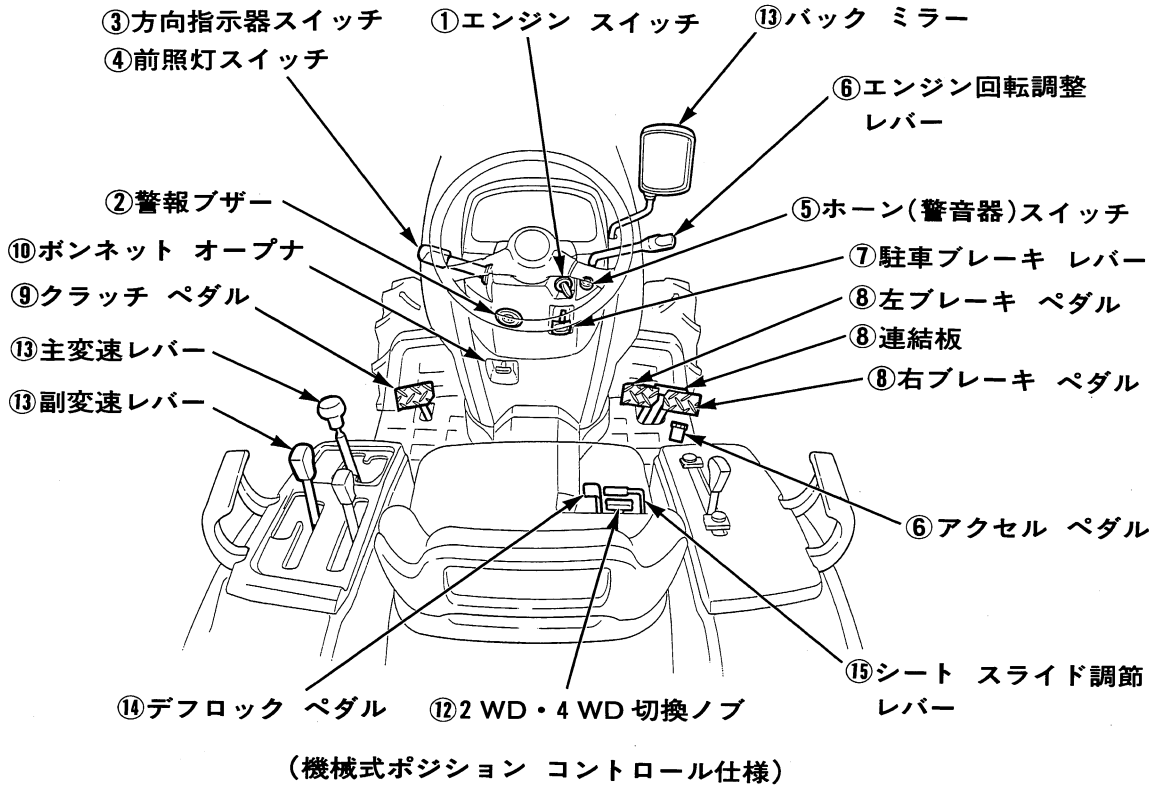


13. 水平モード表示灯(HiS仕様)

HiSモード切換つまみを“**水平**”または“**水平・耕深**”の位置にし、エンジン スイッチを“**運転**”の位置にすると点灯します。エンジン始動後もモードが“**水平**”、“**水平・耕深**”の位置になっていれば点灯しつづけます。



走行装置



(EST・HiS仕様)

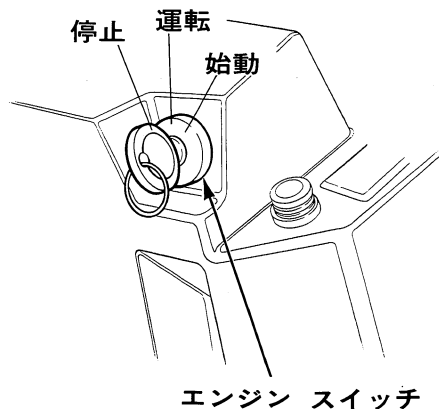
1. エンジン スイッチ

エンジンを“始動”、“運転”、“停止”するために使用します。

始動—エンジンを始動させる
ときこの位置まで回わ
します。セルモータが
回ります。

運転—エンジン運転中の位置
です。各電気系統が
つなげられます。

停止—エンジンを停止する位
置です。(キーの抜き取
り位置)



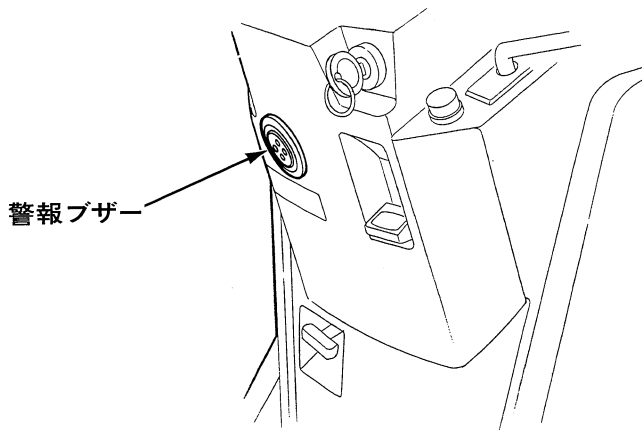
取扱いのポイント

始動するときは、クラッチペダルをいっばいに踏み込まないとセルモータは回転しない構造になっています。EST仕様は主変速レバーを“N”の位置にしてクラッチペダルを踏み込まないとセルモータは回転しません。

2. 警報ブザー

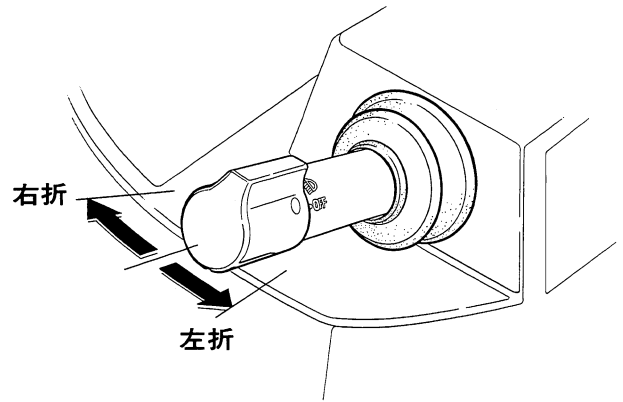
駐車ブレーキ戻し忘れ防止のために付いています。

駐車ブレーキをロックした状態で、エンジンスイッチが“運転”、又は“始動”の位置にあり主変速レバーが“N”以外の位置になっているとブザーが鳴ります。





3. 方向指示器スイッチ

スイッチを前に押しと右側、引くと左側の方向指示器が点滅します。

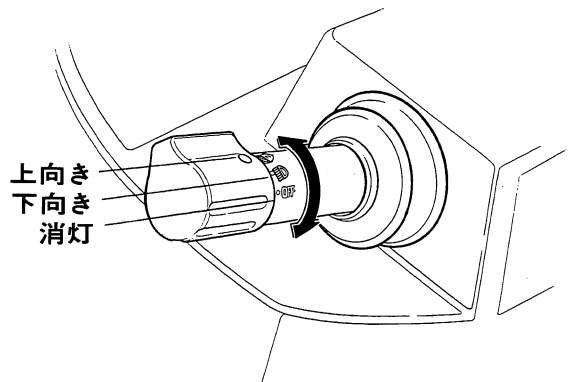


4. 前照灯スイッチ

 上向き照射位置
(コーナ ランプも同時点灯)

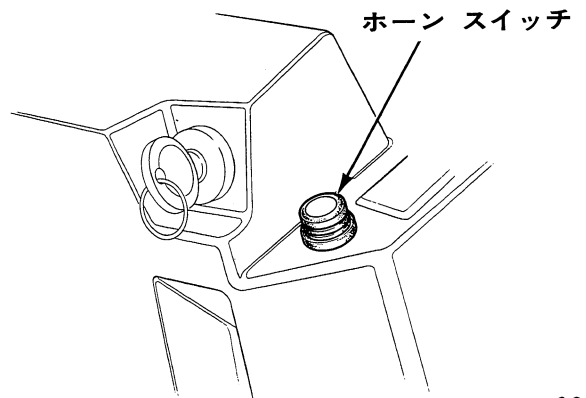
 下向き照射位置
(コーナ ランプも同時点灯)

OFF 消灯位置



5. ホーン(警音器)スイッチ

スイッチを押すとホーンが鳴ります。



6. エンジン回転調整レバーとアクセル ペダル

アクセル ペダルは回転調整レバーと連動しています。

○エンジン回転調整レバー……………主に農作業時に使用します。

(任意の位置で固定できます。)

○アクセル ペダル ……………主に道路走行時に使用します。

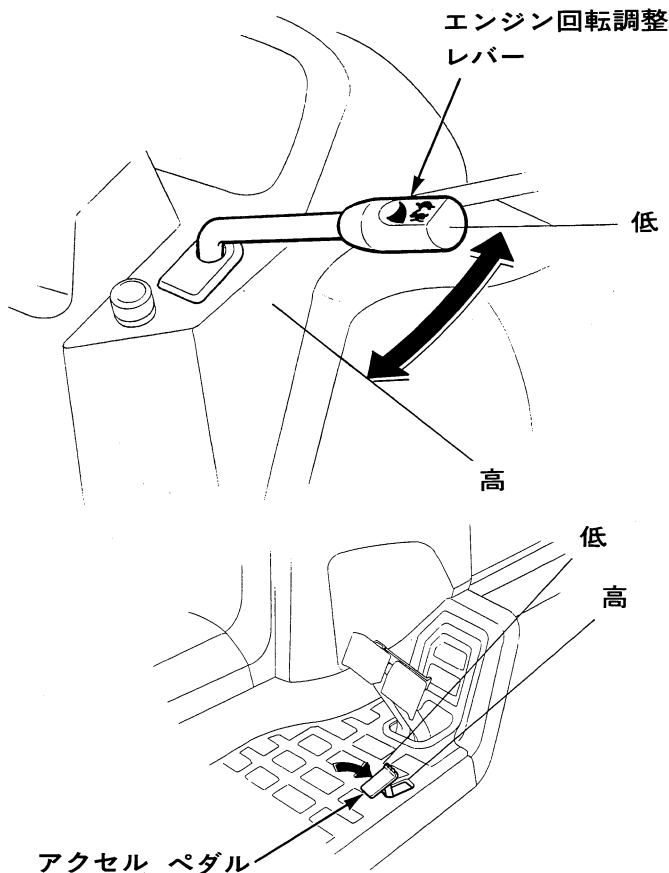
- ・ペダルを踏み込むと……………エンジン回転が上がります。
- ・ペダルから足を離すと……………エンジン回転調整レバーのセットしてある位置まで戻ります。
- ・道路走行または移動時にはエンジン回転調整レバーを“低”の位置に戻してアクセルペダルを使用してください。

⚠注意

道路走行または移動時にはエンジン回転調整レバーが“低”の位置になっていないと、アクセルペダルを離してもエンジン回転が下らず事故になる場合があります。

取扱いのポイント

道路走行または移動時には、エンジン回転調整レバーは使用しないでください。

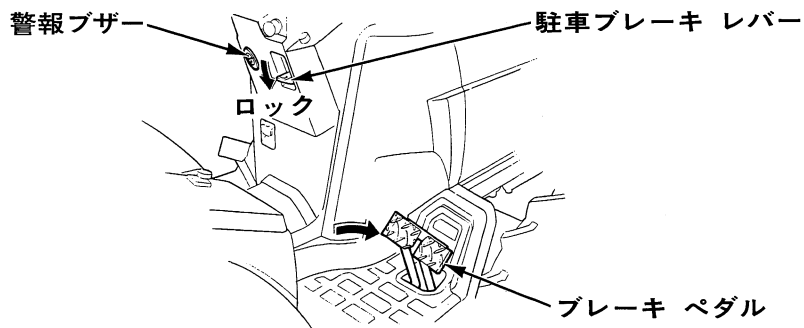


7. 駐車ブレーキ レバー

本機を駐車するときに使用します。

1. ブレーキ ペダル左右連結状態で強く踏み込み、駐車ブレーキ レバーを押し下げます。
2. 駐車ブレーキ レバーを押し下げたまま、ブレーキ ペダルを離せばロック (駐車) します。解除するときは、ブレーキ ペダルを踏んでください。レバーは自動的に戻ります。

- 駐車ブレーキ レバーを戻し忘れると、ブザーが鳴り警報します。(38頁参照)



8. ブレーキ ペダル

本機を停止させるときに使用します。自動車と異なり作業時の必要に応じてブレーキを片輪だけにかけることもできます。

2WD・4WD切換ノブを2WDの位置にすると後輪だけブレーキがききます。ノブを4WDの位置にすると前輪と後輪にブレーキがききます。

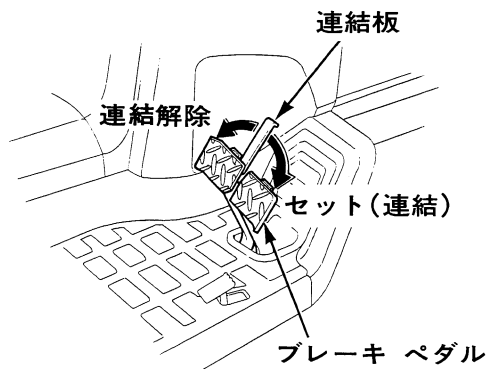
〔連結板〕

左右を連結したとき……………道路走行時

連結板を外したとき……………農作業時 (片ブレーキ旋回用)

⚠ 警告

- 道路走行中や登り坂、下り坂および畦の乗り越え中は、左右のブレーキ ペダルを必ず連結してください。
- 道路走行中に片ブレーキを踏むと車体がふられ、転倒などの事故になる場合があります。



9. クラッチ ペダル

エンジンの動力を走行装置、PTO軸に断続させるペダルです。

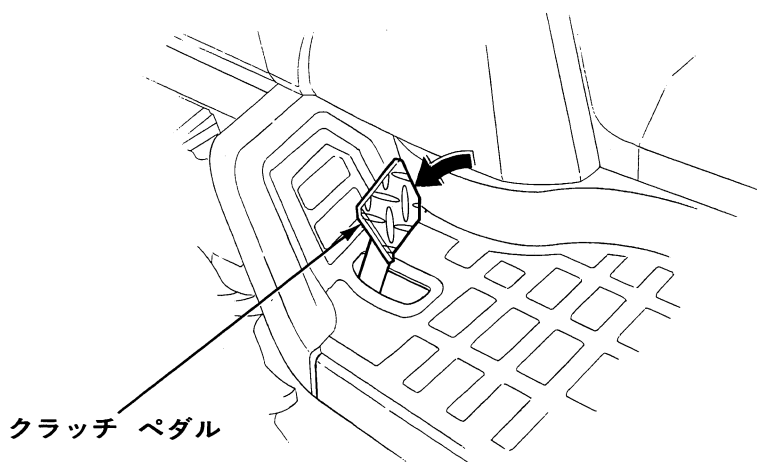
クラッチ ペダルを操作するときはいっぱいに踏み込んでください。

ペダルを踏み込むと……………クラッチが切れます。

ペダルから足を離すと……………クラッチがつながります。

取扱いのポイント

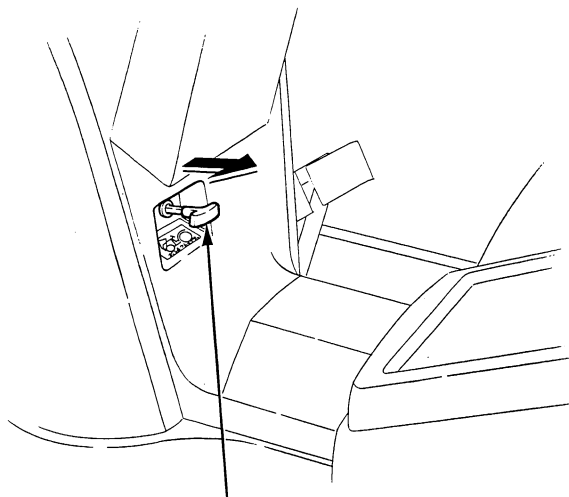
始動するときは、クラッチ ペダルをいっぱい踏み込まないとセルモータは回転しない構造になっています。



10. ボンネット オープナ

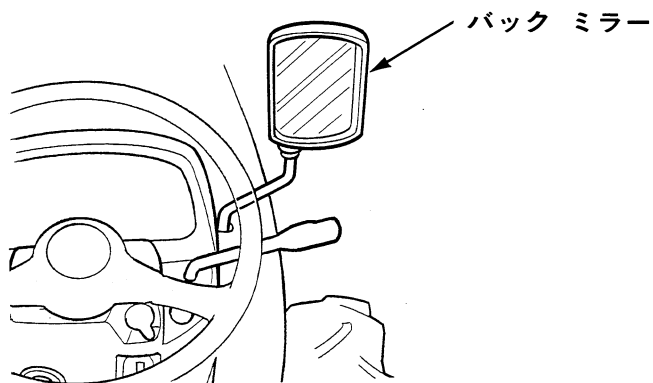
ボンネットを開くときに使用します。

ノブを引くとボンネットのロックが解除されます。



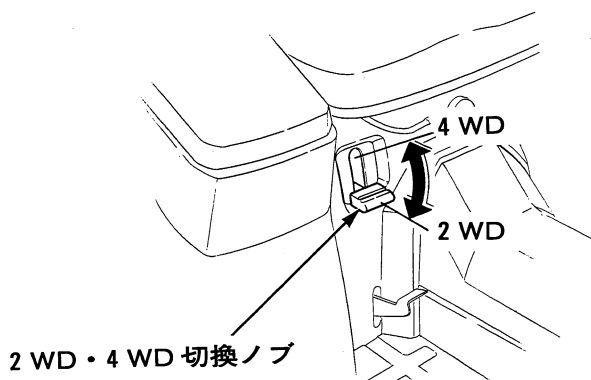
11. バック ミラー

後方視界が十分確認できる位置に調整してください。



12. 2WD・4WD(2輪駆動・4輪駆動)切換ノブ

切換ノブを操作(上、下)することにより4WD/2WDの走行が選択できます。



2WD： 後輪 2 輪で駆動します。

主に道路走行、移動時に使用します。

4WD： 前輪、後輪 4 輪で駆動します。

主に農作業時に使用します。

- ・ロータリ耕うん時(通常ほ場、硬いほ場)
- ・傾斜地、スキ作業等のけん引力を必要とする場合
- ・湿田での作業
- ・ほ場への出入、畦越え

・ 4WDの使いかたについては必ず92頁をよく読んでご使用ください。

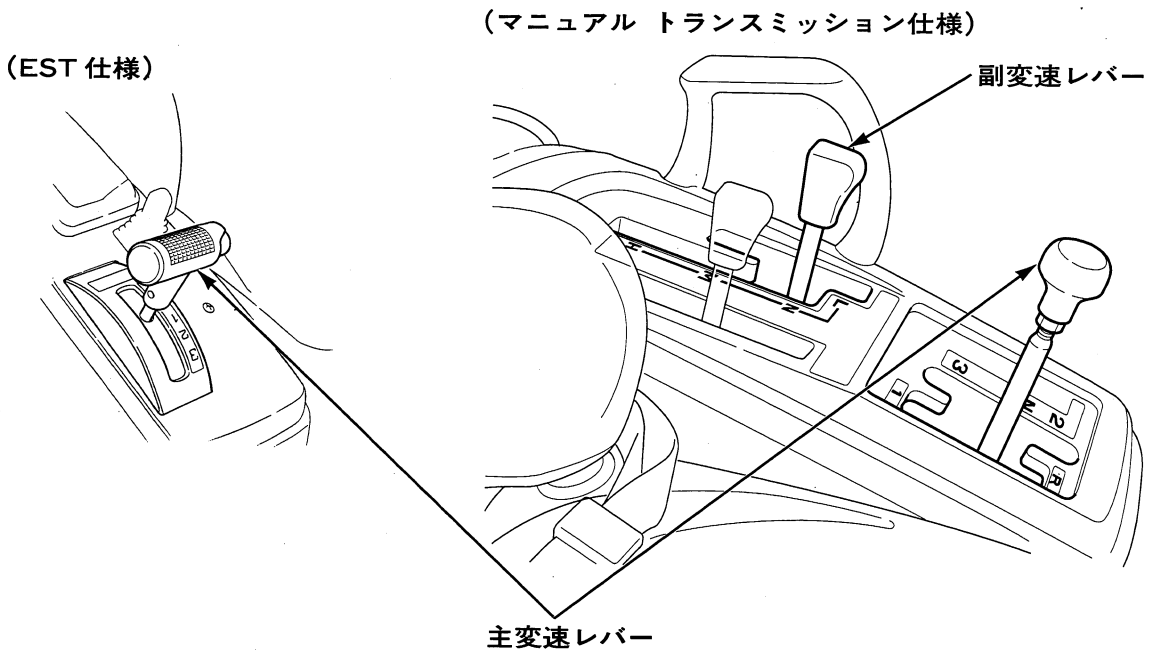
13. 主変速レバー、副変速レバー

主変速レバー、副変速レバーを操作することにより前進9段、後進3段の変速ができます。

SL(超低速)仕様は前進12段、後進4段の変速ができます。SLの使いかたについては91頁を参照してください。

取扱いのポイント

- 変速レバーを操作するときは本機を停止させ、必ずクラッチペダルを踏み込んだ状態で行ってください。
- EST仕様は走行中にクラッチペダルを踏み込まずに主変速レバーを操作することができます。ただし副変速機が“H”(高速)の位置にあるときは、クラッチペダルを使って発進、変速を行ってください。
- 低速度(SL、L、M)では車軸の回転力が大変強くなり、ブレーキペダルだけを強く踏んでもブレーキはきかず、本機を破損するおそれがあります。必ずクラッチペダルを踏んでからブレーキペダルを踏んでください。



14. デフロック ペダル

⚠ 警告

道路走行時は、デフロックを使用しないでください。ハンドル操作ができなくなりコントロールを失ったり転倒するおそれがあります。

左右の後輪を同じ回転速度で駆動させる装置です。

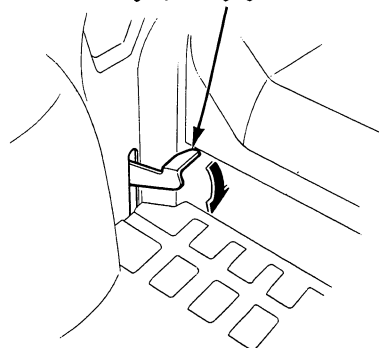
スリップ防止に効果があります。

ペダルを踏むと……………踏み込んでいる間はデフロックが作動し左右の後輪が同じ回転で駆動されます。

ペダルから足を離すと……デフロックが解除されます。

デフロックの使いかたについては93頁をよく読んでご使用ください。

デフロック ペダル



15. シート スライド調節レバー

シートの下の調節レバーを上げシートの位置を調節します。調節したあとシートが確実に固定されているか確認してください。

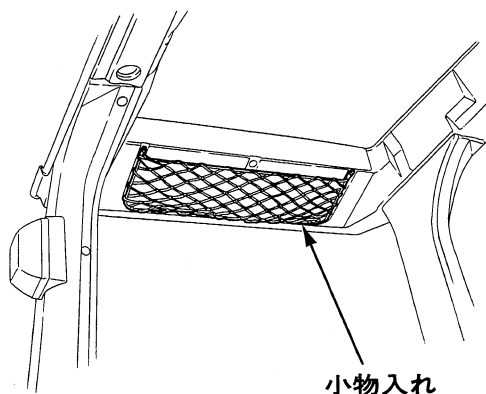


シート スライド調節レバー

16. 小物入れ(固定式二柱安全フレーム仕様)

固定式二柱安全フレーム仕様は、ルーフに小物入れが付いています。

重量物や落ちると危険なものは入れないでください。



小物入れ

17.安全フレーム

安全フレームは万一転倒した場合に事故の被害を軽減するもので、転倒事故を防止するものではありません。

⚠警告

- ・安全フレームを取外して運転しないでください。
- ・運転時は、常にシートベルトを着用してください。
- ・安全フレームを改造しないでください。
- ・安全フレームに破損や曲がりなどがあると強度が低下します。破損、曲がりなどが発生した場合はお買いあげ販売店で点検を受けてください。

●可倒式二柱安全フレーム

可倒式二柱安全フレームには、納屋の出入りなどで安全フレームが当たる場合に、ノブボルトをゆるめ安全フレームを倒すことができます。

⚠警告

- ・納屋の出入り等、安全フレームが当たる場合を除き、運転時はいつも安全フレームを立て、確実に固定し、シートベルトを着用してください。安全フレームを倒した状態では万一転倒した場合に安全フレームの役目をしません。また、安全フレームを倒したときはシートベルトを着用しないでください。
- ・安全フレームを倒したり、立てたりする場合は、平坦な場所で作業機を地面に降ろし、エンジンを停止し、さらに駐車ブレーキをかけてから行ってください。万一本機が動きだすと思わぬ事故の原因となります。
- ・安全フレームを立てたときはストッパを起しノブボルトを確実に締付け安全フレームを固定してください。ノブボルトが確実に締まっていないと、転倒したときに安全フレームが倒れ、安全フレーム本来の役目をしなくなります。

●倒しかた

本機を平坦な場所に駐車し、作業機を降ろします。本機が傾いているとストッパを外したときに急に安全フレームが倒れることがあります。

ノブボルトをゆるめてストッパを後方へ倒し、安全フレームを倒します。

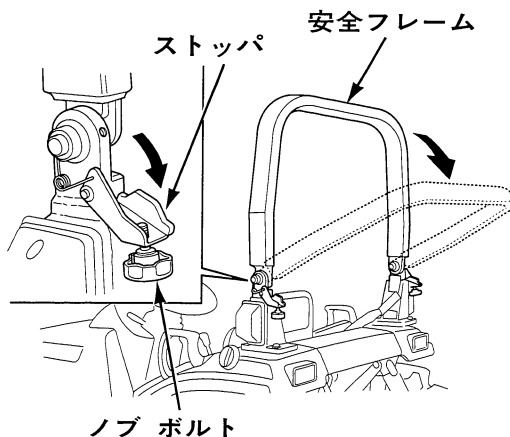
安全フレームは後方に約65°倒すことができます。

●立てかた

安全フレームを立て、ストッパを起してノブボルトを確実に締付けてください。

取扱いのポイント

ノブボルトの締付けがゆるいと安全フレームがガタつきノブボルトの破損の原因となります。



18. シート ベルト

⚠ 警告

運転時は必ずシートベルトを着用してください。可倒式安全フレームを折たたんだ状態ではシートベルトをしないでください。可倒式安全フレームは、倒した状態では安全フレームの役目をしません。

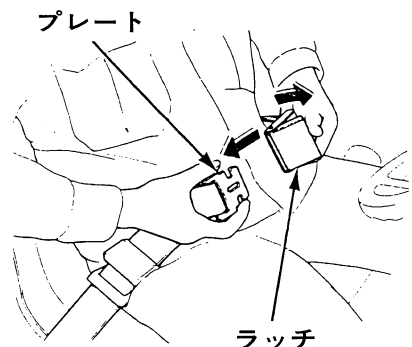
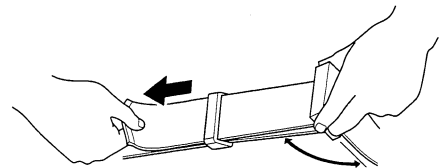
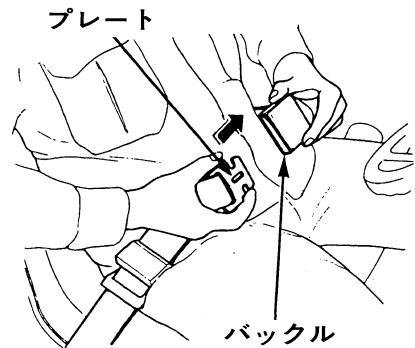
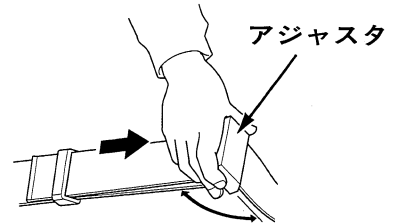
⚠ 注意

シートベルトは正しく着用していないと本来の機能をはたさず、転倒のときなどにけがをするおそれがあります。

- ・ベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置にぴったり密着させてください。
- ・ベルトが腰骨からずれていると腹部などに強い圧迫を受けます。
- ・ベルトがねじれないように着用してください。ねじれがあるとベルトの幅が狭くなり、局部的に強い力がかかります。

● 装着のしかた

1. アジャスタを図のように引いてベルトを必要な長さより少し長めにします。
2. シートベルトがねじれていたり、からんでいないか確かめて、バックルにカチッと音がするまでプレートを差し込みます。
3. シートに深くまっすぐ座ります。シートベルトが腰骨にかかるようにベルトの両端を片側ずつ引き、腰骨に密着し、バックルが中央にくるように長さを調整します。



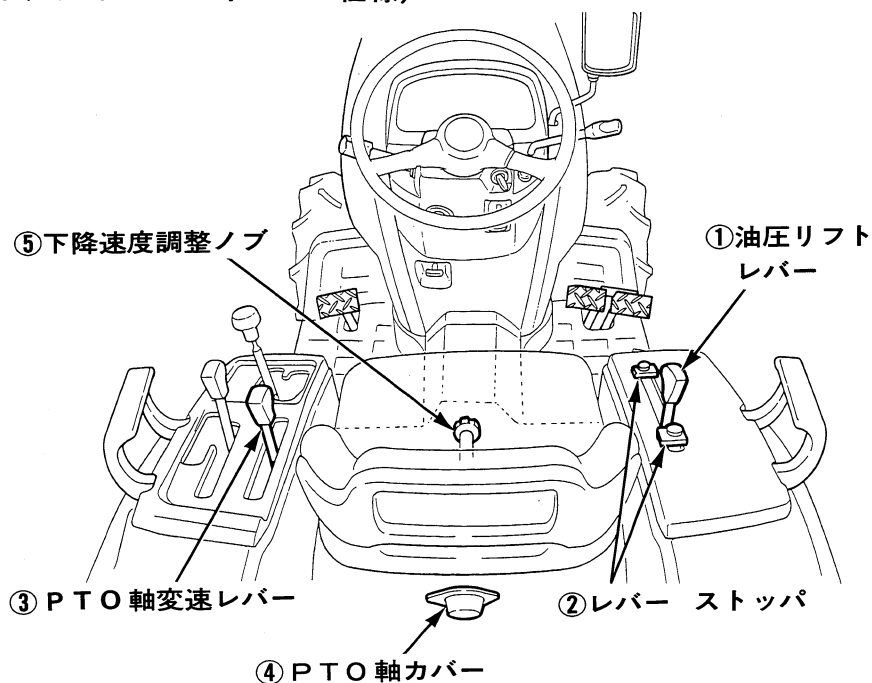
● 外しかた

シートベルトを外すときは、バックルのラッチを持ち上げ、プレートを引き抜いてください。

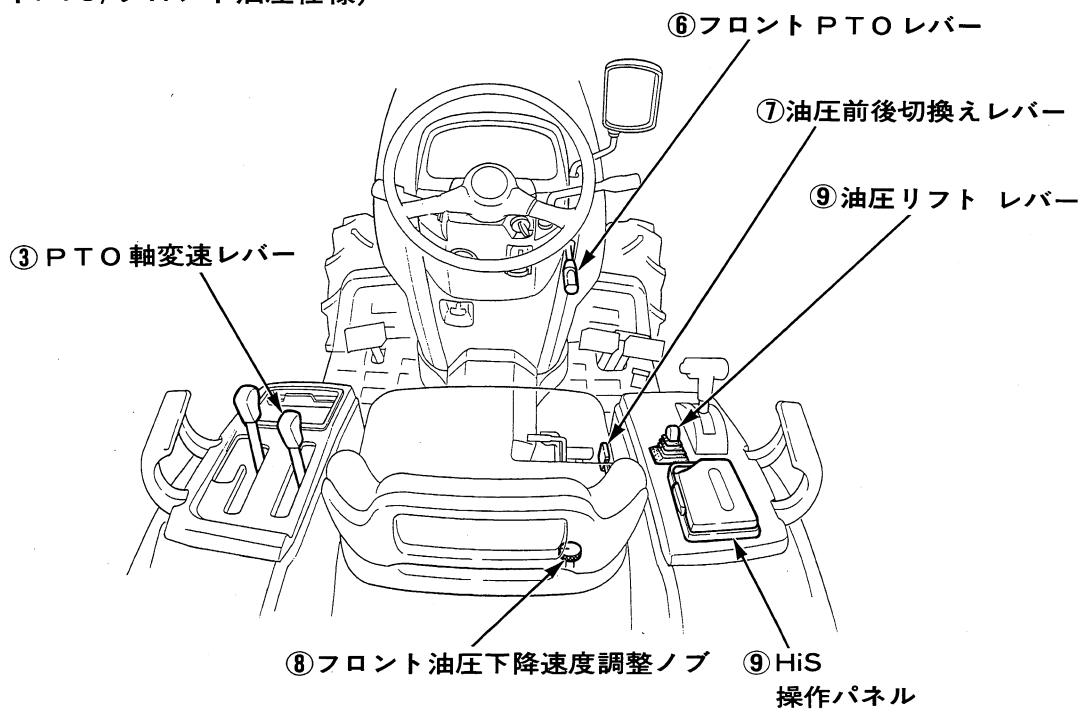
作業機操作装置

油圧装置はエンジン回転中、レバーを操作すると、クラッチの断続に関係なく作動します。

(機械式ポジション コントロール仕様)



(フロントPTO/フロント油圧仕様)



1. 油圧リフト レバー(機械式ポジション コントロール仕様)

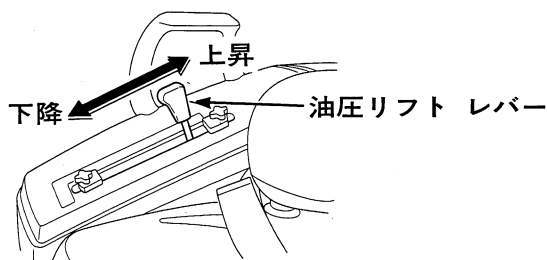
レバーを操作すると、作業機をレバーの位置に応じて任意の位置に“上昇”、“下降”させることができます。

“上昇”はエンジンが回転しているときだけ作動しますが、“下降”はエンジンが停止していても作動します。

⚠ 警告

リフトレバーを下降側に倒すと、エンジンが停止していても作業機は下降します。レバーを操作するときは周囲に十分注意してください。

作業機の下に人がいると、はさまれてけがをするおそれがあります。



2. レバー ストップ(機械式ポジション コントロール仕様)

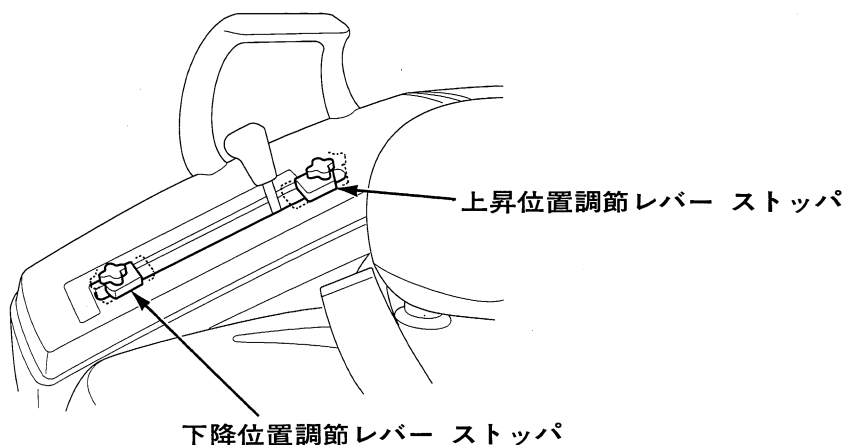
作業機の上昇、下降位置を規制します。

油圧リフト レバーで使用する作業機の上昇・下降位置を決め、その位置でレバー ストップを固定すれば、一定の作業位置が保たれます。

取扱いのポイント

作業機を交換したときは、上昇、下降位置を確認してください。

作業機の上昇位置が高すぎるとPTOユニバーサル ジョイントに無理な力がかかり、異音が発生します。

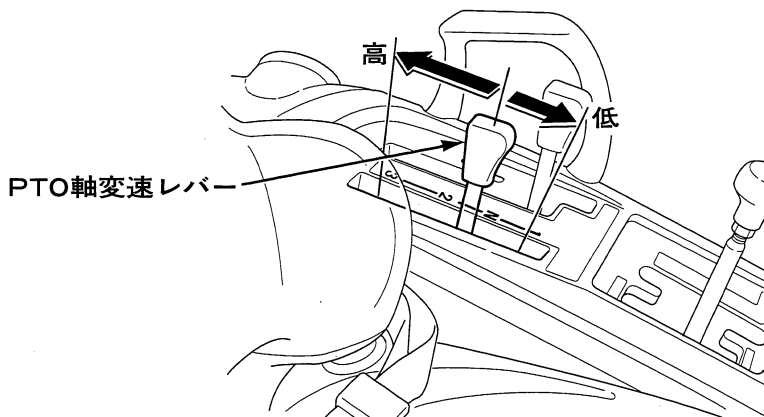


3. PTO軸変速レバー

リヤPTO(動力取り出し軸)の回転速度を3段階に変速できます。

取扱いのポイント

- 変速を行うときは本機を停止させ、必ずクラッチペダルを踏み込んでから行ってください。
- PTO軸を使用しないときは、PTO軸変速レバーを“N”の位置にしておいてください。

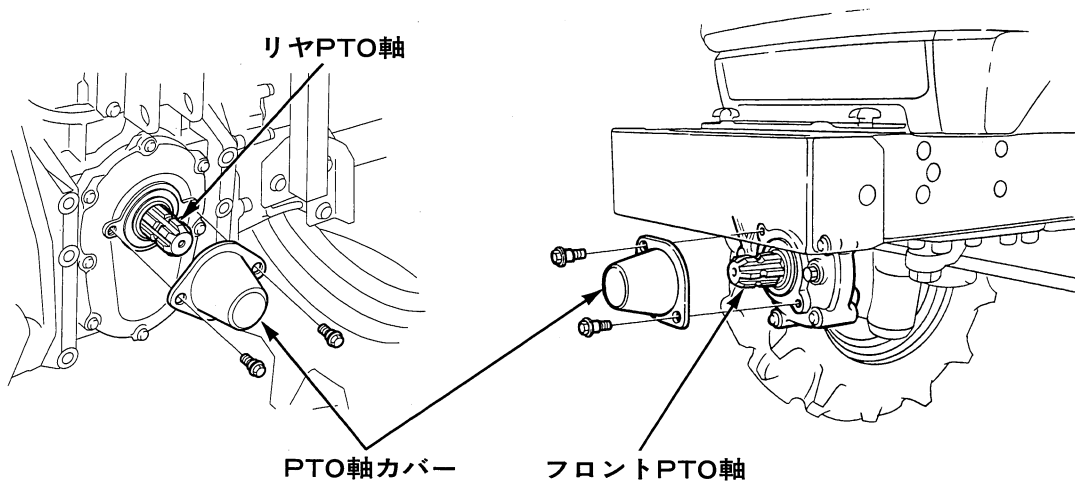


4. PTO軸カバー

⚠ 警告

PTO軸を使用しない時は必ずカバーを取付けてください。カバーを取付けないまま使用すると、PTO軸に巻込まれケガをするおそれがあります。

PTO軸を使用しないときは、防錆のためPTO軸にグリースを塗布し必ずカバーを取付けてください。



5. 下降速度調整ノブ

このノブを回すことによりリヤ作業機の下降速度を調整することができます(上昇速度は調整できません)。作業機を交換したときは、必ず下降速度の調整を行ってください。

“遅い”(右回り)に回すと……………下降速度が遅くなります。

“速い”(左回り)に回すと……………下降速度が速くなります。

右に止まるまで回すと……………下降しなくなります(点検、調整時使用します。)

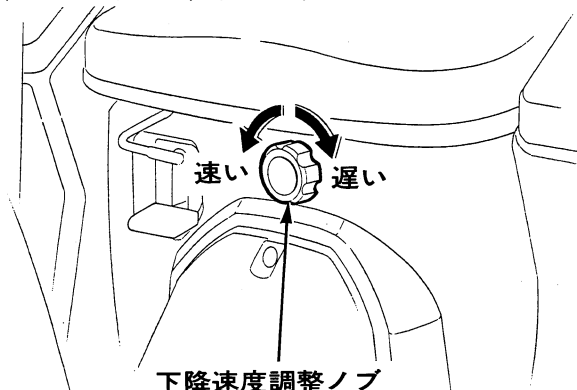
下降速度調整ノブは4～4.5回転します。右回りいっぱいに締めたあと、左に回すと少し遊びがあり、ノブが重くなった所から下降しはじめます。

・調整のしかた

- 1) ノブを一度右に止まるまで回します。
- 2) 作業機を最上位置まで上げます。
- 3) 油圧リフト レバーを下降位置にもどします。(作業機は下降しません。)

HiS仕様は油圧リフト レバーを下降側へいっぱい倒してください。(作業機は下降しません。)

- 4) ノブを徐々に“速い”(左回り)に回し、下降時間が最上位置から接地するまで1～2秒になるように調整します。



⚠ 警告

- ・調整、確認を行なうときは、周囲の安全に十分注意してください。
 - ・作業機を点検、調整するときは、作業機の急下降を防止するため、下降速度調整ノブを“遅い”(右回り)にいっぱい締めてください。HiS仕様はエンジンを始動し、油圧リフト レバーを下降側いっぱい倒して作業機が下らないことを確認したあと、エンジンを停止し点検、調整を行ってください。
- 機械式ポジション コントロール仕様はエンジンを停止したあと、油圧リフト レバーを“下降”の位置にして作業機が下らないことを確認し、油圧リフト レバーを最上昇位置にして点検、調整を行ってください。

取扱いのポイント

- ・下降速度は作業機の重量、周囲の温度によって変わります。
- ・調整ノブは一気にゆるめないでください。1/4回転ごとに確認してください。
- ・路上走行、格納時は下降速度調整ノブを“遅い”(右回り)いっぱい締めてください。

6. フロントPTOレバー

フロントPTO(動力取出し軸)を駆動、停止させるものです。

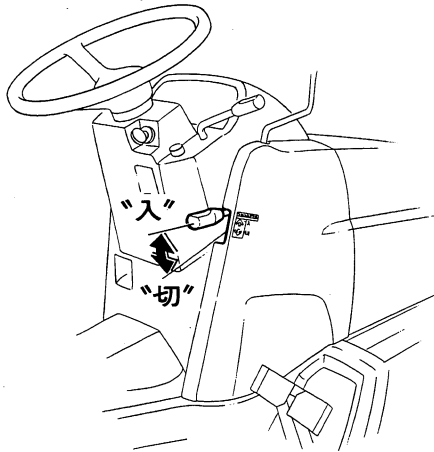
レバーを操作するときは、クラッチペダルをいっばいに踏み込んで行います。

レバー位置 “入” ……………フロントPTO軸が回転する。

レバー位置 “切” ……………フロントPTO軸が停止する。

取扱いのポイント

フロントPTO軸を使用しないときは、フロントPTOレバーを“切”にしておいてください。



7. 油圧前後切換えレバー

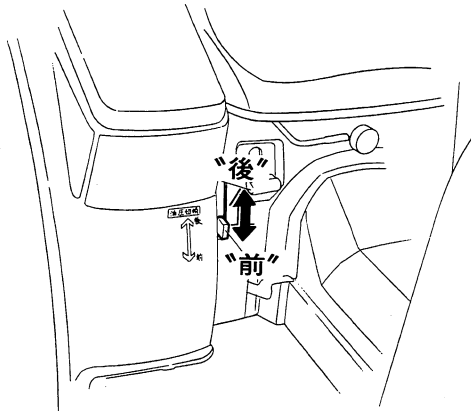
レバーを操作することにより、前側、後側の油圧切換えを行います。

レバー位置 “前” ……………フロント油圧が作動します。

レバー位置 “後” ……………リヤ油圧が作動します。

取扱いのポイント

- レバーは確実に切換えてください。途中の位置では前後とも昇降しなくなります。
- レバーの切換えは、作動が完全に終了してから行ってください。作動中は切換えを行わないでください。



8. フロント油圧下降速度調整ノブ

このノブを回すことにより、作動速度を調整することができます。

“遅い”（右回り）に回すと……………作動速度が遅くなります。

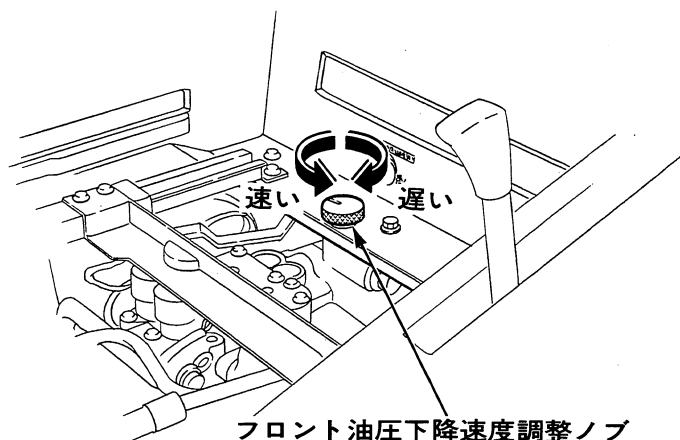
“速い”（左回り）に回すと……………作動速度が速くなります。

右に止まるまで回すと……………作動しなくなります。（点検、調整時に使用します。）

下降速度調整ノブは4～4.5回転します。右回りいっぱいに締めたあと、左に回すと少し遊びがあり、ノブが重くなった所から下降しはじめます。

・調整のしかた

- 1) ノブを一度右に止まるまで回します。
- 2) 油圧リフト レバーを上昇側いっばいに倒してください。
- 3) 油圧リフト レバーを下降側いっばいに倒してください。（油圧が作動しないことを確認してください。）
- 4) ノブを徐々に“速い”（左回り）に回し、作動時間が1～2秒になるように調整します。



⚠ 警告

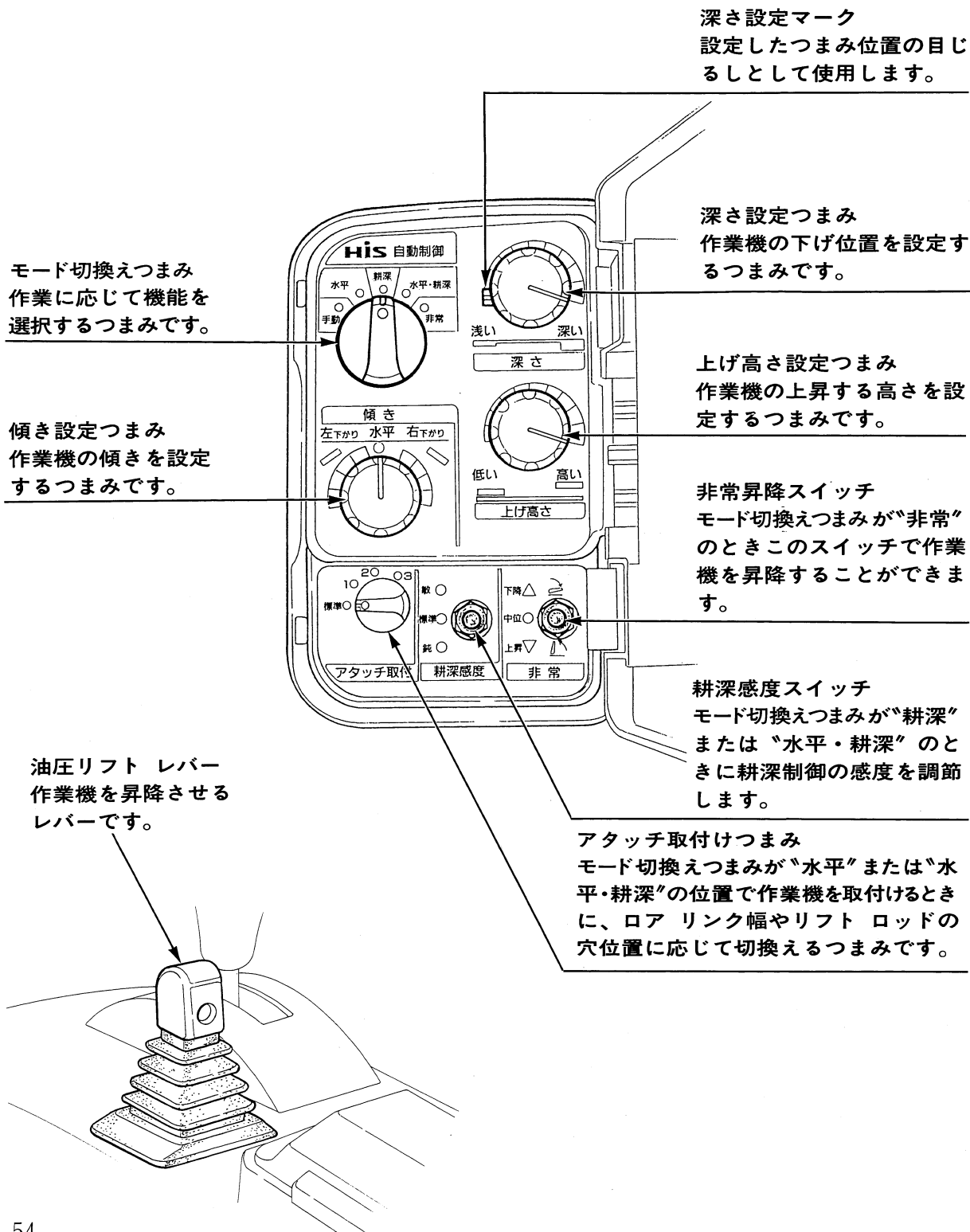
- ・調整、確認を行なうときは、周囲の安全に十分注意してください。
- ・作業機を点検、調整するときには、エンジンを停止し、作業機の急下降を防止するため下降速度調整ノブを“遅い”（右回り）いっばいに締め、油圧をロックしてください。油圧リフト レバーを“下降”の位置にして、作業機が下がらないことを確認してください。

取扱いのポイント

- ・下降速度は作業機の重量、周囲の温度によって変わります。
- ・調整ノブは一気にゆるめないでください。1/8回転ごとに確認してください。
- ・路上走行、格納時は下降速度調整ノブを“遅い”（右回り）いっばいに締めてください。

9. 操作パネル、油圧リフト レバー(HiS仕様)

操作の手順、使い方については78～90頁を参照してください。



深さ設定マーク
設定したつまみ位置の目じるしとして使用します。

深さ設定つまみ
作業機の下げ位置を設定するつまみです。

上げ高さ設定つまみ
作業機の上昇する高さを設定するつまみです。

非常昇降スイッチ
モード切換えつまみが“非常”のときこのスイッチで作業機を昇降することができます。

耕深感度スイッチ
モード切換えつまみが“耕深”または“水平・耕深”のときに耕深制御の感度を調節します。

アタッチ取付つまみ
モード切換えつまみが“水平”または“水平・耕深”の位置で作業機を取付けるときに、ロアリンク幅やリフトロッドの穴位置に応じて切換えるつまみです。

モード切換えつまみ
作業に応じて機能を選択するつまみです。

傾き設定つまみ
作業機の傾きを設定するつまみです。

油圧リフト レバー
作業機を昇降させるレバーです。

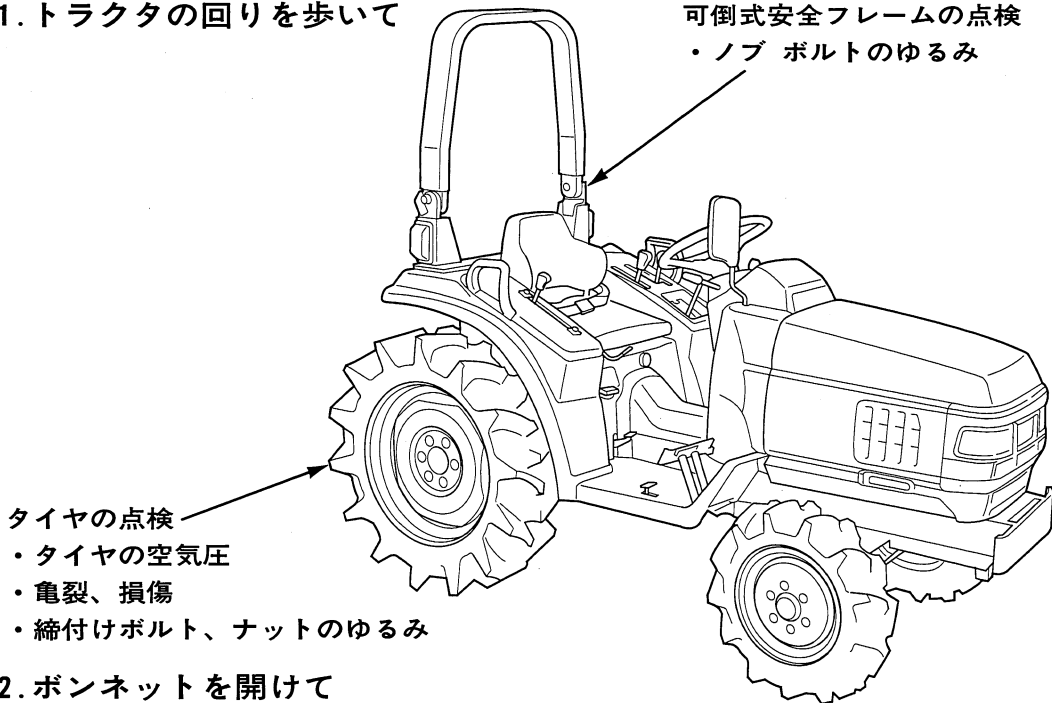
運転する前に点検しましょう

⚠ 警告

- 点検前に必ずエンジンを停止し、エンジン スイッチ キーを外してください。
- 点検は平坦な場所で本機を水平に行ってください。
- 作業機を完全におろし、下降速度調整ノブを“遅い”(右回り)いっぱい締め、油圧をロックしてください。

いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに行ってください。

1. トラクタの回りを歩いて

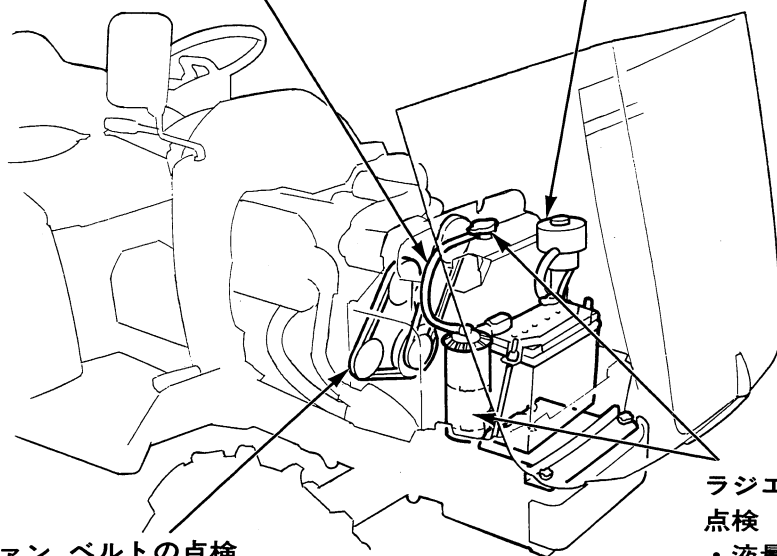


2. ボンネットを開けて



パワー ステアリング ベルトの点検
・張り
・損傷

パワー ステアリング液の点検
・液量
・もれ



ファン ベルトの点検
・張り
・損傷

ラジエータ液(冷却水)の点検
・液量
・もれ
・キャップ

3. 運転席に座って

ハンドルの遊び、ガタの点検

バック ミラーの点検
・汚れ
・角度

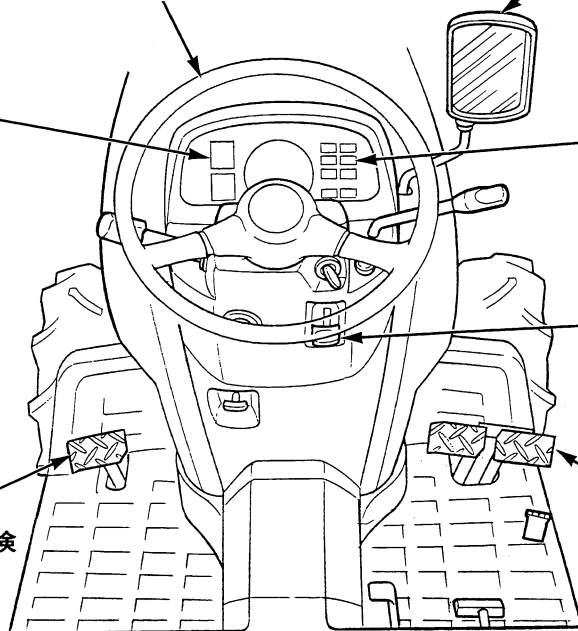
燃料の点検
・量

電装品の点検

駐車ブレーキの点検

クラッチ ペダルの点検
・遊び

ブレーキ ペダルの点検
・遊び



ボンネットの開けかた、閉めかた

⚠ 注意

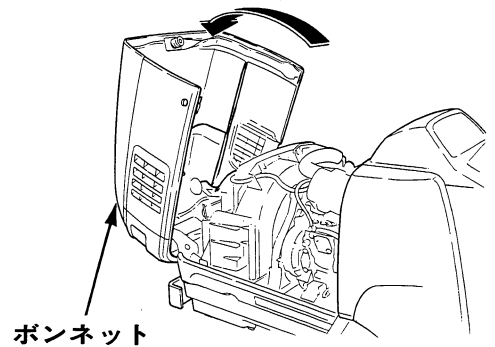
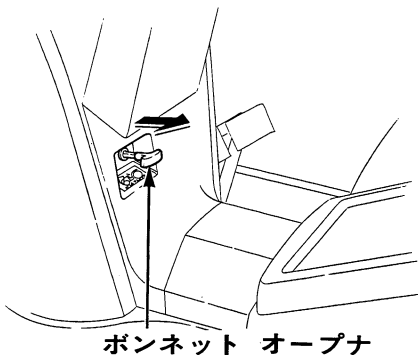
- ・ 運転停止直後のエンジンは熱くなっています。マフラなどに触れないように注意してください。
- ・ ボンネットを閉めるときは、周囲に人がいないか注意して、ゆっくりと閉めてください。
- ・ 風にあおられて閉まることがあります。特に風の強いときなど点検、調整を行うときは、ボンネットを外してください。

・ 開けかた

ボンネット オープナのノブを引き、ボンネットを引き上げて止まるまで前へ倒します。

・ 閉めかた

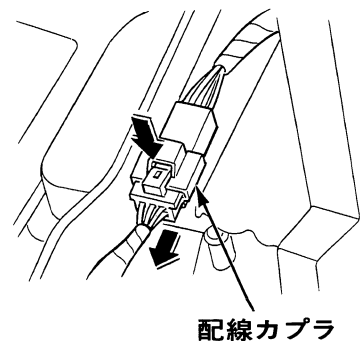
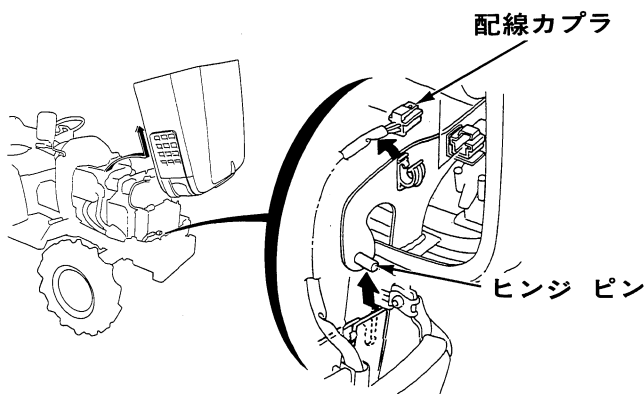
ボンネットをゆっくり下げ、上から押して確実に閉めてください。



ボンネットの外しかた、取付けかた

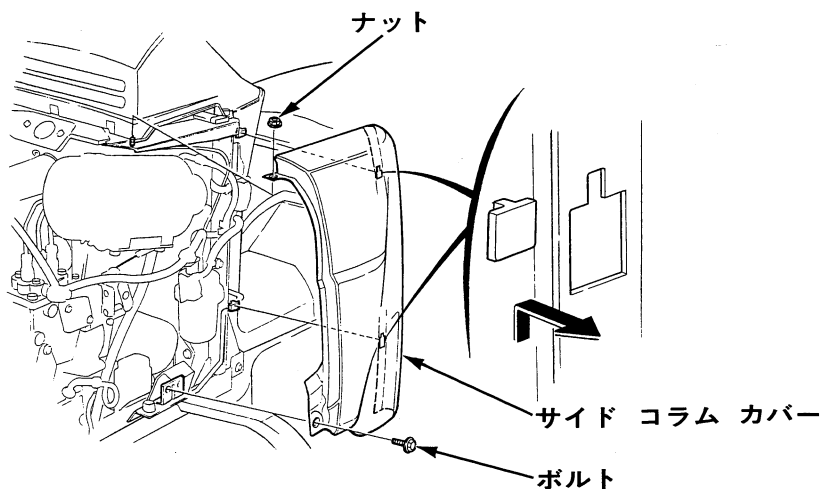
ヘッドライトの配線カプラを外し、ボンネットを全開よりやや戻した状態で上へ引き上げると外れます。

取付けるときはフックにボンネットのヒンジ ピンを合わせゆっくりとおろし、全開の位置にします。ヘッドライトの配線カプラを接続します。



サイド コラム カバーの外しかた

ボンネットを開けナットとボルトを取外し、サイド コラム カバーを上に取り上げると外れます。



1. タイヤの空気圧、亀裂、損傷、締付けボルト、ナットのゆるみ点検

- ・ タイヤ ゲージでタイヤの空気圧を点検してください。

空気圧：前輪 1.6kg/cm²(フロント作業機使用時：2.0kg/cm²)

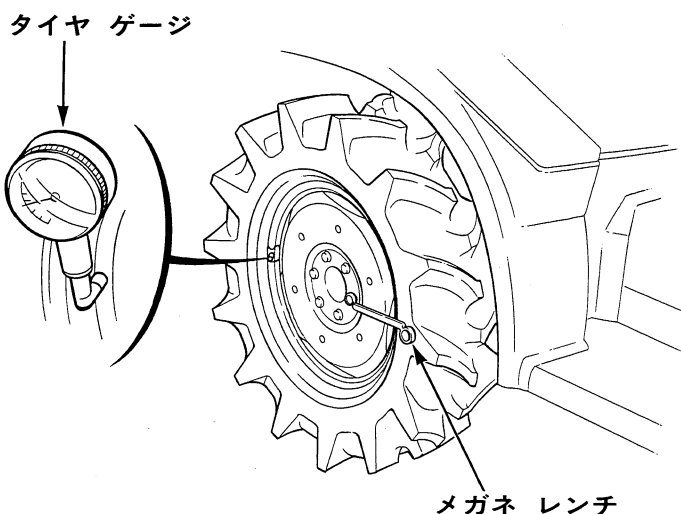
後輪 1.0kg/cm²

- ・ タイヤに亀裂、損傷がないか点検してください。
- ・ 締付けナット、ボルトを1つずつメガネ レンチで確認し、ゆるい場合はメガネ レンチで確実に締付けてください。

締付けトルク：

前輪：13.0kg/m

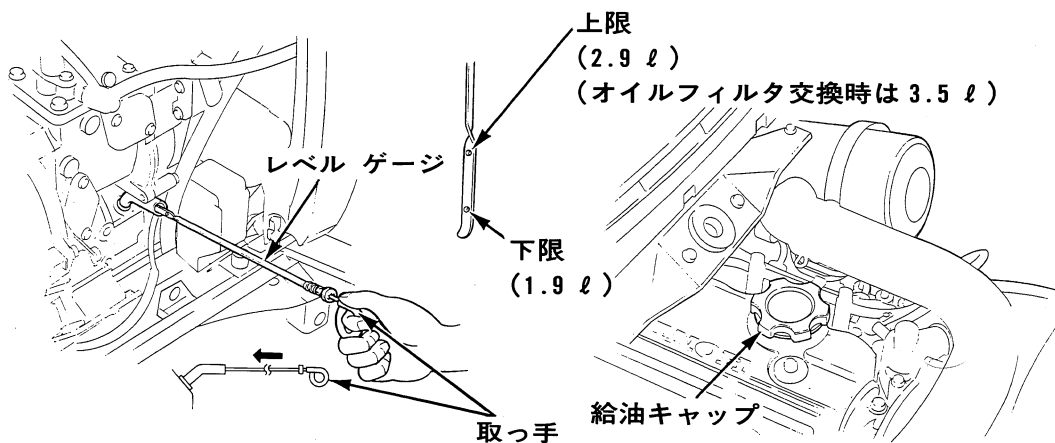
後輪：18.5kg/m



2. エンジン オイルの点検

点 検

- ・エンジン オイルの点検はエンジンが冷えているときに行ってください。
ボンネットを開けてエンジン オイルの量を点検します。
点検する前にレベル ゲージや給油キャップ付近のほこりを取り除きます。
エンジン オイルの量がレベル ゲージの上限と下限の間にあるか点検します。
ゲージの取っ手の輪が下側に向くようにゲージをそう入して点検してください。
下限に近いときは、上限まで補給してください。



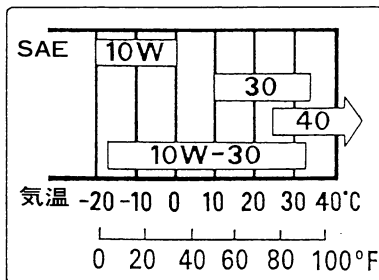
取扱いのポイント

- ・レベル ゲージは確実に差し込んでください。差し込みが不確実だとオイルが漏れることがあります。
- ・オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。
- ・メーカー及び種類の異なるオイルを混入しないでください。

補 給

給油キャップを外し、新しいオイルをゲージの上限まで補給します。

推奨オイル：ホンダ純正ウルトラ ディーゼル オイルまたはAPI分類CC、CD級相当の
SAE10W-30ディーゼル エンジン オイルをご使用ください。



汚れや変色が著しい場合は交換してください。(交換時期、方法は101頁参照)

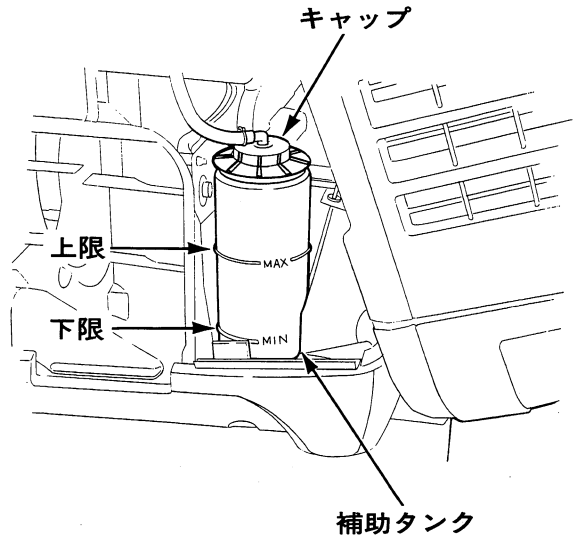
3. ラジエータ(冷却水)の点検

点 検

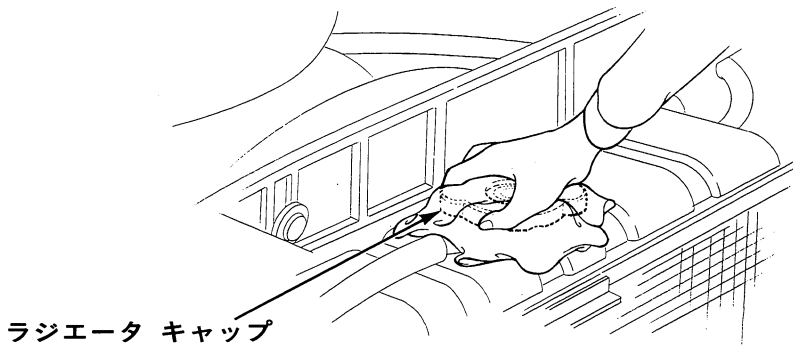
ラジエータ、ラジエータ ホースなどからの液漏れ、液量、ラジエータ キャップが確実に締まっているか点検してください。

補 給

- ・ 補助タンクのキャップをはずし、“MAX”(上限)まで補給します。指定ラジエータ液の濃度を30%(寒冷地50%)にしてご使用ください。液面は暖機時に上がり、冷機時に下がりますが、エンジン温度に関係なく“MAX”(上限)まで補給します。



- ・ 指定ラジエータ液：ホンダ純正ウルトラ ラジエータ液



⚠ 警告

エンジン運転中や停止した直後などラジエータ液の温度が高いときに、ラジエータ本体のキャップを外すと蒸気や熱湯がふき出しヤケドをするおそれがあります。ラジエータ液の温度が十分下がってから、布切れなどでキャップを包み静かに開けてください。

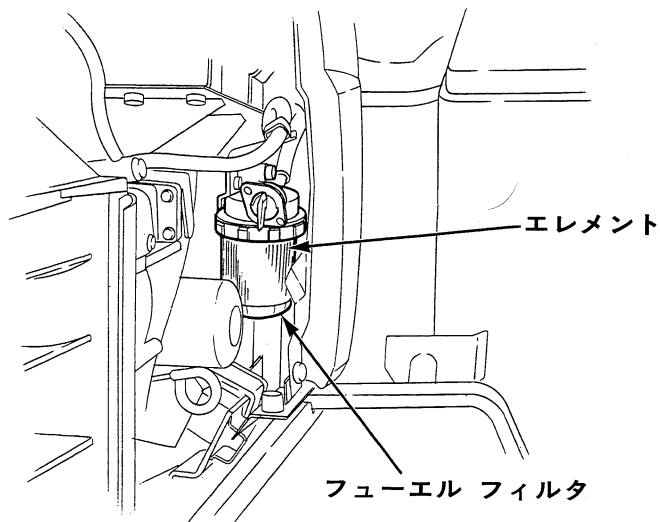
取扱いのポイント

- ・ ラジエータ原液を規定濃度に薄めるときは上水道(軟水)を使用してください。
- ・ 指定以外のラジエータ液や上水道(軟水)以外の水を使用すると錆・凍結・オーバ ヒートなどの原因となります。

4. フューエル フィルタ(燃料ろ過器)の点検

フューエル フィルタ内のエレメントの汚れ、水、ゴミ等の沈殿物がないか点検してください。

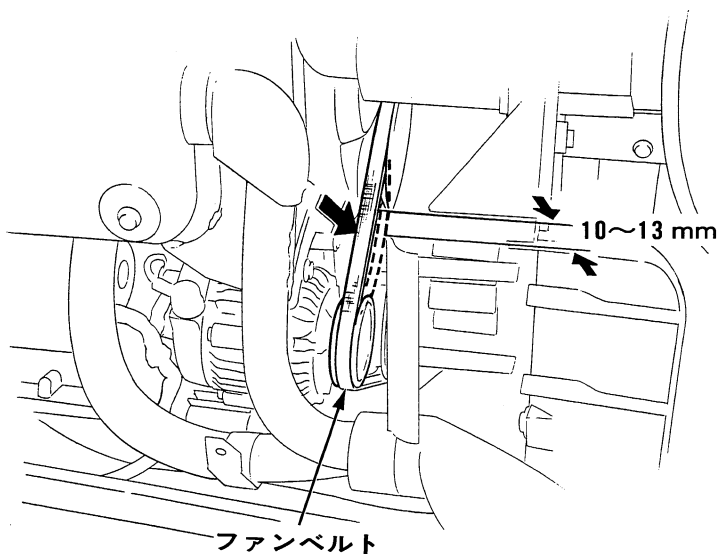
燃料ろ過器の清掃は104頁を参照してください。



5. ファン ベルトの点検

ベルトの張り、損傷を点検します。

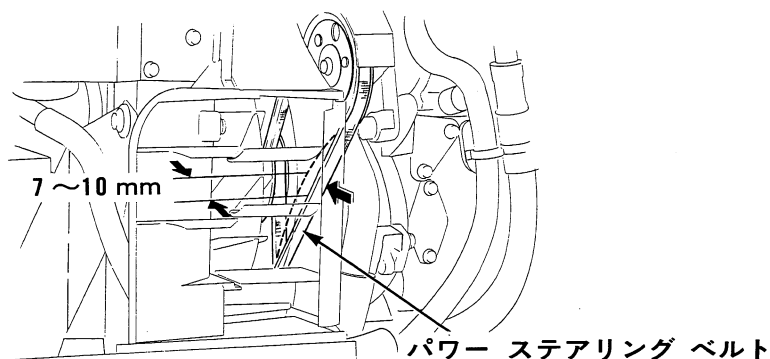
ファン ベルトの中央部を強く押して(約10kgの荷重)、たわみ量が10~13mmの範囲であれば適正です。たわみ量が適正值から外れているときは、お買いあげ販売店へお申しつけください。



6. パワー ステアリング ベルトの点検(パワー ステアリング仕様)

ベルトの張り、損傷を点検します。

パワー ステアリング ベルトの中央部を強く押して(約10kgの荷重)たわみ量が7～10 mmの範囲であれば適正です。たわみ量が規定値から外れているときまたは損傷しているときは、お買いあげ販売店へお申しつけください。



7. パワー ステアリング液の点検(パワー ステアリング仕様)

液量と周辺部にもれがないか点検します。

ハンドルを直進状態にして、液量がリザーバ タンクの目盛の上限 (UPPER LEVEL) と下限 (LOWER LEVEL) の間にあるか点検します。

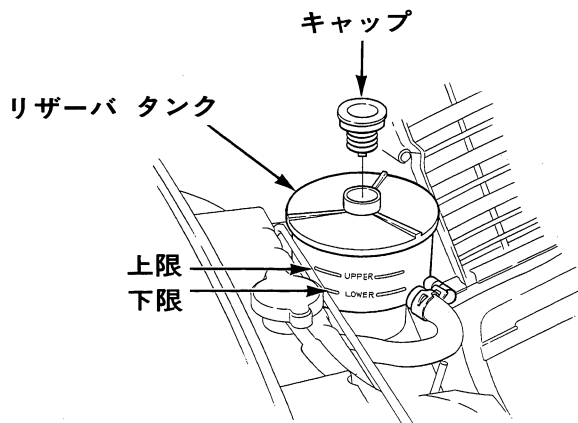
下限近くになっていたらキャップを外して上限まで補給します。

補給後、確実にキャップを取付けてください。

指定液：ホンダ純正パワー ステアリング フルード

取扱いのポイント

- 液の減りかたが著しいときは、パワー ステアリングシステムの異常が考えられます。お買いあげ販売店にお申しつけください。
- 給油時タンクの中にゴミが入らないように注意してください。
- エンジンを停止した状態でハンドルを切りますと液面が変化します。

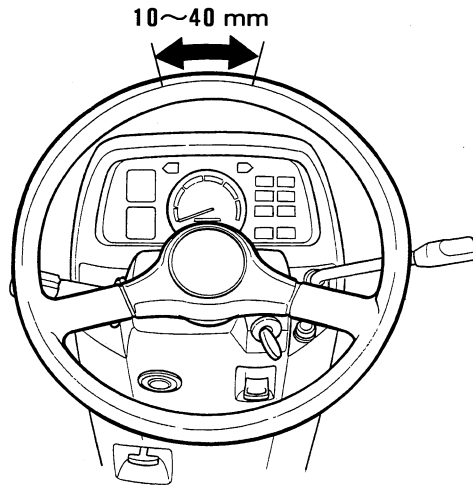


8. ハンドルの遊び、ガタの点検

ハンドルを直進状態にしてハンドルの遊びが外周で10～40mmであること、また異常なガタがないことを確認してください。(ハンドルの遊びは前輪が動かない範囲です。)

もし異常があった場合は、お買いあげ販売店へお申しつけください。

パワー ステアリング仕様はエンジン始動をしてから点検してください。



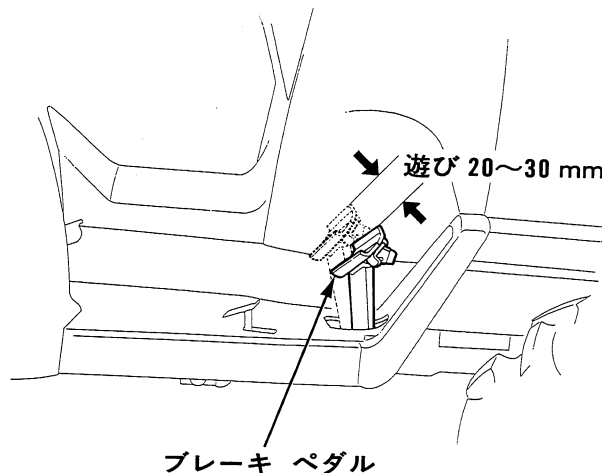
9. ブレーキ ペダルの遊びの点検

ブレーキ ペダルを踏み込んで遊び代が規定値になっているか確認してください。また左右の踏み込み量が異なっていないか確認してください。

下記の寸法から外れているときは103頁を参照して調整してください。

遊 び 20～30mm

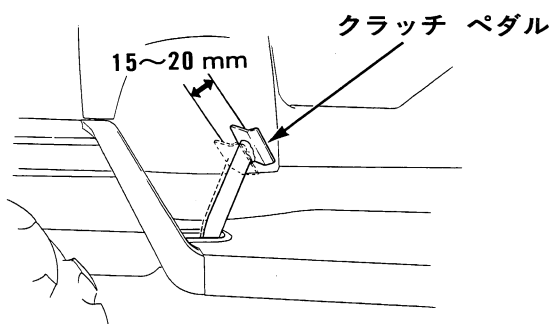
左右の段差 1 mm以内



10. クラッチ ペダルの遊びの点検

クラッチ ペダルの遊びを点検してください。もし遊びが規定値になっていないときは、お買いあげ販売店へお申しつけください。

遊び：15～20mm



11. 燃料の点検

警告

燃料は非常に引火しやすく、火災を引き起こすことがあります。

燃料の補給は、

- ・エンジンを停止してください。
- ・換気の良い場所で行ってください。
- ・火気を近づけないでください。
- ・燃料はこぼさないように入れてください。万一こぼれたときは、布切れなどで完全にふき取り、火災や環境に注意して処分してください。

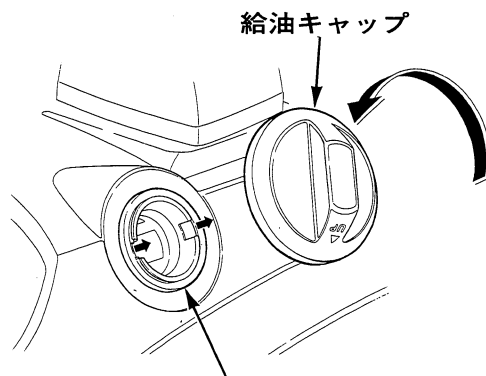
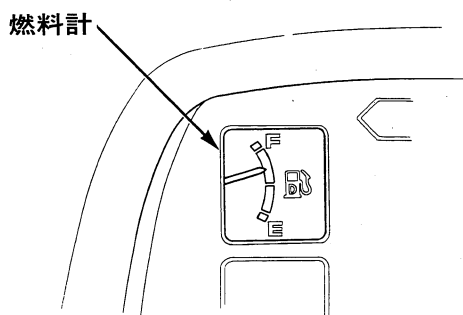
点検

エンジン スイッチ キーを“運転”にしてから燃料計を確認してください。

燃料計の針が“E”に近づいたら、早めに燃料を補給してください。

取扱いのポイント

- ・携帯缶やポリ タンクから給油する場合はフューエル ストレーナを外さずに給油してください。
- ・ガソリン スタンドで給油する場合はフューエル ストレーナを外して給油してください。
- ・給油限界以上に給油しないでください。



補給

地域や季節に合った燃料を使用してください。

使用燃料：ディーゼル軽油JIS 2号(-10℃まで)

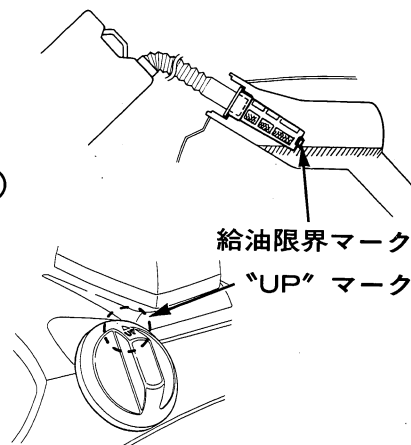
JIS 3号(-10℃から-20℃まで)

JIS特3号(-20℃以下)

タンク容量：17.0ℓ

- ・補給後、給油キャップの“UP”マークが上になるように給油キャップを確実に締付けてください。
- ・エア抜き

本機は自動エア抜きシステムを採用しています。燃料のエア抜きはエンジンスイッチを“運転”の位置にし、フューエルフィルタに燃料がきていることを確認してエンジンを始動してください。

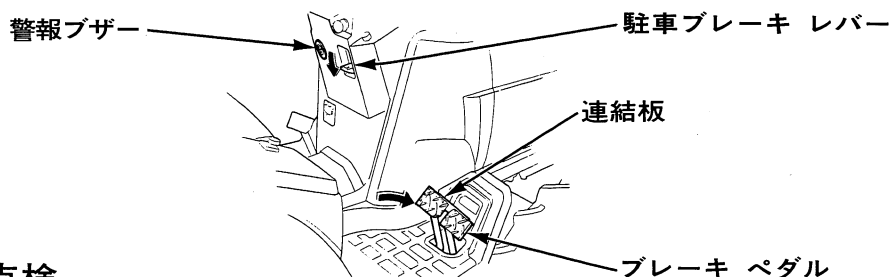


取扱いのポイント

- ・ガソリンや揮発油、灯油等の燃料は絶対に使用しないでください。
- ・補給時はゴミや水が入らないように注意してください。
- ・寒冷地では夏用の燃料を冬期まで入れっ放しにしておくと、気温が下がったときにエンジンが始動できない場合があります。

12. 駐車ブレーキ、警報ブザーの点検

ブレーキペダルの連結板をセットし駐車ブレーキのロックが確実にできることを確認してください。駐車ブレーキをロック状態にしてクラッチペダルを踏み込み、エンジンスイッチを“運転”にして主変速レバーを入れ(中立以外)警告ブザーが鳴り続けることを確認してください。この状態で駐車ブレーキを解除したとき警報ブザーが止まれば正常です。



13. 電装品の点検

エンジンスイッチを“運転”の位置にして、次の項目を点検してください。

1. 前照灯の点灯、消灯確認
2. 方向指示器、点滅の確認
3. ホーン(警音器)の確認
4. メータパネル内の表示灯の作動確認

運 転 の し か た

⚠ 警告

- 屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。
- シートに座ってエンジンを始動してください。シートに座らずエンジンを始動すると本機が動き出し、タイヤや作業機に巻き込まれるおそれがあります。

エンジンのかけかた

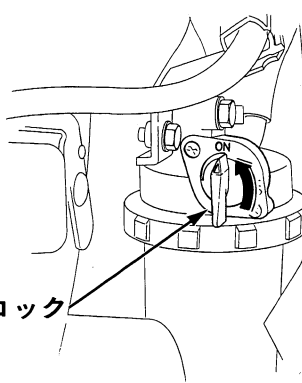
1. 駐車ブレーキを確実にロックしていることを確認してください。

ボンネットを開き、燃料ろ過器の燃料コックを“ON”（開）の位置にします。

ボンネットを閉めます。



燃料コック



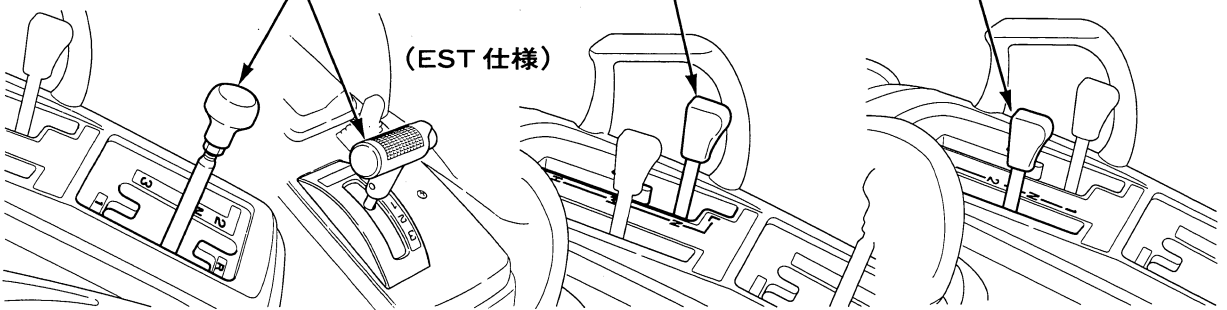
2. シートにすわり、主変速レバー、副変速レバー、PTO軸変速レバーを“N”（中立）の位置にしてください。二柱式安全フレーム仕様はシートベルトを必ずしめてください。

主変速レバー

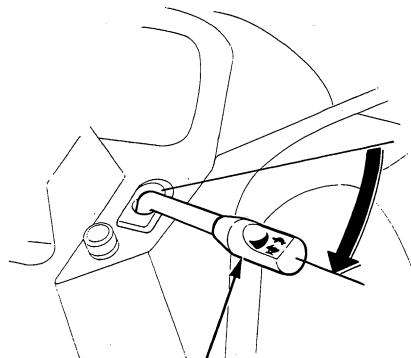
副変速レバー

PTO 軸変速レバー

(EST 仕様)



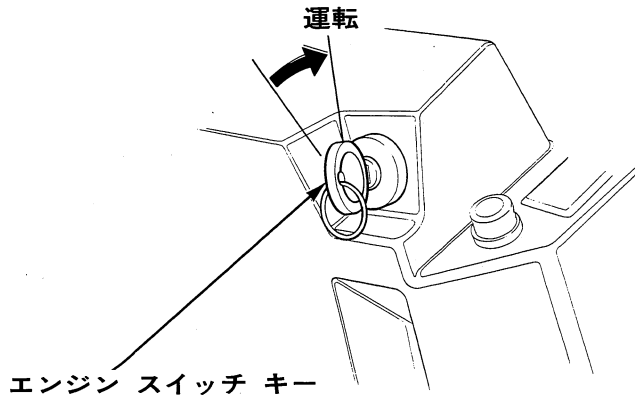
3. エンジン回転調整レバーを手前いっぱいに引いてください。



エンジン回転調整レバー

4. エンジン スイッチにキーを差し込み“**運転**”の位置まで回します。

予熱表示灯が点灯し、グロー プラグの予熱が終了すると(4～6秒後)表示灯が消えます。

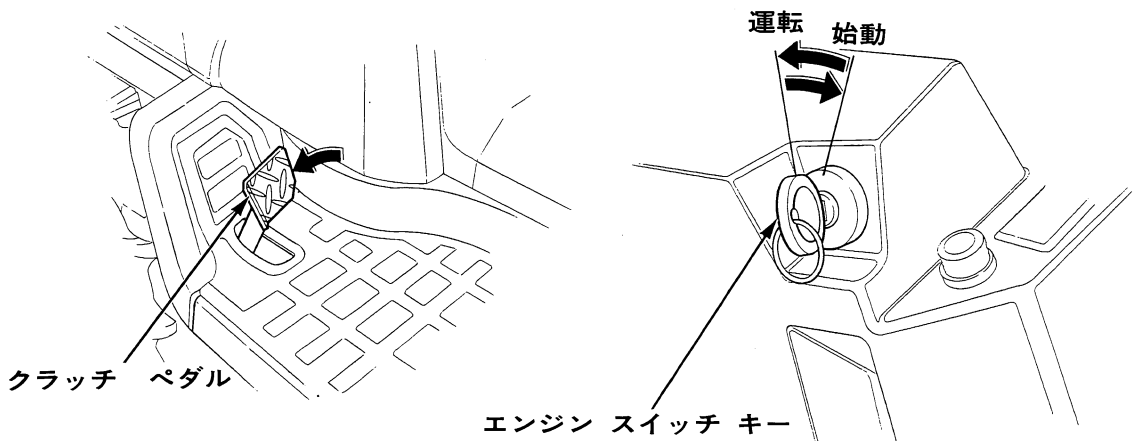


5. クラッチ ペダルをいっばいに踏み込んで、エンジン スイッチ キーを“**始動**”の位置まで回してください。エンジンが始動したらキーから手を離してください。自動的に“**運転**”の位置まで戻ります。

始動するときは、クラッチ ペダルをいっばいに踏み込まないとセルモータは回転しません。

取扱いのポイント

- セルモータは大電流を消費しますので10秒以上の連続使用は避けてください。10秒以内で始動しなかった場合は、いったんスイッチを停止にして30秒以上休んでから再び始動の操作を行ってください。
- エンジン運転中は、エンジン スイッチ キーを“始動”の位置にしないでください。セルモータの故障の原因となります。
- バッテリーが放電するので、エンジンをかけていないときはエンジン スイッチ キーを“運転”の位置のままにしないでください。

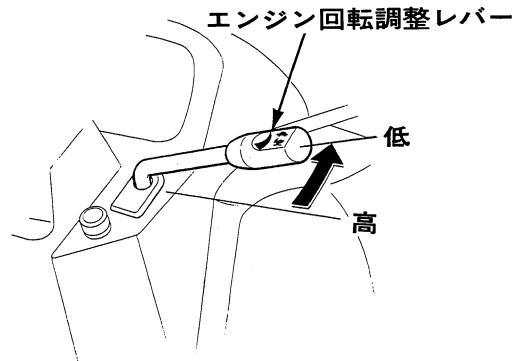
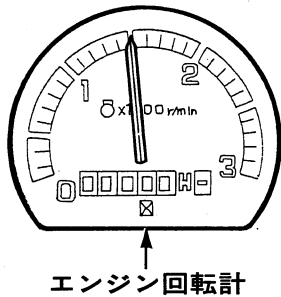


6. エンジン回転調整レバーをエンジン回転数が1,000~1,500rpmになる位置まで戻し、約5分間、暖機運転を行います。

エンジン暖機後、エンジン回転調整レバーを“低”の位置に戻してください。

⚠ 注意

エンジン回転調整レバーが高の位置になっている状態でクラッチを急に離すと急発進し思わぬ事故を起こすことがあります。必ず低の位置にしてください。



暖機運転とならし運転

・暖機運転

・エンジン始動後、約5分間は暖機運転を行ってください。オイルをあたため各部にゆきわたらせることによって、摩耗を減少し、焼付きや破損などを防止する効果があります。

⚠ 注意

暖機運転中は必ず駐車ブレーキをロックしてください。

取扱いのポイント

寒冷地(冬期)及び長期保管後は十分暖機運転を行ってください。

・ならし運転(最初の50時間)

ピストン、シリンダやカムシャフトの摩耗を減少しエンジンの寿命をのばします。

ならし運転中は次のことに特に注意して運転してください。

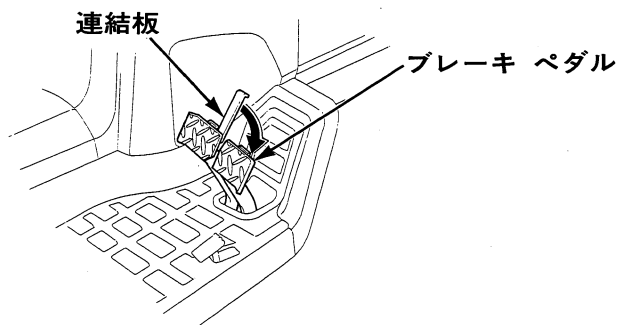
- (1) 作業は十分に暖機運転を行った後開始してください。
- (2) 急発進、急停止をしないでください。
- (3) エンジンや車体に無理な負荷をできるだけかけないように運転してください。

発進・走行のしかた

⚠ 警告

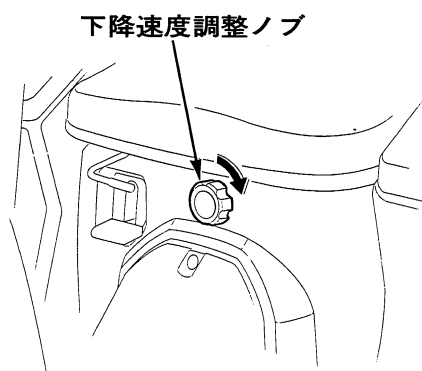
- 始動時の急発進、巻き込まれ防止のため、
 - ・ 主変速レバー、PTO軸変速レバー、油圧リフトレバーを“N”にしてください。
 - ・ エンジンは必ず運転席に座って始動してください。
- 運転時の転倒、転落、巻き込まれ防止のため、
 - ・ シートベルトを必ず装着してください。
 - ・ 前後左右に人がいないことを確認してください。
 - ・ 本機および作業機の上には人や物をのせないでください。
 - ・ 急発進、急停止、急旋回はしないでください。
 - ・ 溝や穴の近く、路肩などくずれやすい所では運転しないでください。
 - ・ 傾斜地、坂道、積込み積降ろし、ほ場の出入り、畦の乗り越えでは遅い車速で運転し、途中で変速しないでください。
 - ・ 道路走行時はデフロックを使用しないでください。
 - ・ 作業機をつけて公道を走行しないでください。

1. ブレーキペダルが左右セット(連結)されていることを確認してください。

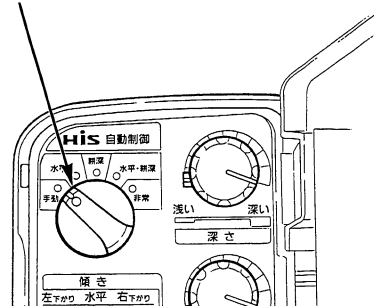


2. 作業機を付けている場合は油圧リフトレバーで作業機を上げ、下降速度調整ノブを右(時計方向)にいっぱい回し油圧をロックしてください。

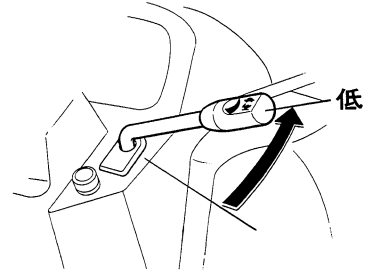
HiS仕様では油圧をロックしたあと、モード切換つまみを“手動”の位置にしてください。



モード切換つまみ(HiS仕様)



3. エンジン回転調整レバーを“低”の位置にしてください。

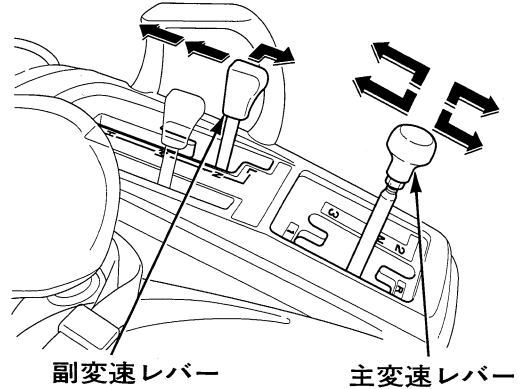
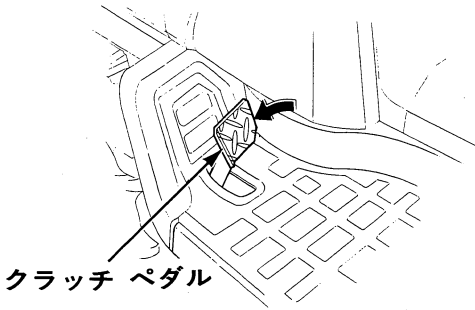


4. クラッチペダルをいっぱい踏み込んで、主、副変速レバーを使用する位置に入れてください。主変速レバーを入れたときに、駐車ブレーキ戻し忘れ警報ブザーが鳴ります。

〔マニュアル トランスミッション仕様〕

取扱いのポイント

マニュアル トランスミッション仕様は走行中に变速操作を行わないでください。本機を停止させ、クラッチペダルをいっぱい踏み込んで行ってください。



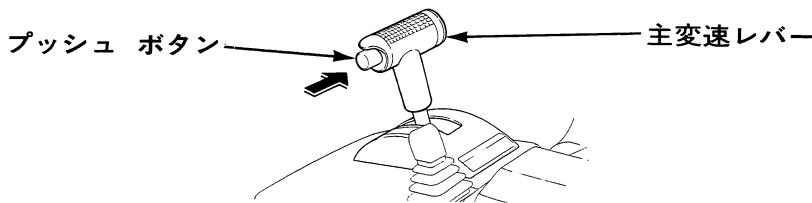
〔EST仕様〕

主変速レバーのプッシュボタンを押し込み、使用する位置に入れます。

“N” から “1速”、“N” から “R” に变速するときはレバーのプッシュボタンを押さないと变速できません。

取扱いのポイント

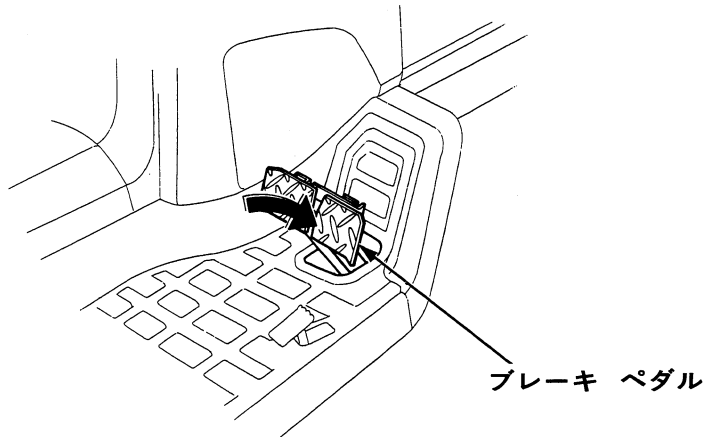
- EST仕様はクラッチペダルを踏み込まなくても变速できます。ただし副変速レバーが“H”(高速)の位置にあるときは、クラッチペダルを使用して発進、变速を行ってください。
- 前進から後進、後進から前進に变速するときは本機を完全に停止させてから变速してください。停止しないうちに变速すると故障の原因になります。



5. ブレーキ ペダルを踏んで駐車ブレーキを解除してください。警報ブザーは止まります。

取扱いのポイント

駐車ブレーキは必ず解除してください。ロックしたまま運転すると、ブレーキ システムの故障の原因となります。



6. アクセル ペダルを少し踏み、クラッチ ペダルをゆっくり離してください。スムーズに発進ができます

⚠ 警告

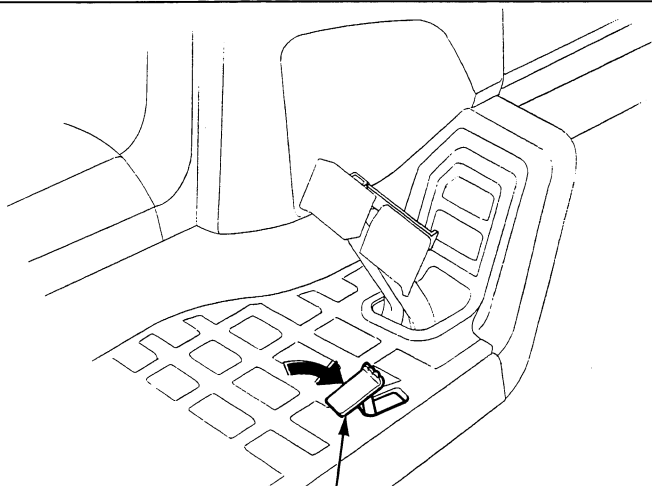
発進時は、周囲の安全を十分注意してください。

⚠ 注意

急にクラッチ ペダルを離すと急発進し、思わぬ事故を起こすことがあります。必ずクラッチ ペダルはゆっくりと離してください。

取扱いのポイント

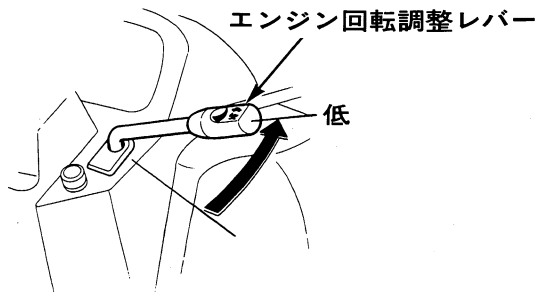
クラッチの故障の原因になりますので走行中はクラッチ ペダルの上に足を乗せないでください。クラッチを切るときは素早く行ってください。



アクセル ペダル

停車・エンジン停止のしかた

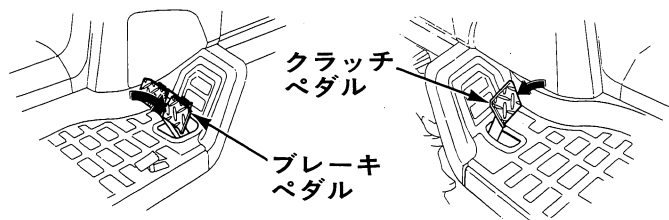
1. アクセル ペダルから足を離して、エンジン回転調整レバーを“低”の位置に戻してください。



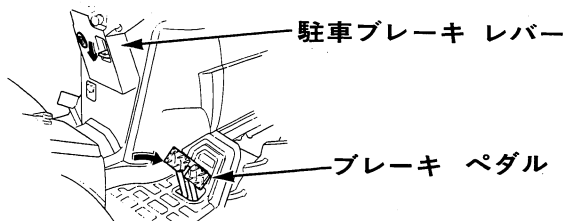
2. クラッチ ペダルを踏み込んでからブレーキ ペダルを踏み込みます。完全に本機が停止してから、主変速、副変速、PTO軸変速レバーを“N”の位置にしてください。
・作業機を取付けている場合は、油圧リフト レバーで作業機を地面まで下げてください。

取扱いのポイント

- ・低速度(SL、L、M)では車軸の回転力が大変強くなり、ブレーキ ペダルだけを強く踏んでもブレーキはききづらくなります。またブレーキ ペダルだけを強く踏むと本機を破損する原因になります。必ずクラッチ ペダルを踏んでからブレーキ ペダルを踏んでください。



3. 駐車ブレーキを確実にロックしてください。



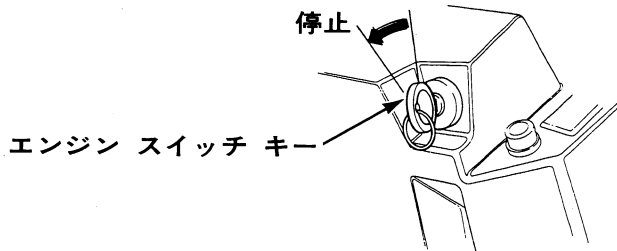
⚠ 注意

本機をやむをえず坂道の途中で駐車するときは、本機の重量に耐える石、木片等で下側の車輪に車止めをしてください。

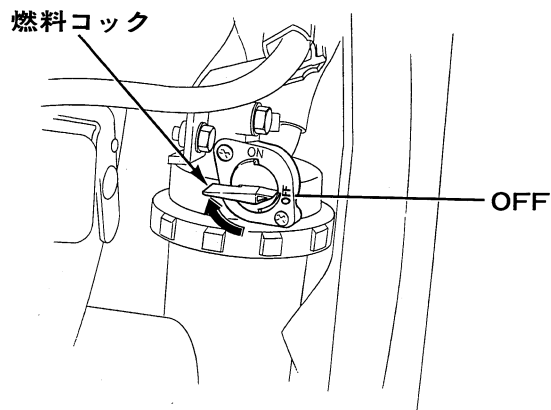
4. エンジン スイッチを“停止”にしてキーを外してください。

警告

子供や許可を受けていない者がエンジンを始動しないように、トラクタから離れるときは必ずエンジン スイッチからキーを抜き取ってください。



5. 燃料コックを“OFF”の位置にします。

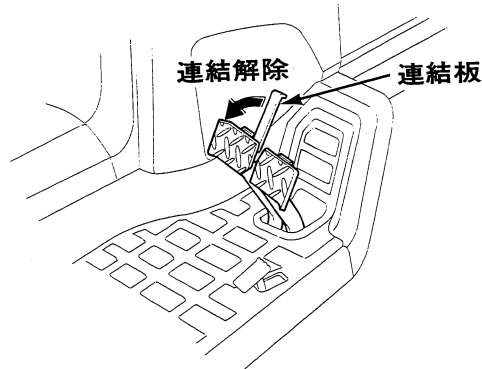


旋回のしかた

旋回する前に必ずデフロックペダルが解除されていることを確認してください。(45頁参照)

旋回するときは、エンジン回転を落とし車速を低くして、ゆっくりと旋回してください。

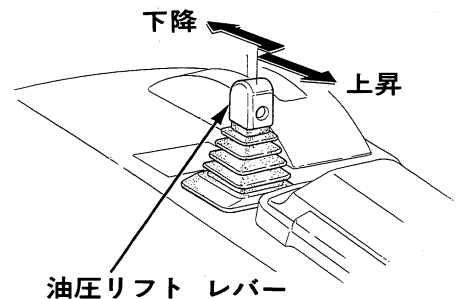
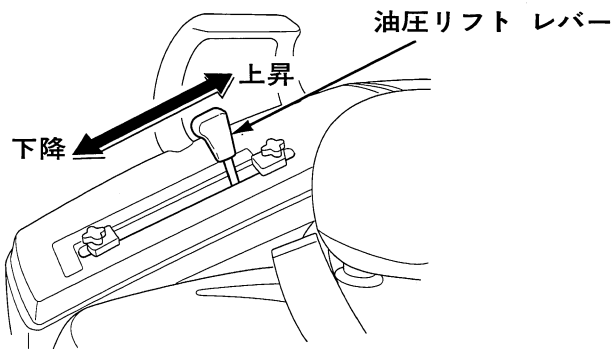
1. ほ場での作業時に片ブレーキが必要な場合は、ブレーキペダルの連結板を連結解除して、右、左単独にブレーキが効くようにしてください。



2. 耕うん作業等で旋回するときは、作業機を油圧リフトレバーで上昇させて、旋回後下降させてください。

(機械式ポジションコントロール仕様)

(HiS仕様)



3. 信地旋回(片ブレーキ旋回)のときには、ハンドルを旋回方向へ回しながら旋回方向のブレーキペダルを踏み車輪をロックさせて旋回してください。

旋回完了後ブレーキを解除し、ハンドルを戻してください。

⚠ 警告

- ・ 旋回するときは、周囲を十分確認して旋回してください。
- ・ 高速では絶対に旋回しないでください。横転等、重大な事故につながります。

取扱いのポイント

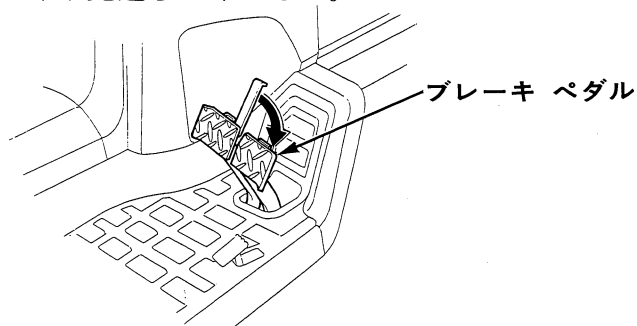
旋回時は必ず作業機を上昇させ接地していないことを確認してください。

坂道での運転のしかた

坂道の状態に応じた速度を選び走行してください。

1. 登り坂の場合

- 1) ブレーキ ペダルが左右セット(連結)されているか確認してください。
- 2) 坂の手前でいったん停止してください。
- 3) 主変速レバーを遅い車速の位置に入れてください。
- 4) エンジン回転を落とし、ゆっくり発進してください。



- ・登り坂での発進はとくにゆっくりと行ってください。万一急な坂道の途中でエンジンが停止したときは、すぐにブレーキを踏み、次にクラッチを踏み込んで徐々にブレーキをゆるめながら平坦な所まで移動してください。再度エンジンを始動して登ってください。

2. 下り坂の場合

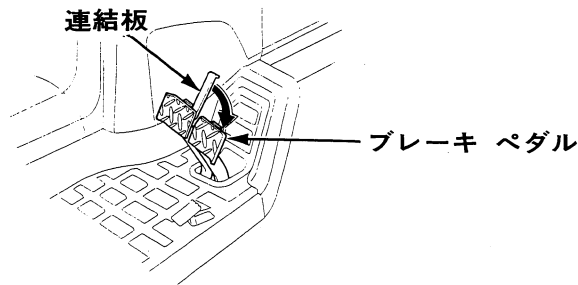
- ・ブレーキ ペダルが左右セット(連結)されていることを確認してください。
- ・坂の手前で一旦停止して、エンジン回転を“低”にし変速レバーを遅い車速にして、エンジン ブレーキを使用してください。

⚠ 警告

- ・ブレーキ ペダルのセット(連結)を必ず確認してください。
- ・デフロックの解除を必ず確認してください。(45頁参照)
- ・遅い車速で運転してください。
- ・坂道では主変速レバーを“N”の位置にしたり、変速操作やクラッチを切ったりしないでください。
- ・坂道では駐車しないでください。やむをえず駐車するときは、駐車ブレーキをロックして、本機の重量に耐える石、木片等で下側の車輪に車止めをしてください。

ほ場への出入り時の注意

1. ブレーキ ペダルが左右セット(連結)されているか確認してください。

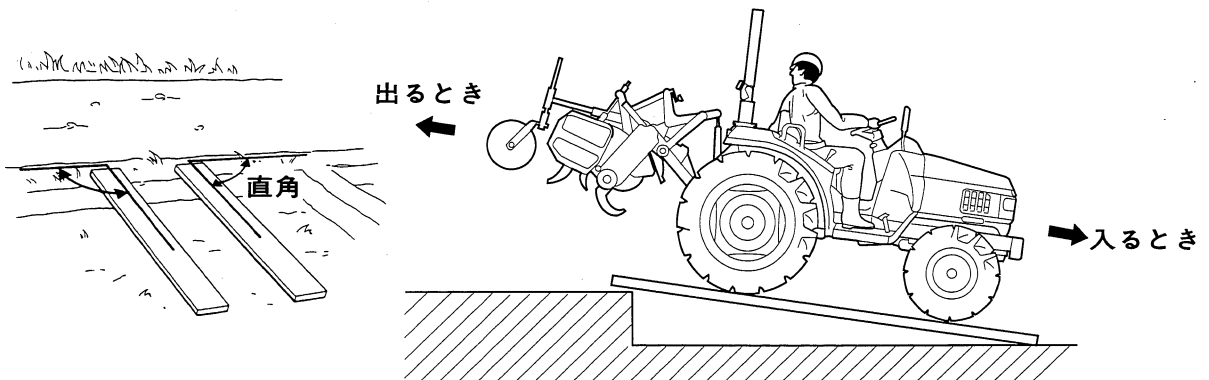


2. ほ場への出入りは、高低差が大きいと危険ですのでアユミ板などを使用してください。
ハンドルは直進にして直角に出入りし、十分注意してください。

3. 畦道とほ場への出入りは、斜めに登り降りせず直角に出入りしてください。

4. ほ場への出入りは、トラクタの前・後のバランスを考慮して慎重に行ってください。

登り始めは、作業機を降ろして重心を下げ、トラクタの前・後輪が畦に上ると同時に作業機を上げてください。

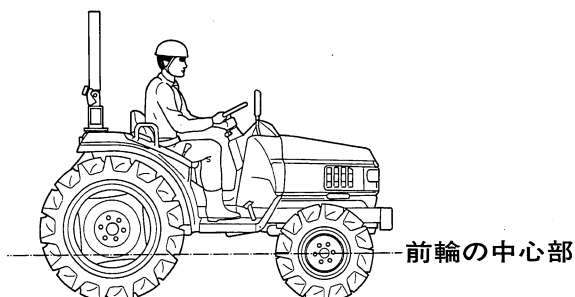


警告

- 転倒や衝突により死傷するおそれがあるのでブレーキペダルのセット(連結)を必ず確認してください。
- 遅い車速で運転し、途中で変速しないでください。

湿田での注意

土質等で異なりますが前輪の中心部より車輪が沈むような場所では使用しないでください。



公道走行時の注意

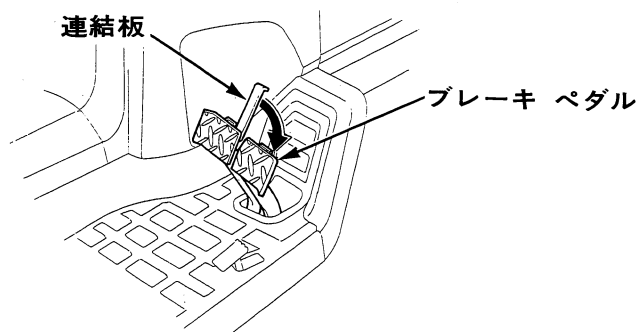
⚠ 警告

- 公道走行中はデフロックは使用しないでください。
- 公道走行するときは、関係法規を守り安全運転に心がけてください。
- 本機は乗車定員1名です。運転者の他はのせないでください。
- 溝のある農道や両側が傾斜している農道を通るときは、特に路肩に注意してください。
- ブレーキペダルをセット(連結)していないと、ブレーキが片効きになり、本機が急旋回して、転倒や衝突などの事故を引き起こし死傷するおそれがあります。
- 公道走行する場合は道路運送車両の保安基準に適合させてください。
- 走行中はエンジン回転調整レバーを“低”の位置にして、アクセルペダルで速度を調節してください。

取扱いのポイント

公道を走行するときは、必ず免許証を携帯して、交通ルールをお守りください。

1. ブレーキペダルは必ず右・左セット(連結)してください。



2. デフロックが解除されていることを確認してください。
3. 作業機を装着して公道を走行する事はできません。道路運送車両法に違反となります。
4. 公道走行中進路方向を変えるときは、方向指示器で進路方向を周囲に知らせてください。

上手な装置の使いかた

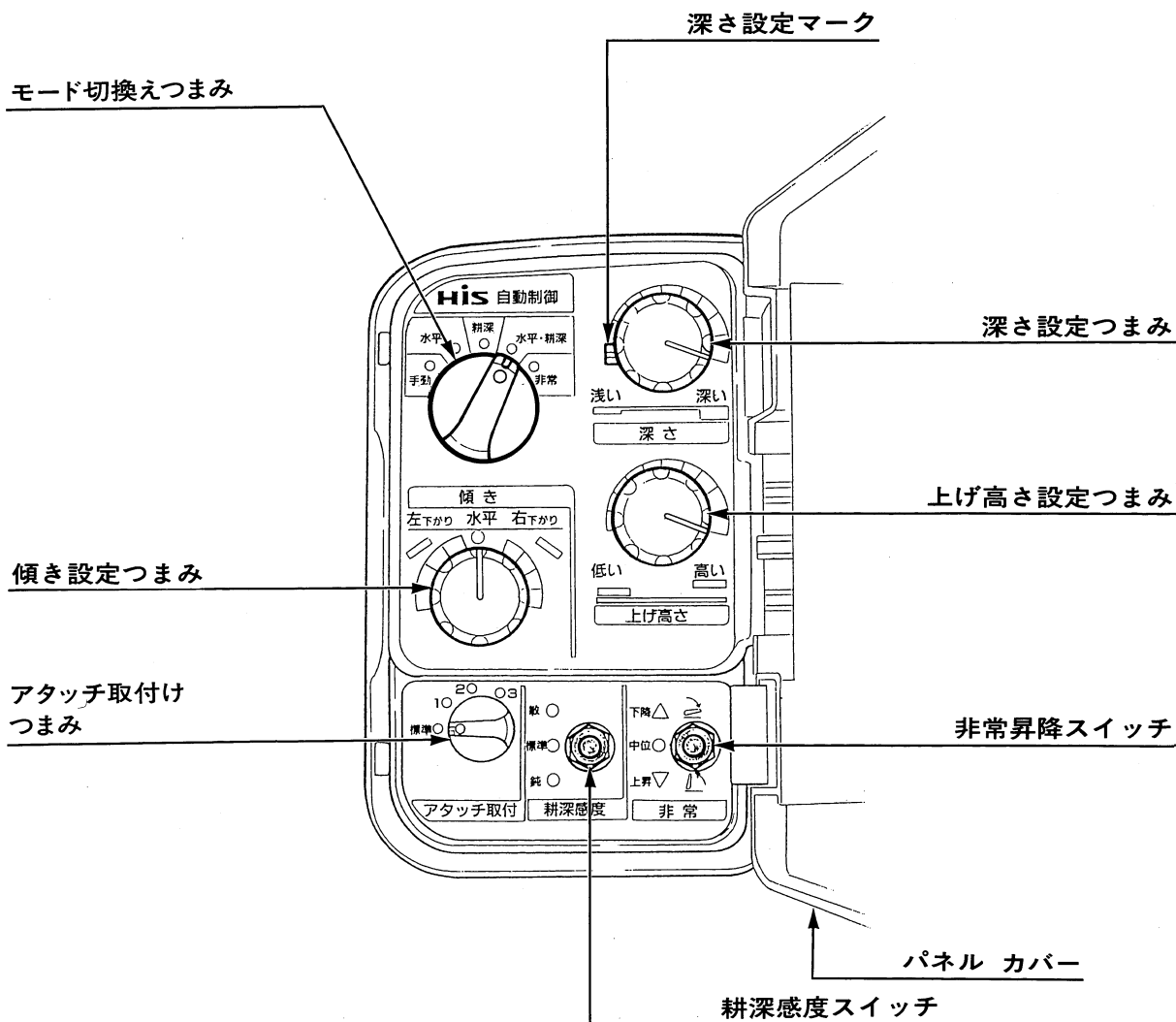
⚠ 警告

His(つまみ、レバー、スイッチ)を操作するには、シートにすわり、周囲の安全に十分注意してください。作業機が動き、あたってけがをすることがあります。

1. His(ホンダ インテリジェント システム)の使いかた

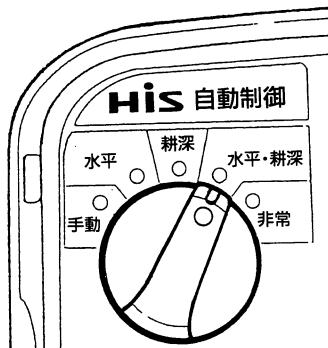
取扱いのポイント

- His仕様をご使用の場合、ロータリを交換したときは調整が必要ですのでお買いあげ販売店へご相談ください。
- モード切換つまみが“手動”または“水平”の位置にあるとき、上げ高さ設定つまみを“低い”(左回り)いっぱいに戻し、深さ設定つまみを“浅い”(左回り)いっぱいに戻した状態で、油圧リフトレバーを操作しても作業機が動きません。作業機が動かない場合はどちらかの手まみを動かしてください。
- 作業中はパネルカバーを閉じておいてください。誤って設定値を変えることがなくなります。



1-1. モード切換えつまみ

作業に応じて機能を選択するつまみです。



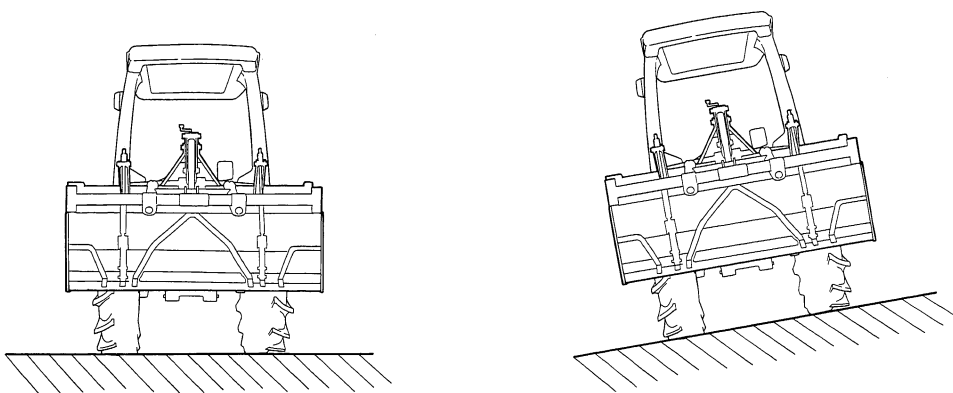
手動モード	傾き設定つまみと深さ設定つまみを操作することにより作業機の傾き、下げ位置を任意の位置に設定することができます。
水平モード	傾きが自動制御されます。
耕深モード	深さが自動制御されます。
水平・耕深モード	傾き、深さが自動制御されます。
非常モード	装置に異常が発生し、油圧リフトレバーで作業機の昇降ができないとき非常昇降スイッチで作業機の昇降ができます。 他のつまみは作動しません。

1-2. 各作業モードと操作手順

(1) 手動モード

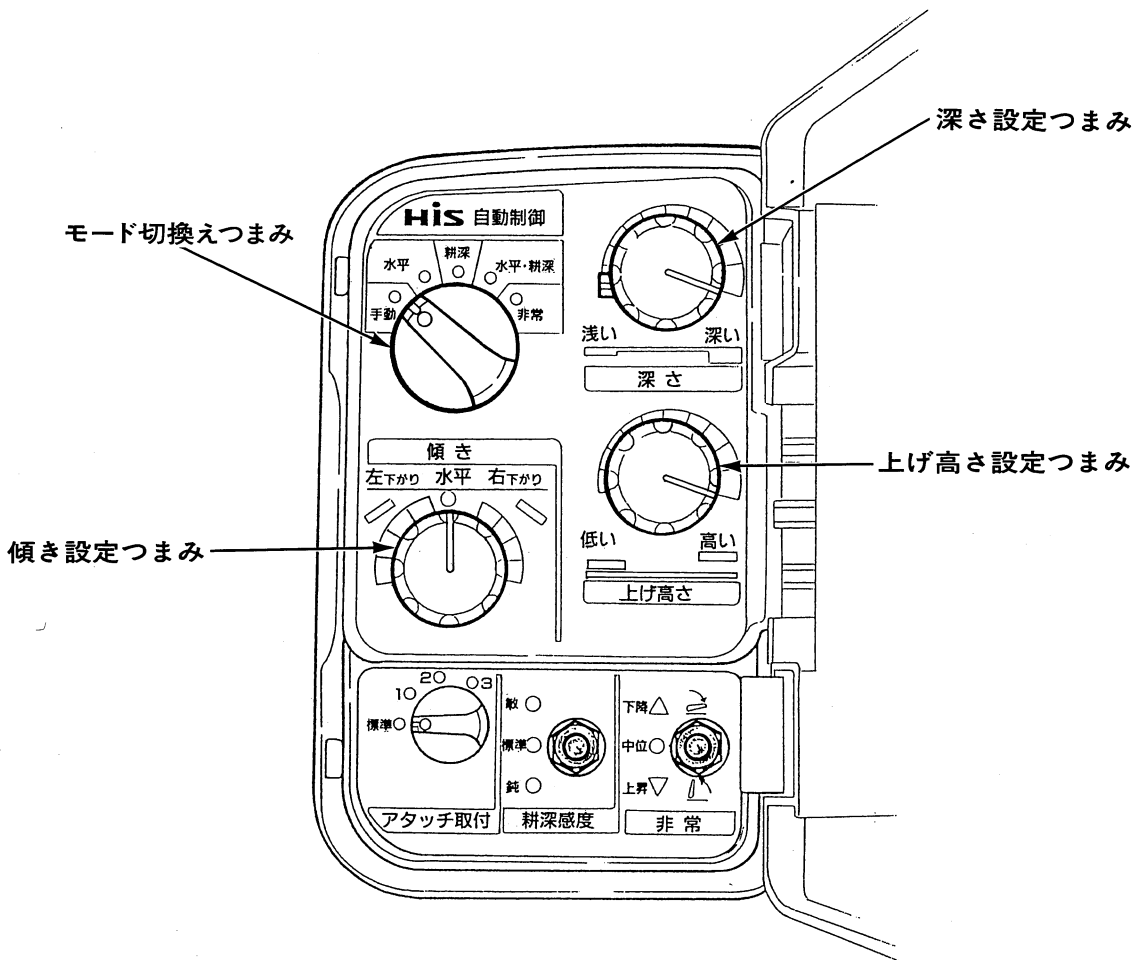
作業機の傾き、下げ位置を本機に対して一定に保つ機能です。

走行、運搬時(トラックへの積み降ろし)はこのモードに設定します。



操作手順

1. モード切換えつまみを“手動”の位置にします。
 2. 傾き設定つまみ、深さ設定つまみで作業機を作業にあった位置に設定します。
 3. 上げ高さ設定つまみで本機に対する作業機の上げ高さを設定します。
 4. 作業機の昇降は油圧リフト レバーで行います。
- 手動モードではアタッチ取付つまみ、耕深感度スイッチ、非常昇降スイッチは作動しません。
 - 深さ設定つまみによる深さ設定は、ほ場の条件によって異なります。つまみの目盛りは目安として使用してください。
 - 手動モードでは深さ設定つまみは、機械式ポジションコントロール仕様の油圧リフトレバーの下げ位置に相当します。
 - 尾輪付きロータリを使用する場合は、深さ設定つまみは“深い”（右回り）いっぱいに戻しておいてください。

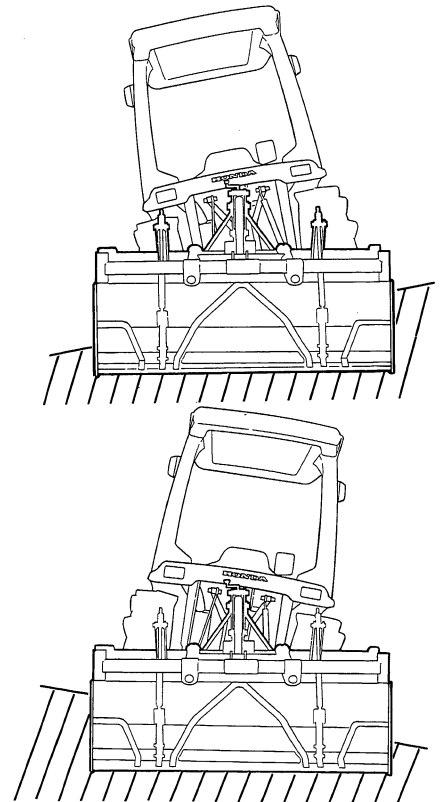
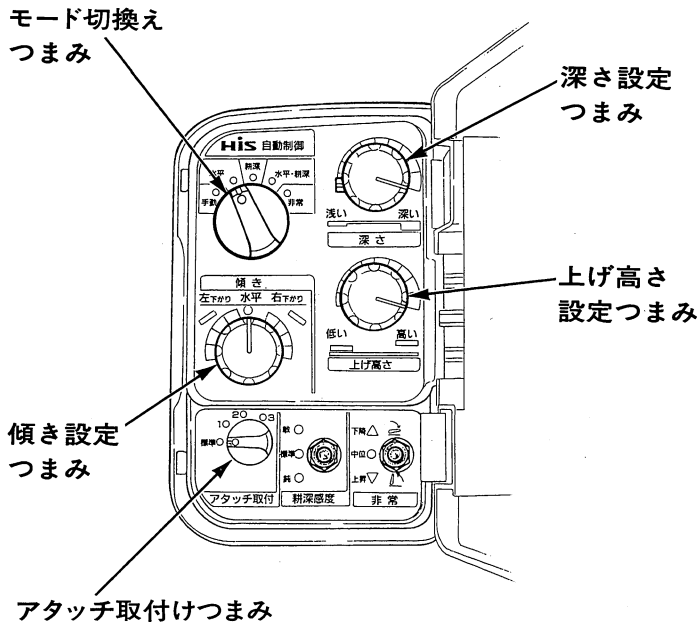


1-2. 水平モード

本機が左右に傾いても作業機の傾きを、自動的に地表に対してほぼ一定に保つ機能です。
(作業機の下げ位置は本機に対して一定に保たれます。)

操作手順

1. モード切換えつまみを“水平”の位置にします。コンビネーションメータ内の水平モード表示灯(36頁参照)が点灯します。
2. 傾き設定つまみで地表に対しての作業機の傾きを設定します。
3. 深さ設定つまみで深さを設定します。尾輪を付けて耕うんする場合は、深さ設定つまみを“深い”(右回り)いっぱいに戻してください。
4. 上げ高さ設定つまみで本機に対する作業機の上げ高さを設定します。
5. アタッチ取付けつまみを作業機にあった位置に設定してください。(88頁参照)
6. 作業機の昇降は油圧リフトレバーで行います。



- 水平モードでは耕深感度スイッチ、非常昇降スイッチは作動しません。

1-3. 耕深モード

凸凹地でも本機の浮き沈みに関係なく、作業機の深さを自動的にほぼ一定に保つ機能です。(作業機の傾きは本機に対して一定に保たれます。)

操作手順

1. モード切換えつまみを「耕深」の位置にします。コンビネーションメータ内の耕深モード表示灯(36頁参照)が点滅します。
2. 傾き設定つまみで本機に対する作業機の傾きを設定します。
3. 深さ設定つまみで希望する深さに設定します。
4. 上げ高さ設定つまみで本機に対する作業機の上げ高さを設定します。
5. 耕深感度スイッチで作業にあった感度に設定します。(85頁参照)
6. 油圧リフトレバーを下降側いっぱいに倒すと、耕深モード表示灯の点滅が点灯に変わり耕深制御状態に入ります。
7. 作業機の昇降は油圧リフトレバーで行います。

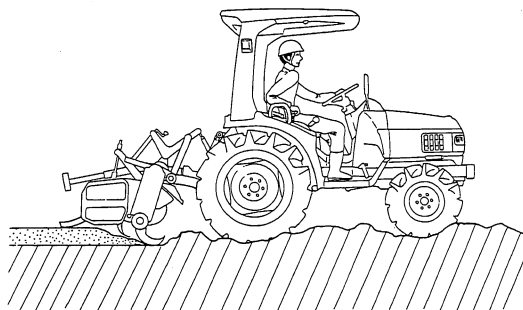
モード切換えつまみ

深さ設定
つまみ

傾き設定
つまみ

耕深感度スイッチ

上げ高さ
設定つまみ



作業機はほぼ一定の深
さで耕うん

取扱いのポイント

耕深モードで作業機を下降させる場合、必ず油圧リフトレバーを下降側いっぱいに倒して下さい。深さ設定つまみが浅い場合には、軽く操作(微調下降86頁参照)すると作業機が上昇する場合があります。

- 耕深モードではアタッチ取付けつまみ、非常昇降スイッチは作動しません。
- 耕深モードで作業中に他のモードに切換え、再び耕深モードに戻したときや、エンジンスイッチを切ったときには、必ず一度作業機を上昇させて下さい。作業機を上昇させないと耕深制御状態には入らない場合があります。
- 耕深モードで作業機を上昇位置にすると、深さ設定つまみでは作業機は作動しません。深さ設定は耕うん中に行ってください。

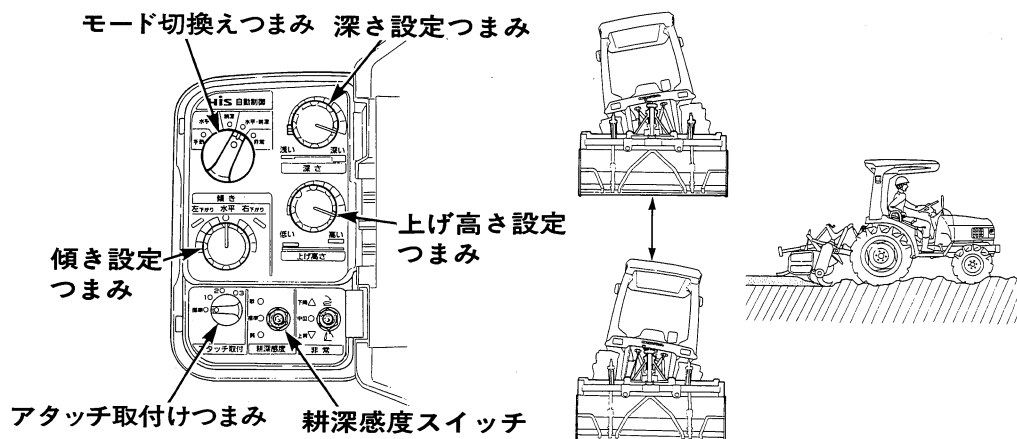
1-4. 水平・耕深モード

地表に対して作業機の傾き、深さを自動的にほぼ一定に保つ機能です。

本機が前後左右に傾いても、作業機は地表に対してほぼ一定の傾き、深さを保ちます。

操作手順

1. モード切換えつまみを“水平・耕深”の位置にします。コンビネーションメータ内の水平モード表示灯(36頁参照)が点灯し、耕深モード表示灯が点滅します。
2. 上げ高さ設定つまみで本機に対する作業機の上げ高さを設定します。
3. 傾き設定つまみで地表に対しての作業機の傾きを設定します。
4. 深さ設定つまみで希望する深さに設定します。
5. 耕深感度スイッチで作業にあった感度に設定します。(85頁参照)
6. アタッチ取付けつまみを作業機にあった位置に設定してください。(88頁参照)
7. 油圧リフトレバーを下降側いっぱい倒すと耕深モード表示灯の点滅が点灯に変わり耕深制御状態に入ります。
8. 作業機の昇降は油圧リフトレバーで行います。



取扱いのポイント

水平・耕深モードで作業機を下降させる場合、必ず油圧リフトレバーを下降側いっぱい倒して下さい。深さ設定つまみが浅い場合には、軽く操作(微調下降86頁参照)すると作業機が上昇する場合があります。

- 水平・耕深モードでは、非常昇降スイッチは作動しません。
- 水平・耕深モードでは作業中に他のモードに切換え、再び耕深モードに戻したときや、エンジンスイッチを切ったときには、必ず一度作業機を上昇させて下さい。作業機を上昇させないと耕深制御状態には入らない場合があります。
- 水平・耕深モードで作業機を上昇位置にすると、深さ設定つまみでは作業機は作動しません。深さ設定は耕うん中に行ってください。

1-5. 非常モード

HiS装置に異常が発生し油圧リフト レバーで作業機の昇降ができないときに使用します。

操作手順

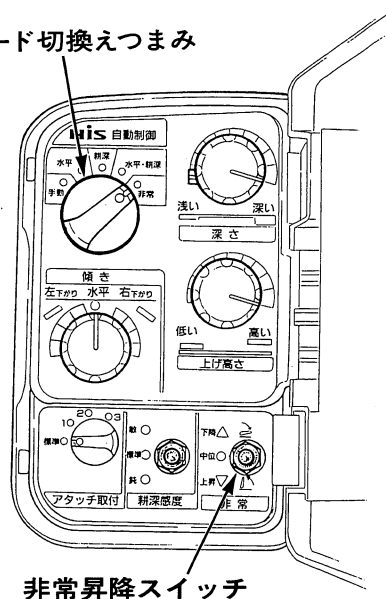
・エンジンが回転しているとき（作業機の昇降が可能です。）

1. モード切換えつまみを“非常”の位置にします。コンビネーションメータ内のHiS異常警告灯(36頁参照)が点灯します。
2. 非常昇降スイッチで作業機の昇降ができます。

・エンジンが停止しているとき（下降のみ可能です。）

1. モード切換えつまみを“非常”の位置にします。
2. エンジンスイッチのキーを“運転”の位置にします。HiS異常警告灯(36頁参照)が点灯します。
3. 非常昇降スイッチで作業機の下降ができます。

モード切換えつまみ



非常昇降スイッチ

取扱いのポイント

- ・非常時以外は使用しないでください。使用後はただちに手動モードに戻し、お買いあげ販売店へご連絡ください。非常モードのまま連続して使用すると油圧系統に悪影響をあたえます。
- ・非常モードで作業機を上昇させる場合は、上げすぎないように注意してください。リンク類が各部に干渉したり、ユニバーサル ジョイントに異常が発生する場合があります。

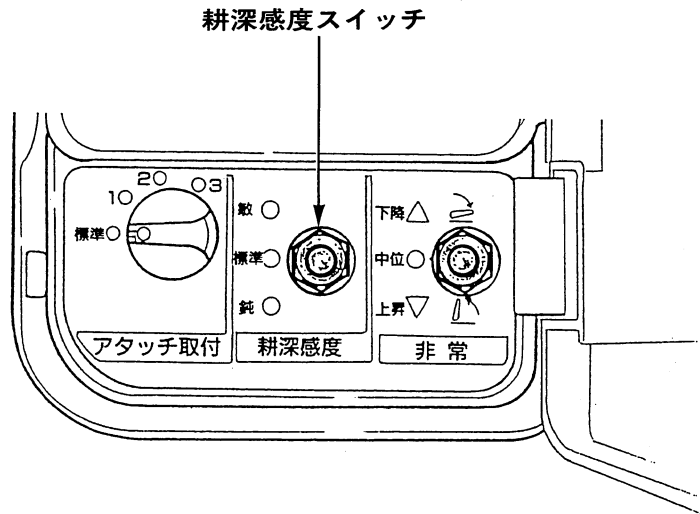
- 非常モードのときは緩上昇機能及び緩下降機能ははたらきません。作業機が急激に上昇・下降しますのでご注意ください。
- 作業機は設定された傾きを保持したまま上昇・下降します。
- バッテリーが放電した状態では非常モードは作動しません。

2. 耕深感度スイッチ

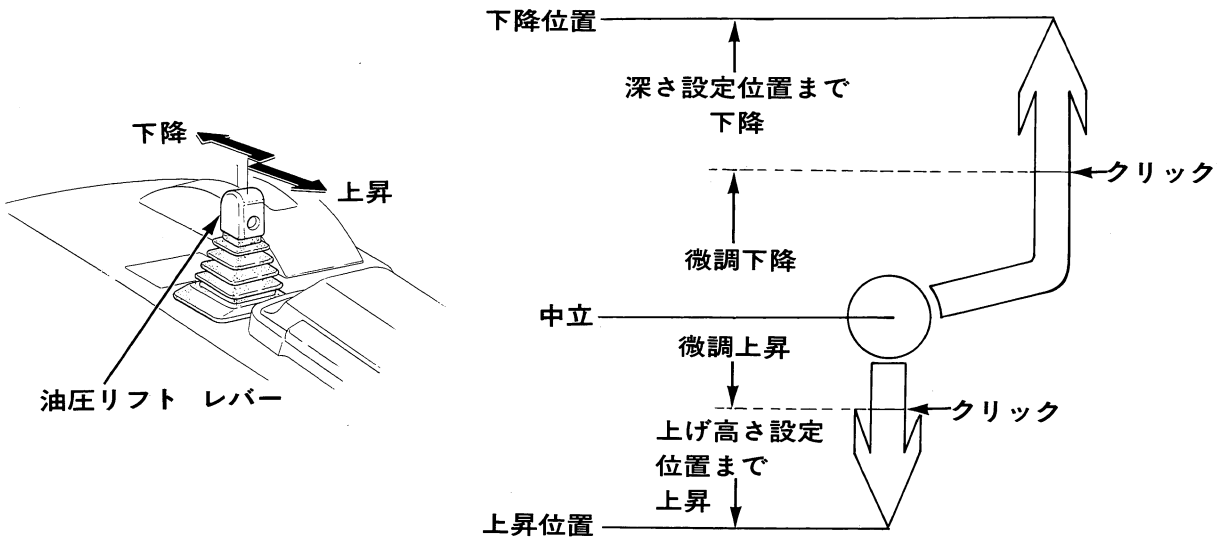
モード切換えつまみを“耕深”、“水平・耕深”モードにすると耕深感度スイッチが作動します。

下の表を目安に切換えください。

敏	畑地の整地作業及び車速の遅い耕うん作業または超湿田作業に用います。
標準	通常の耕うん作業に用います。
鈍	凸凹が多いほ場や車速の速い作業で均平性をより向上させたいときなどに用います。



3. 油圧リフト レバー



使いかた

- ・ 微調下降・微調上昇位置

レバーをクリック位置まで軽く倒すと、その間作業機は下降(上昇)し、離すとその位置で停止します。

作業中、油圧リフト レバーで微調操作をすると、作業機はその位置の深さ設定になります。元の深さ(深さ設定つまみで設定した深さ)に戻したいときは、レバーを一度いっばいに下降側に倒してください。

エンジンを停止すると、油圧リフト レバーを操作しても作業機は昇降しません。

・上昇位置

レバーを上昇側にいっぱい倒すと作業機は上げ高さ設定つまみで設定した上げ高さまで上昇します。

・下降位置

レバーを下降側いっぱい倒すと作業機は深さ設定つまみで設定した深さまで下降します。

作業機が上昇または下降している途中で止めたいときは、レバーを一瞬逆側に倒してください。

・“耕深” “水平・耕深” モードで作業機を使用する場合は、油圧リフト レバーを一度下降位置まで倒してください。

コンビネーション メータ内の耕深モード表示灯が点滅から点灯にかわり、耕深制御状態に入ったことを知らせます。一度点灯すると、油圧リフト レバーを操作しても点灯しつづけます。

耕深モード表示灯が点滅している間は、耕深制御状態になっていません。

・油圧リフト レバーを下降側いっぱい倒しても、耕深モード表示灯が点滅しつづけている場合は、ロータリの耕深センサ ハーネス及びカプラの取付け状態を確認してください。耕深センサのカプラが外れているとHiS異常警告灯が点灯し耕深モード表示灯が点滅します。

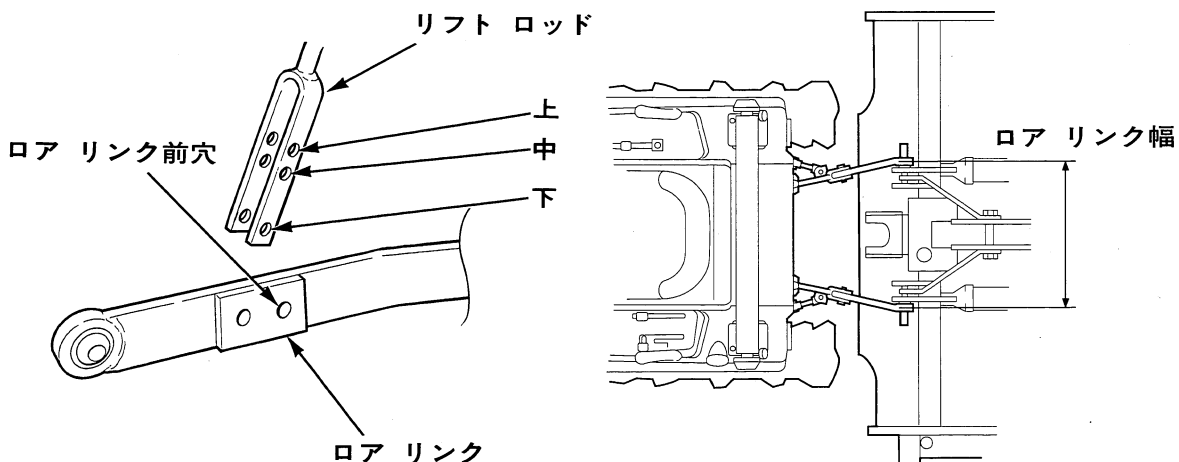
4. アタッチ取付けつまみ

モード切替えつまみを“水平”、“水平・耕深”の位置で使用するとき、取付ける作業機のロアリンク幅、リフトロッド穴に応じて切替えるつまみです。

切換え位置	ロアリンク幅(mm)	リフトロッド穴
標準	440～550	上または中
1	440～550	下
2	550～660	上または中
3	550～660	下

アタッチの取付け

- ・各種作業機を取付けるときは、作業機によって使用する穴位置が異なりますのでお買いあげ販売店へご相談ください。
- ・サイドドライブロータリR1300S・R1400S・R1500S、センタドライブロータリR1400Cは切換え位置“標準”、リフトロッド穴は“中”、ロアリンク穴は“前”の位置にしてください。



5. 安全装置(HiS仕様)

1. 油圧リフト レバーは手を離すと自動的に“中立”の位置に戻りますが、下降側(上昇側)に倒したままエンジンを始動しても作業機は下降(上昇)しません。
一度レバーを“中立”に戻すと、油圧リフト レバーによる操作が可能になります。
2. エンジン停止後、傾き設定つまみの設定を変えても、エンジン始動と同時に傾くことはありません。
エンジン始動後、傾き設定つまみを停止したときの位置に戻すか、あるいは油圧リフトレバーを操作することにより、再び操作が可能になります。
3. エンジンを停止した後は、油圧リフト レバーを操作しても作業機は、昇降しません。

6. 故障とHiS異常警告灯

HiSの全てが正常に作動している場合は、エンジンを始動するとコンビネーションメータ内のHiS異常警告灯は消えますが、装置のどこかに異常があるとHiS異常警告灯が点灯します。

耕深センサのカプラが外れているとHiS異常警告灯が点灯し、油圧リフトレバーを下降側にいっぱい倒しても耕深モード表示灯は点滅し続けます。カプラやハーネスを点検してください。

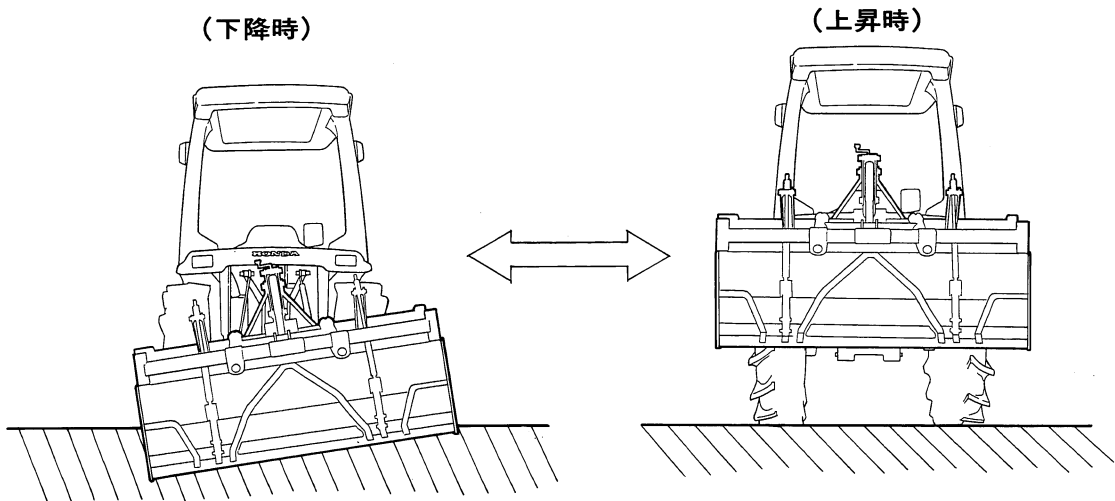
耕深センサのカプラ、ハーネスに異常がなく、HiS異常警告灯が点灯している場合は、お買いあげ販売店へご相談ください。

7. その他の機能

1. 自動平行復帰機能(HiS仕様)

モード切替えつまみが“非常”以外の位置にあるときは、作業機を傾けたまま上昇させると、自動的に本機に対して平行になります。

作業機を下降させると再びもとの傾きにもどります。



2. ショック軽減機能

〔緩上昇機能〕(HiS仕様・機械式ポジションコントロール仕様)

作業機を上昇させるとき、上げ高さ設定位置直前で上昇速度を遅くし、ショックを軽減します。

〔緩下降機能〕(HiS仕様)

“耕深”または“水平・耕深”モードで作業するとき、深さ設定つまみで設定された下降位置付近で下降速度を遅くして硬いほ場でも耕うん爪の食い込みがスムーズに行われます。

2. SL(超低速)の使いかた(SL仕様)

SLは使用する作業と取扱いを誤ると故障の原因になります。

次の注意事項を守って使用してください。

(1)使用できる作業

- ・ 深耕・細土耕うんなどのロータリ作業
- ・ ほ場が固くL(低速)では耕うんできないようなロータリ作業
- ・ プランタによる移植作業
- ・ 農業用トレンチャによる作業（農業用に限る）

(2)使用できない作業（故障の原因になります）

- ・ 湿田からの脱出
- ・ けん引
- ・ ほ場への出入り

(3)取扱い上の注意事項

- ・ SLへ変速するときは、クラッチ ペダルをいっばいに踏込んでください。
- ・ 必ず駐車ブレーキのロックを解除してから、発進してください。
- ・ 必ずクラッチを切ってからブレーキをかけてください。

取扱いのポイント

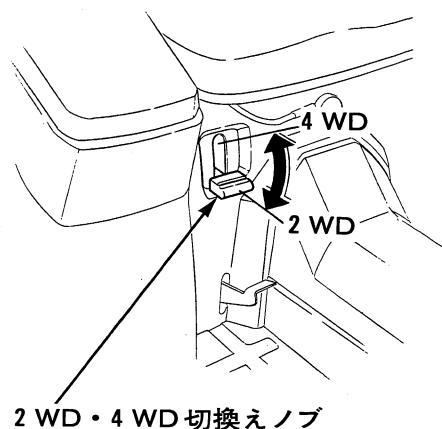
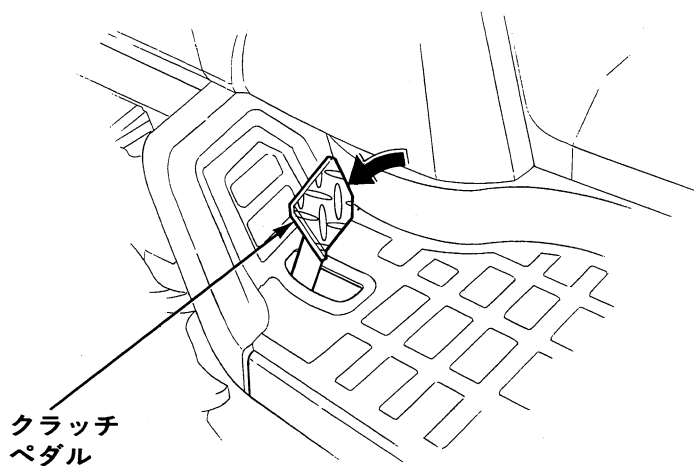
- ・ SLでは車軸の回転力が非常に強くなるので、ブレーキ ペダルだけを強く踏んでも、ブレーキはきづらくなります。またブレーキ ペダルだけを強く踏み込むと本機を破損する原因になります。必ずクラッチを切ってからブレーキ ペダルを踏んでください。
- ・ SLでは、けん引作業をしないでください。

3. 4 WD(4輪駆動)の使いかた

次の注意事項を読んで安全かつ経済的にご使用ください。

取扱いのポイント

- 2WDと4WDの切り替えはハンドルを直進状態にして行ってください。
- 2WDと4WDの切り替えは必ず本機を停止させ、クラッチペダルを踏み込んで操作を行ってください。
車輪回転中に2WDと4WDの切り替えは行わないでください。変速機などに悪影響をおよぼします。
- 2WDにすると後輪だけにブレーキがかかります。4WDにすると前輪と後輪にブレーキがかかります。
- 4WDの道路走行(特に舗装路面)、作業以外での信地旋回、デフロックの過度の使用はタイヤの摩耗を早め、燃費低下の原因となります。路面の状況、作業状況に応じて2WDと4WDを使い分けてください。
- 急カーブでの4WD走行は前輪にブレーキがかかったような状態になります。(この現象は4WD走行時に前輪と後輪の回転数の差によって生じるものです。)



4. デフロックの使いかた

デフロックは上手に使うと非常に便利ですが、使用方法を誤ると転倒などの危険や故障の原因ともなりますので注意してください。

車輪がスリップしやすいような地面で後輪の片輪のみがスリップする場合に使用してください。

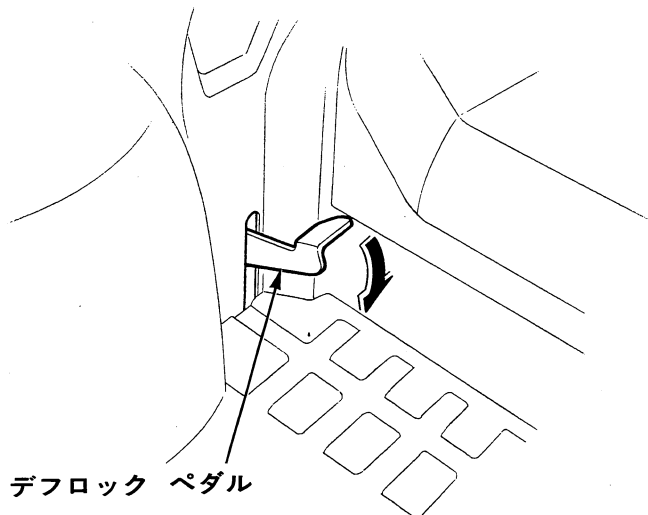
1. 農場への出入りや畦越え。
2. プラウ作業などけん引力が必要なとき。
3. 農場の一部軟弱なところで片輪がスリップしたとき。

取扱いのポイント

- ・ 走行中及び旋回中はデフロックを使用しないでください。又デフロックして旋回しないでください。デフを破損する可能性があります。
- ・ デフロック使用中は、絶対にブレーキを踏まないでください。同時使用すると本機を破損するおそれがあります。
- ・ デフロックを使用して作業するときは、必ず遅い車速で行ってください。
- ・ 踏み込むとロックされます。使わないときは足をペダルに乗せないでください。
- ・ デフロックを入れるときは、エンジン回転を下げてください。
- ・ デフロックを使った後は、必ず解除されている事を確認してください。

〈デフロック解除の確認方法〉

1. ブレーキ ペダルの連結板を外します。
2. 右・左どちらかのブレーキ ペダルを軽く踏んでください。踏んだ側の後輪が停止すれば解除しています。
3. 解除しにくい場合は、クラッチ ペダルを踏んで、ブレーキ ペダルを右・左交互に軽く踏んでください。(強く踏むと故障の原因になります。)



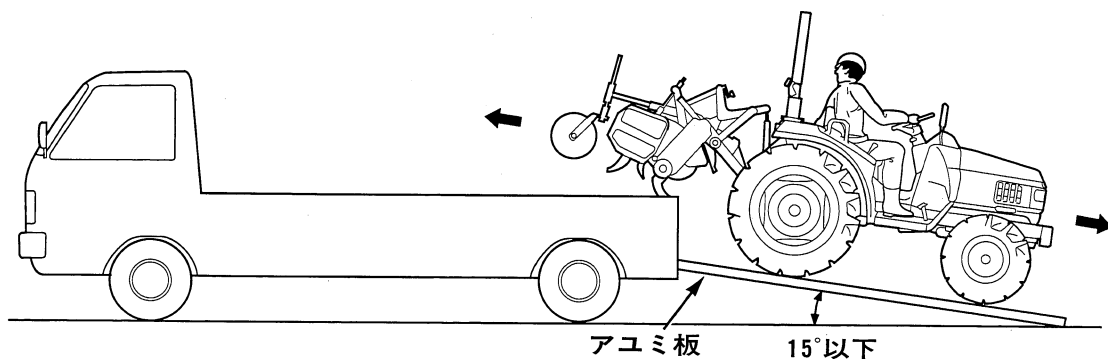
5. パワー ステアリングの取扱い(パワー ステアリング仕様)

1. パワー ステアリングはエンジンの回転によって油圧を発生させ操舵力を軽くする装置です。エンジンが停止しているときはハンドルが重くなります。またエンジンが停止しているときは遊びが大きくなります。
2. ハンドルをいっぱいに切り、さらに力を加え続けると、安全弁が働いて作動音(リリーフ音)が発生することがありますが、力を抜くと止まります。リリーフ音がでるような状態で運転を続けしないでください。油圧装置の故障の原因になります。
3. 停止した状態や側溝などに前輪を落としたとき、無理にハンドルを回したり、いっぱいに切ったところから更にハンドルを回したりしないでください。ステアリング装置やタイヤやリムなどの故障の原因になります。
4. ハンドルを右に切ったときと左に切ったときとでハンドルの重さが極端に違う場合は、装置の油圧回路内に空気が混入している可能性があります。
このような状態になったときは、本機を停止し、エンジン回転を2,500rpm以上にして、ハンドルを、左右いっばいにきる操作をくりかえしてください。この操作を10回くらいくり返すと空気が抜けます。この操作を行っても直らない場合は、お買いあげ販売店へご相談ください。
5. 外気温が低い場所で使用するときは、充分暖機運転を行ってください。エンジンを始動したとき異音が発生したり、始動直後ハンドルが重くなるのは油がかたくなっているためで故障ではありません。
6. エンジンが停止している状態では、ハンドルを大きく切らないでください。
リザーバ タンクからパワー ステアリング液がもれる原因になります。

運 搬 ・ 保 管 の し か た

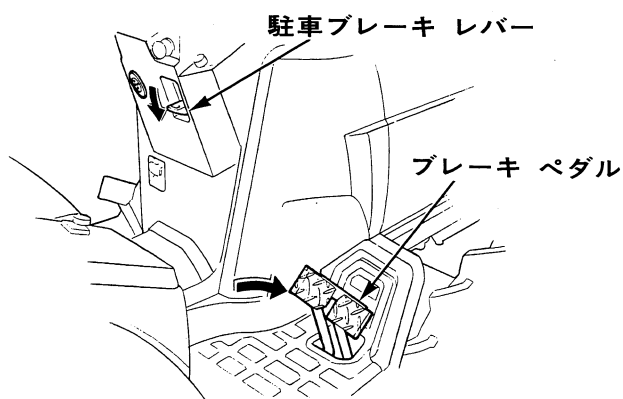
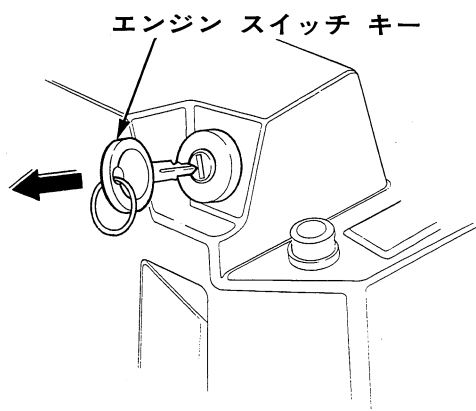
運搬(トラックへの積み降ろしのしかた)

1. 積込む時は、必ず傾斜角度15度以下になるように十分な強度と長さのアユミ板を使用し、本機の車輪幅に合わせ確実にセットしてください。
2. 本機の車輪とアユミ板を一直線上に合わせ、作業機側から低速で積込んでください。
3. ハンドル操作は落輪しないように慎重に行ってください。



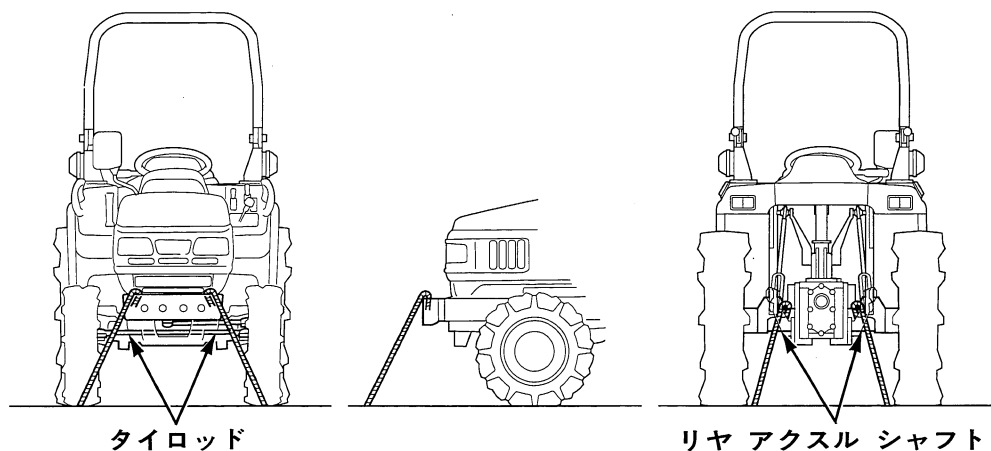
警告

- 必ず左右のブレーキペダルはセット(連結)してください。
 - 遅い車速で運転し、途中で変速しないでください。
 - HiS仕様はモード切替えつまみを「手動」の位置にして積み降ろし作業を行ってください。
- 万一積込む途中でエンストしたときは、すぐにブレーキペダルを踏み、次にクラッチペダルを踏み込んで徐々にブレーキをゆるめながら、平坦な所まで移動してください。再度エンジンを始動して積込み作業を行ってください。
 - 積み降ろし作業は2人以上で安全を確認してから行ってください。
4. 積載後は、駐車ブレーキをロックし、エンジンを停止し(41頁参照)、エンジンスイッチキーを外します。ロープなどで本機を確実に固定してください。



5. 本機を降ろす場合は、積込みの逆の手順で安全に注意して行ってください。

ロープなどのかけかた



取扱いのポイント

- ・タイロッドにはロープなどをかけないでください。
- ・リヤはリヤ アクスル シャフトにロープなどをかけてください。

使用後の手入れ

エンジン停止直後はエンジン、マフラ(消音器)などが高温になっています。点検、整備などは十分に冷えてから行ってください。

各部の清掃を行い格納するときは作業機を接地させてください。エンジン、マフラが十分に冷えてから格納してください。

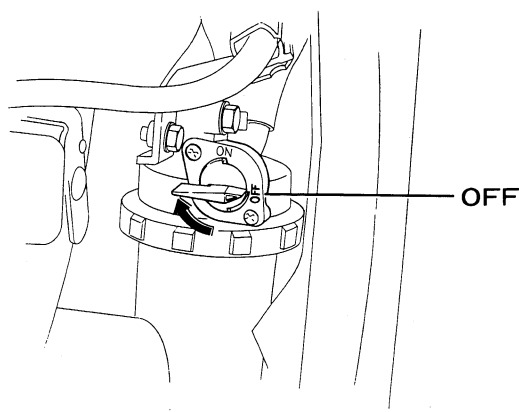
取扱いのポイント

洗車するときは、エアクリーナ(空気清浄器)の空気取入れ口や、電装部品に水をかけないでください。水がかかると故障の原因となります。

長期間使用しない場合の手入れ

本機を長期間使用しないときは、次の項目の手入れを行った後格納してください。

1. 次回の使用に備え、不具合箇所を整備し、定期点検項目の確認を行ってください。
2. ボンネットを開け、燃料コックを“OFF(閉)”の位置にします。



3. 各部にグリースを塗布してください。(13頁参照)
4. タイヤの空気圧は、標準より少し多めに(約10%増)入れてください。
5. 各部の配線、バッテリーコード、燃料、油圧配管などの亀裂、被覆の破れ、コードクランプの外れは確実に点検、整備してください。

取扱いのポイント

カブラ等の電装品には防錆剤などを塗付しないでください。

6. バッテリーアースコードを端子から外し、ビニールテープ等をまいておいてください。また、格納中バッテリーは1ヶ月に一回完全充電してください。
7. 駐車ブレーキをロックして、雨のかからない風通しの良い乾燥した場所に本機を水平にして格納してください。
8. エンジンスイッチキーを抜いてください。

⚠ 注意

本機にカバーをかけて格納するときは、エンジン、排気系が完全に冷えてから行ってください。火災の原因になります。

取扱いのポイント

作業機は完全に降ろした状態で保管してください。

定期手入れを行いましょ

警告

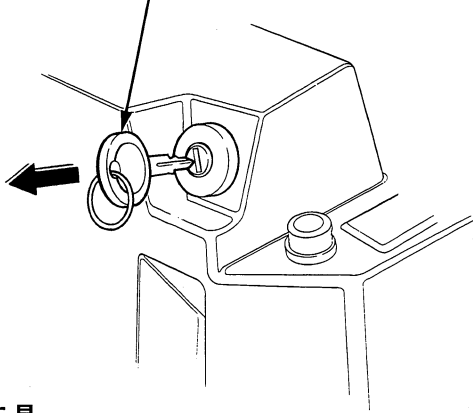
- ・手入れを行うときは、駐車ブレーキをロックして、エンジンを止めエンジン スイッチ キーを外して、本機を平坦な広い場所に置き、安全を確認してから行ってください。
- ・作業機を完全におろし、下降速度調整ノブを“遅い”(右回り)いっぽいに締め、油圧をロックしてください。

・手入れや修理には必ず純正部品を使用してください。

本機の性能を維持するためには、定期的な点検整備が不可欠です。長持ちさせるためにも、定期的な手入れが必要です。

点検時期と点検整備項目が次頁の表に示してあります。

キーを外してください



駐車ブレーキをロックしてください

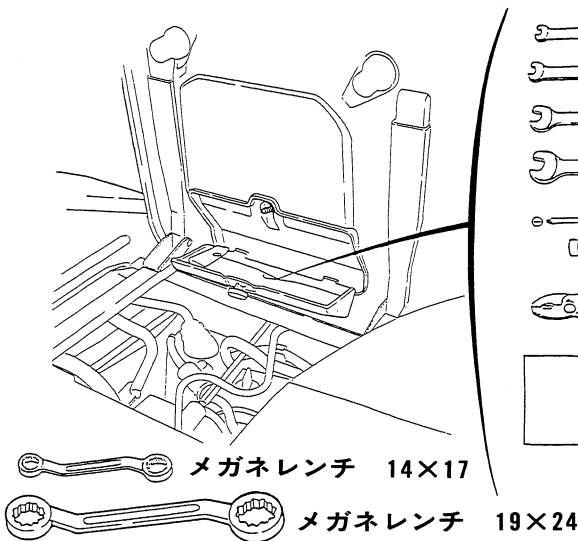


携帯工具

工具は点検、整備にかかすことのできないものです。常に携帯してください。

〔工具〕

〔付属部品〕



- スパナ 8×12
- スパナ 10×12
- スパナ 17×19
- スパナ 10×14
- ドライバ
- ドライバハンドル
- プライヤ
- 工具袋

スペアヒューズ (5 A、10A)

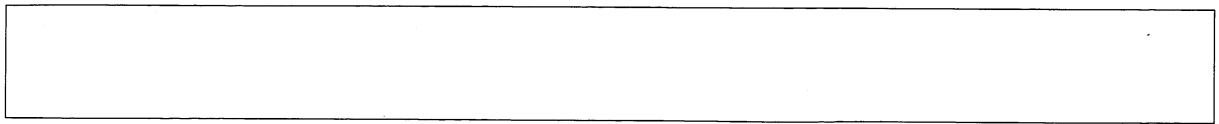
ナンバプレート
ブラケット

取付ビス
6×8

定期点検表

(点検時間はコンビネーションメータ内の積算時間計の累積時間を表わします。)

点検項目	点検時間	作業前点検	初 回	5 0 時間	100時間	200時間	300時間	400時間	500時間	1000時間	2 年毎
			50時間目	運転毎	運転毎	運転毎	運転毎	運転毎	運転毎		
潤滑系統	エンジンオイル	点検 交換	○	○ ○	○	○					
	エンジンオイルフィルタ	交換					○<注2>				
	トランスミッションオイル	点検 交換		○ ○<注2>	○			○<注2>			
	トランスミッション オイルフィルタ	交換		○<注2>				○<注2>			
	前車軸ケースオイル	交換		○					○		
	フロントP.T.Oギヤケースオイル	交換		○				○			
燃料系統	フューエルフィルタ(燃料ろ過器) (エレメント含む)	点検 清掃	○	○	○	○					
	燃料ろ過器エレメント	交換						○			
	フューエル ポンプ ストレーナ	交換						○<注2>			
	燃料の量、もれ 燃料タンク	点検 清掃	○	○	○				○<注2>		
	燃料チューブ	点検									○ <注2>
冷却系統	ラジエータ液(液量、洩れ) ラジエータ液 (ラジエータ内清掃含む)	点検 交換	○	○	○						○ <注2>
	ラジエータ スクリーン	清掃		○<注1>	○<注1>						
	ファンベルト	点検 調整	○	○ ○<注2>	○		○<注2>				
エアクリーナ	エアクリーナ(空気清浄器)	点検・清掃 交換		○<注1>	○<注1>				○		
電装系統	バッテリー	液量 点検 充電状態 点検		○ ○<注2>	○ ○<注2>						
	バッテリーアンダトレ	清掃		○<注1>	○<注1>						
	前照灯	点検	○	○	○						
	方向指示器	点検	○	○	○						
	ホーン(警告器)	点検	○	○	○						
	電気配線 各ターミナルのゆるみ クランプの状態	点検		○<注2>	○<注2>						



点検項目	点検時間	作業前点検	初 回	5 0 時間	100時間	200時間	300時間	400時間	500時間	1000時間	2 年毎	3 年毎
			50時間目	運転毎	運転毎	運転毎	運転毎	運転毎	運転毎	運 転 毎		
エンジン 本体	吸入排気弁隙間 調整									○〈注2〉		
	燃料噴射ノズル 点検								○〈注2〉			
	各部の締付け 点検								○〈注2〉			
操作系統	ハンドル 遊び ガタ 点検	○	○	○								
	パワーステアリングベルト 点検 調整	○	○	○		○〈注2〉						
	パワーステアリングオイル (液量及び洩れ) 点検	○	○	○								
車 体	タイヤ (締付ボルト・ナット、空気圧、亀裂、損傷) 点検	○	○	○								
	可倒式二柱安全フレームの ストップノブ ボルトの締付け点検	○										
	クラッチペダル 遊び点検 調整	○	○	○			○〈注2〉					
	ブレーキ 遊び 効き 点検 調整	○	○ ○	○			○					
	駐車ブレーキ作動 点検	○	○	○								
	トーン 調整											○〈注2〉
	各部の締付け点検、増締め 各部給油及びグリス塗布		○	○								

〈注1〉ホコリ等の多い所で使用した場合、エアクリーナ、バッテリーアンダトレー及びラジエータスクリーンの清掃は、作業に合わせ1日1回又は数時間毎に行ってください。

〈注2〉これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店へお申しつけください。

○無料点検

6か月50時間目と11か月または300時間目は無料点検です。点検時期になりましたら整備手帳をお持ちの上、販売店で点検を受けてください。

やさしい点検・整備

⚠警告

- ・点検・整備を行うときは、駐車ブレーキをロックして、エンジンを止めエンジン スイッチ キーを外して、本機を平坦な広い場所に置き、安全を確認してから行ってください。
- ・作業機を完全におろし、下降速度調整ノブを“遅い”(右回り)いっぱいに戻し、油圧をロックしてください。

エンジン オイルの交換

エンジン オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《交換時期》

初回50時間目、以後：100時間運転毎、または6ヶ月毎

推奨オイル：ホンダ純正ウルトラ ディーゼル オイルまたはAPI分類CC、CD級相当のSAE10W-30ディーゼル エンジン オイルをご使用ください。

⚠注意

エンジン停止直後は、エンジン本体の温度や、油温が高くなっていますので、冷えてからオイル交換を行ってください。やけどをするおそれがあります。

取扱いのポイント

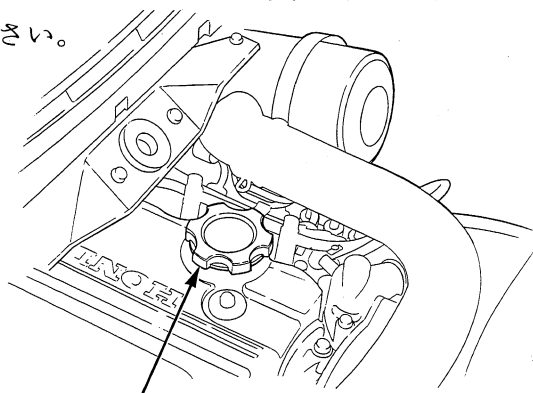
- ・オイルを入れすぎないように、注入後必ず点検してください。オイルが少ないときはもちろんのことですが、入れすぎることでもエンジンの故障の原因になります。
- ・オイルの処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。不明な場合は購入先にご相談のうえ処理してください。
- ・オイルは、使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換を行いましょう。
- ・メーカーやグレードの異なるオイルを混入しないでください。

・エンジン オイル フィルタの交換は販売店にご相談ください。

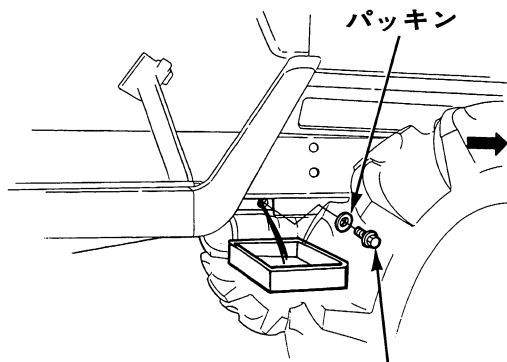
《規定量》2.9ℓ (オイル フィルタ交換時3.5ℓ)

オイル給油キャップ、排油ボルトを外して、オイルを抜いてください。抜き終わりましたら排油ボルトを確実に締付け、新しいオイルを規定量(59頁参照)入れてください。

オイル給油キャップを確実に締めてください。このときパッキンは新しい部品に交換してください。



オイル給油キャップ



排油ボルト

前車軸ケース オイルの交換

《交換時期》

初回50時間目、以後500時間運転毎

推奨オイル：ホンダ ウルトラ-U<2輪車用>(SAE10W-30)

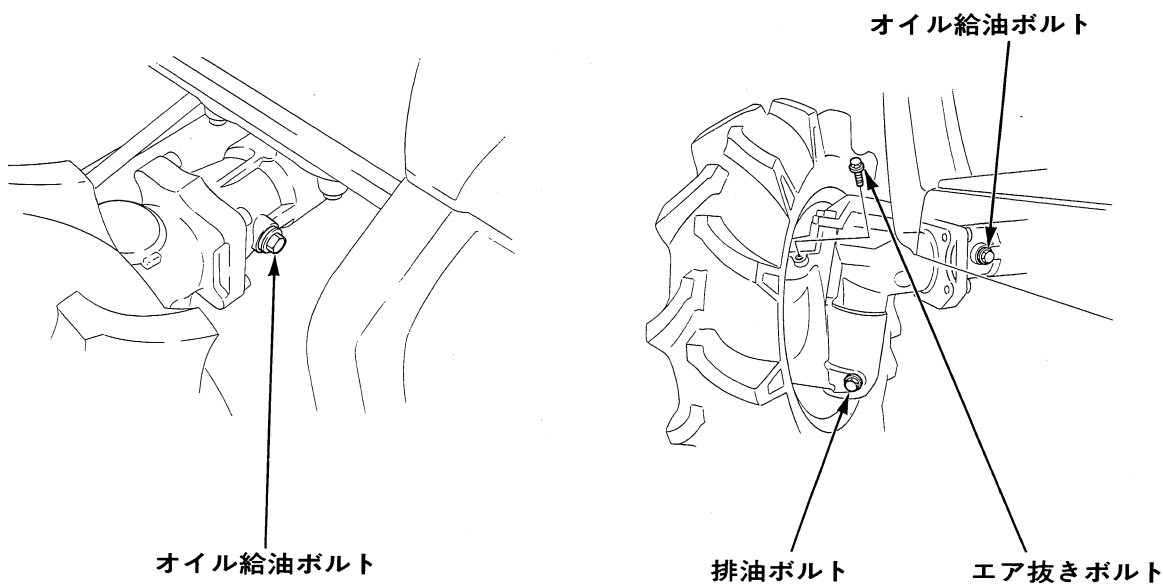
またはAPI分類SE、SF級相当のSAE10W-30オイルをご使用ください。

《規定量》 3.0ℓ

左右両車輪のエア抜きボルト、排油ボルトを外して、オイルを抜いてください。抜き終わりましたら、排油ボルトを確実に締付けてください。オイル給油ボルトを外し、新しいオイルを規定量入れオイル給油ボルトとエア抜きボルトを確実に締付けてください。

取扱いのポイント

・プラグは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。



ブレーキ ペダルの遊びの点検・調整

ブレーキ ペダルの遊びが規定値になっているか確認し(63頁参照)規定値になっていないときは調整を行ってください。

《調整時期》 初回50時間目、以後300時間毎

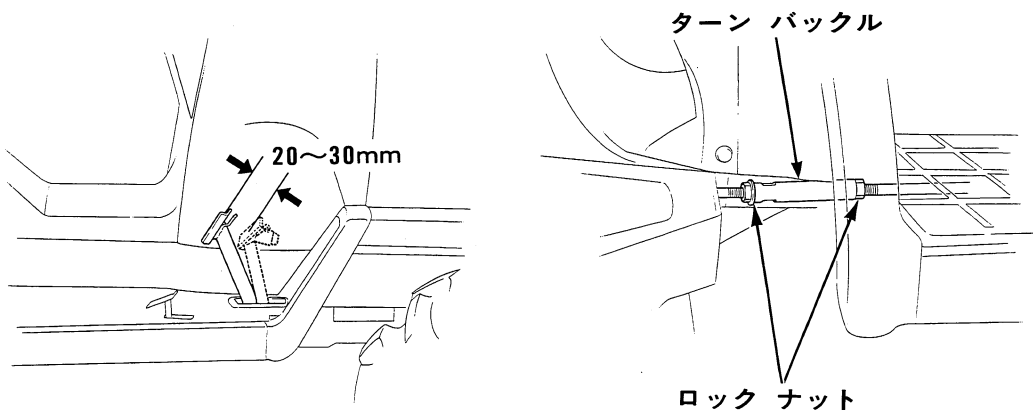
《調整方法》

1. 車輪に車止めをして駐車ブレーキを解除します。
2. ブレーキ ペダルの連結を解除します。
3. ロック ナットをゆるめ、ターン バックルを回して、ペダルの遊びが25mmになるように左右のブレーキを調整します。
4. 調整後ロック ナットを確実に締付けます。
5. ブレーキ ペダルを踏み込んで、駐車ブレーキが確実にロックすることを確認してください。
6. ブレーキ ペダルの左右を連結します。
7. 調整後、ゆっくり走行して、ブレーキの片効きがないか確認してください。

⚠ 警告

左右のペダルの遊びが同じになるように調整してください。左右の遊びがそろっていないとブレーキが片効きとなり、転倒や衝突するおそれがあります。

- ・ペダルの遊びの調整が規定値に調整できない場合はブレーキ シューの交換時期です。お買いあげ販売店へお申しつけください。



フューエル フィルタ(燃料ろ過器)の清掃、エレメントの交換

ろ過器内の水、ゴミを清掃し、エレメントを点検、交換してください。

《清掃時期》 100時間運転毎

《エレメントの交換》 400時間運転毎

1. ボンネットを開け、左サイド コラム カバーを外してフューエル フィルタの燃料コックを“OFF(閉)”の位置にしてください。
2. ろ過カップ上部のリングを回して、ろ過カップ、スプリング、エレメントを外します。
3. ろ過カップにたまった水やゴミを軽油で洗浄してください。
4. エレメントが汚れている場合は、軽油で洗ってください。
損傷、汚れのひどい場合は交換してください。
5. エレメント、スプリング、Oリング、ろ過カップを正しく取付け、リングをまわして確実に締めてください。

警告

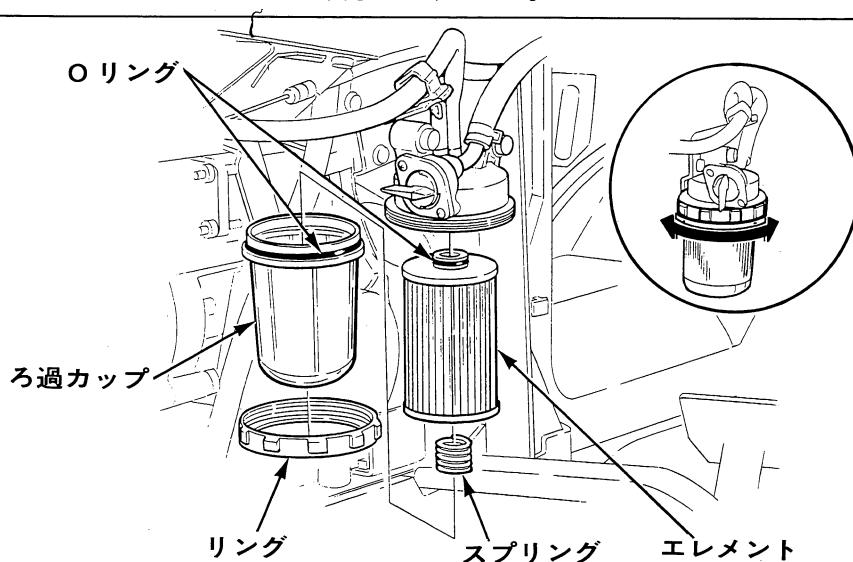
燃料は非常に引火しやすく、火災を引き起こすことがあります。

ろ過カップの清掃、エレメントの点検は、

- ・ エンジンを停止してください。
- ・ 換気の良い場所で行ってください。
- ・ 火気を近付けないでください。
- ・ 燃料はこぼさないようにしてください。万一こぼれたときは、布切れなどで完全にふき取り、火災や環境に注意して処分してください。

取扱いのポイント

- ・ 取付けるときは、ろ過カップの中にゴミやホコリが入らないように注意してください。
- ・ 組付け後燃料もれのないことを確認してください。



トランスミッション オイルの点検

トランスミッション オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。点検時期、オイル容量を守りましょう。

点検はエンジン停止後、3分以上経過してから行ってください。

《点検時期》50時間運転毎(交換はお買いあげ販売店へお申しつけください。)

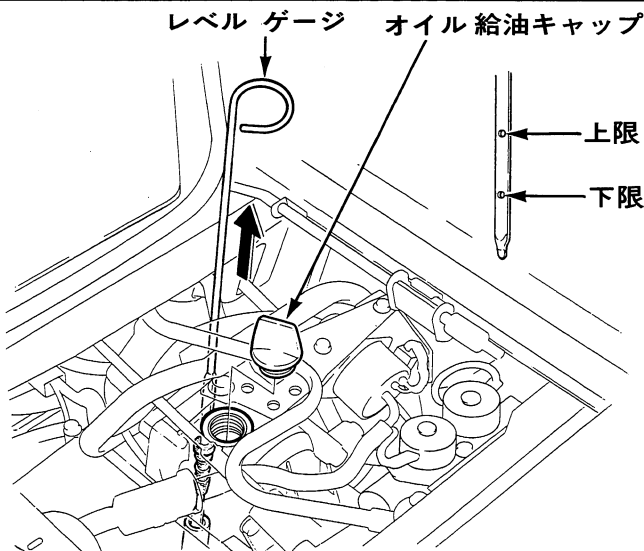
《点 検》

1. 作業機を取外し、リフト アームを最下降位置まで手で押しさげてください。
2. レベル ゲージを確実に差し込み、オイルが上限と下限の間にあるか点検します。
3. 下限に近いときは、上限まで補給してください。

交換はお買いあげ販売店へお申しつけください。

取扱いのポイント

- ・レベル ゲージは確実に差し込んでください。差し込みが不確実だとオイルが漏れることがあります。



《補 給》

給油キャップを外し、新しいオイルをゲージの上限まで補給します。

指定オイル：ホンダウルトラATF EX

取扱いのポイント

- ・急激に減っているときは、油圧システムの異常が考えられます。お買いあげ販売店へお申しつけください。
- ・オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。
- ・メーカー及び種類の異なるオイルを混入しないでください。

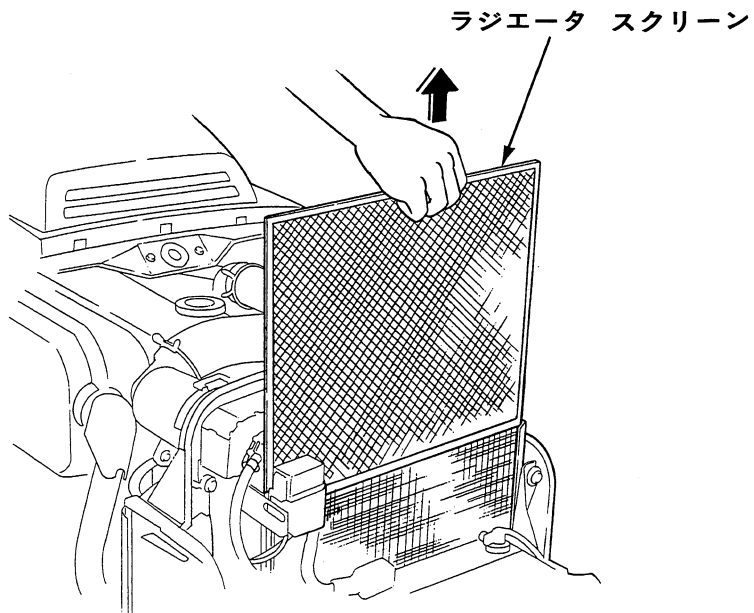
ラジエータ スクリーンの清掃

《清掃時期》 50時間運転毎

ホコリ等の多い所で使用した場合は作業にあわせ1日1回または数時間ごとに行ってください。

《清掃方法》

ラジエータからスクリーンを外して、汚れ、ゴミを取り除いてください。



エア クリーナ(空気清浄器)・プリ エア クリーナの点検・清掃・交換

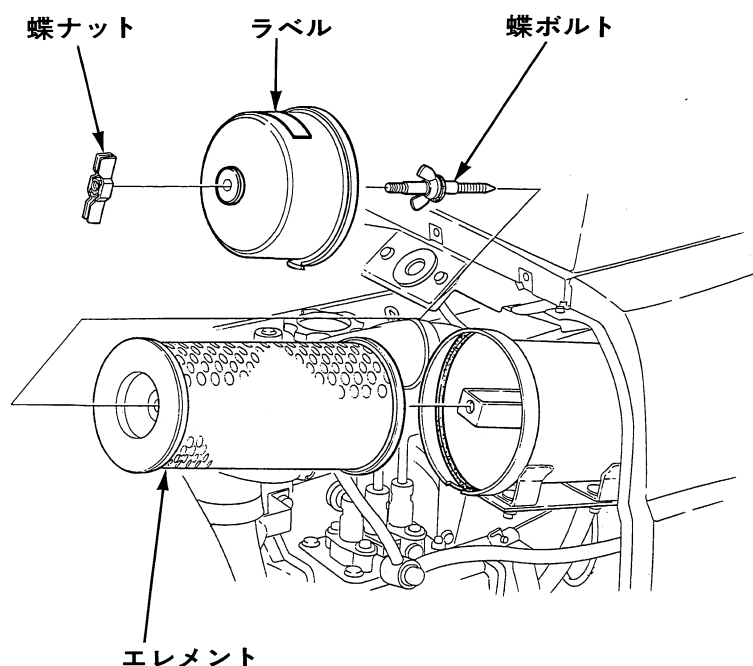
エア クリーナが目詰りすると出力不足や燃料消費量が多くなるので定期的に点検、清掃・交換を行ってください。

《点検・清掃時期》50時間運転毎

ホコリ等の多い所で使用した場合は、作業にあわせ1日1回または数時間ごとに行ってください。

《点検方法》

- 1.エア クリーナ カバーの蝶ナットを取外し、カバーを外します。
- 2.蝶ボルトを取外し、エレメントの汚れを点検します。
- 3.汚れのひどい場合は、エレメントの清掃を行ってください。



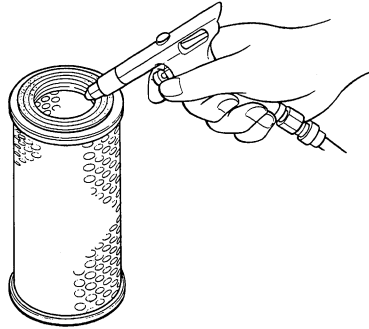
・組付けるときは、カバーのラベルが上になるように取付けてください。

取扱いのポイント

- ・エア クリーナ カバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動で、カバーが外れることがあります。
- ・エア クリーナ カバーやエレメントを装備しなかったり、正しく取付けられていないとエンジンに悪影響を与えます。

《清掃方法》

1. エレメントを取出します。
2. エレメントに圧縮空気を吹きかけるか、軽く叩いて汚れを落します。



《交換時期》 500時間運転毎

交換時期前でも汚れがひどい場合やエレメントが損傷している場合は、新品と交換してください。

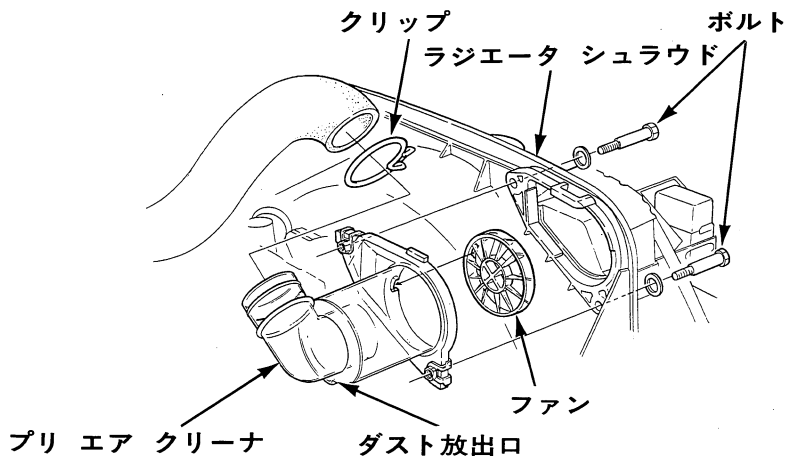
プリ エア クリーナの点検・清掃

《点検方法》

プリ エア クリーナの内側に汚れがないか、ダスト放出口が詰っていないか点検します。

《清掃方法》

1. クリップをゆるめプリ エア クリーナからエア クリーナ ホースを外します。
2. ボルト2本を外して、ラジエータ シュラウドからプリ エア クリーナを外します。
3. プリ エア クリーナからファンを外します。
4. プリ エア クリーナとファンからゴミを取り除き、汚れをきれいにふき取ってください。



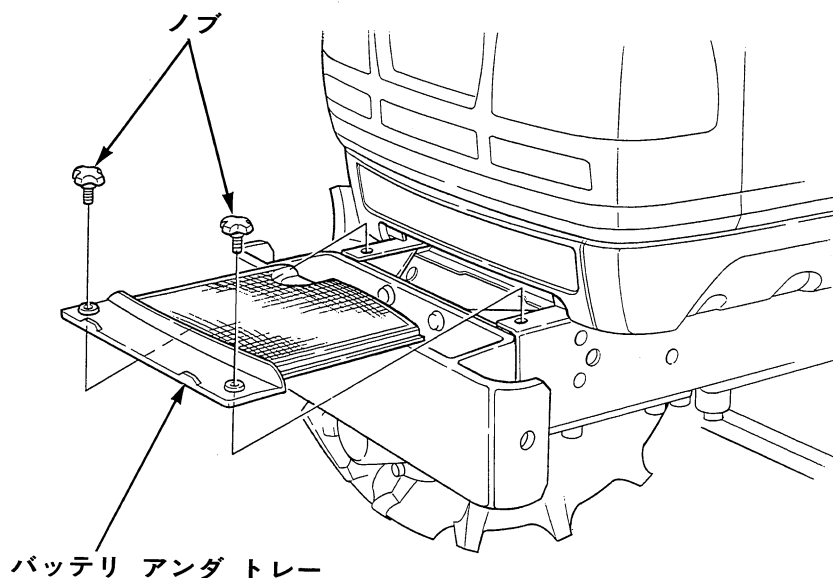
バッテリー アンダ トレーの清掃(フロントPTO仕様)

《清掃時期》 50時間運転毎

ホコリ等の多い所で使用した場合は、作業にあわせ1日1回または数時間ごとに行ってください。(またラジエータ スクリーンを清掃したときは同時にバッテリー アンダ トレーの清掃も行ってください。)

《清掃方法》

1. ノブを外してアンダ トレーを引き出します。
2. アンダ トレーの汚れゴミを取り除いてください。
3. 清掃後、アンダ トレーを取付け、ノブを確実に締付けます。



フロントPTOギヤ ケース オイルの交換(フロントPTO仕様)

《交換時期》 初回50時間目、以後300時間毎

推奨オイル：ホンダウルトラ-U <2 輪車用> (SAE10W-30)

またはAPI分類SE、SF、SG級相当のSAE10W-30オイルをご使用ください。

《規定量》 110cc

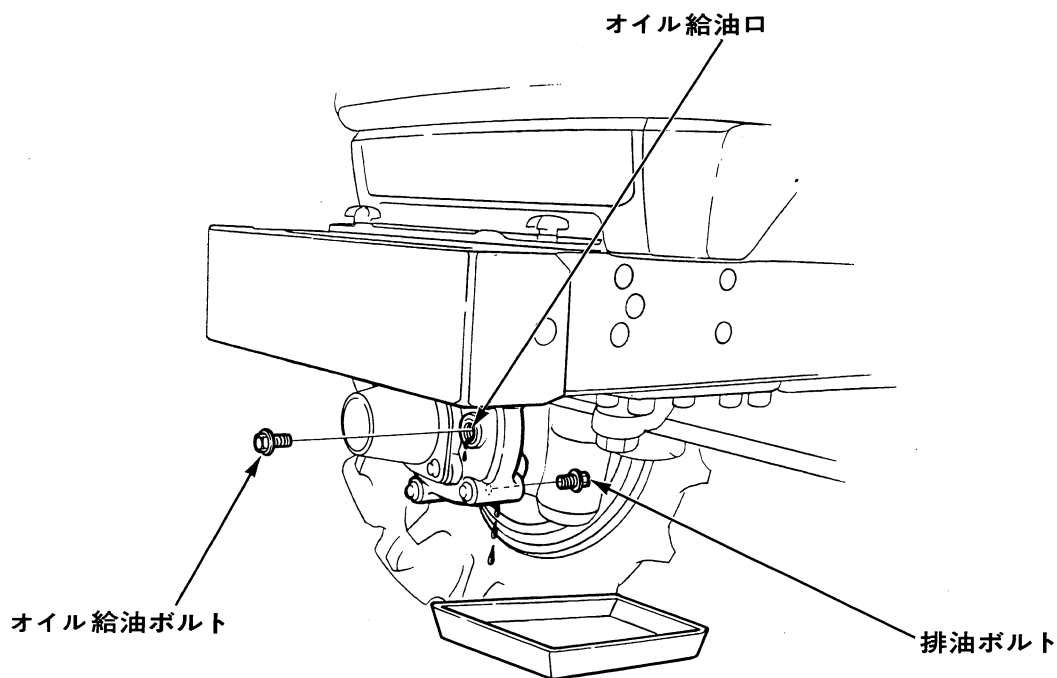
給油ボルト、排油ボルトを外し、オイルを抜いてください。

オイルを抜き終わりましたら排油ボルトを確実に締付けてください。

オイル給油口から新しいオイルを規定量注入し、オイル給油口の口元までオイルがあるか確認し給油ボルトを確実に締付けてください。

取扱いのポイント

- ・オイル給油ボルトは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。



バッテリーの点検

《点検時期》50時間運転毎

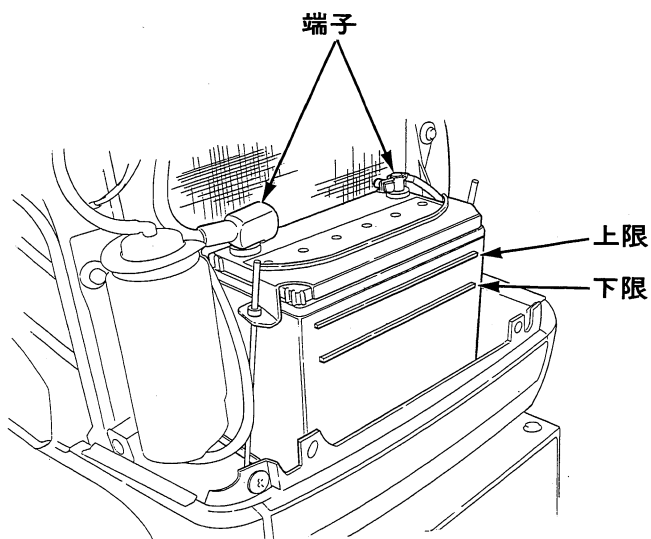
ボンネットを外して(57頁参照)バッテリーの液面が各槽とも**上限**(UPPER・LEVEL)と**下限**(LOWER・LEVEL)の間にあるか点検してください。

《補給》

少ないときはキャップを外し、バッテリー補充液(蒸留水)を**上限**(UPPER・LEVEL)まで補給します。

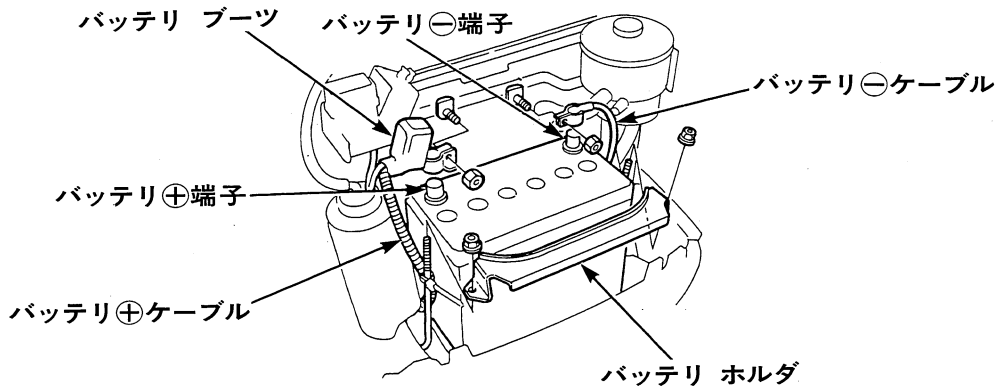
⚠警告

- バッテリー補充液(蒸留水)を入れすぎると電解液がこぼれ金属を腐食させる原因となります。上限(UPPER・LEVEL)以上入れないでください。万一バッテリー液をこぼした時には、必ず水洗いをしてください。
- バッテリーを取扱うときはショートによる火花や火気に注意してください。バッテリーからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。
- バッテリー液は希硫酸です。目や皮ふにつくとその部分が侵されますので十分注意してください。万一、付着したときは、すぐ多量の水で少なくとも15分間以上洗浄し、専門医の診療を受けてください。
- 本機へ搭載する以外の用途には使用しないでください。
- 充電は換気に十分注意し、換気の悪い場所で、行わないでください。
- バッテリーの充電をするときは、バッテリーのキャップをすべて外してください。



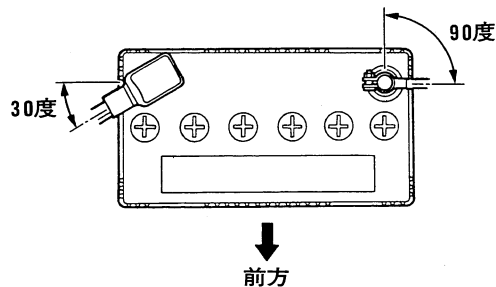
《バッテリーの取外し》

1. ボンネットを外します。(57頁参照)
2. バッテリーホルダを取外します。
3. バッテリー マイナス⊖ケーブルを外します。
4. バッテリー プラス⊕ケーブルを外します。
5. バッテリーを外します。



《バッテリーの取付け》

1. バッテリーを元の位置にセットします。
2. バッテリー プラス⊕ケーブルをプラス⊕端子に接続し、ナットを締付けます。
バッテリーブーツをプラス⊕端子にかぶせます。



3. バッテリー マイナス⊖ケーブルをマイナス⊖端子に接続し、ナットを締付けます。
4. バッテリーホルダを取付けます。
5. ボンネットを取付けます。(57頁参照)

《端子の手入れ》

端子のゆるみ、腐蝕は接触不良の原因となります。ゆるんでいるときは締付けてください。
端子に白い粉がついているときは、お湯で清掃し、接続後グリースを塗布してください。

《バッテリーあがりのとき》

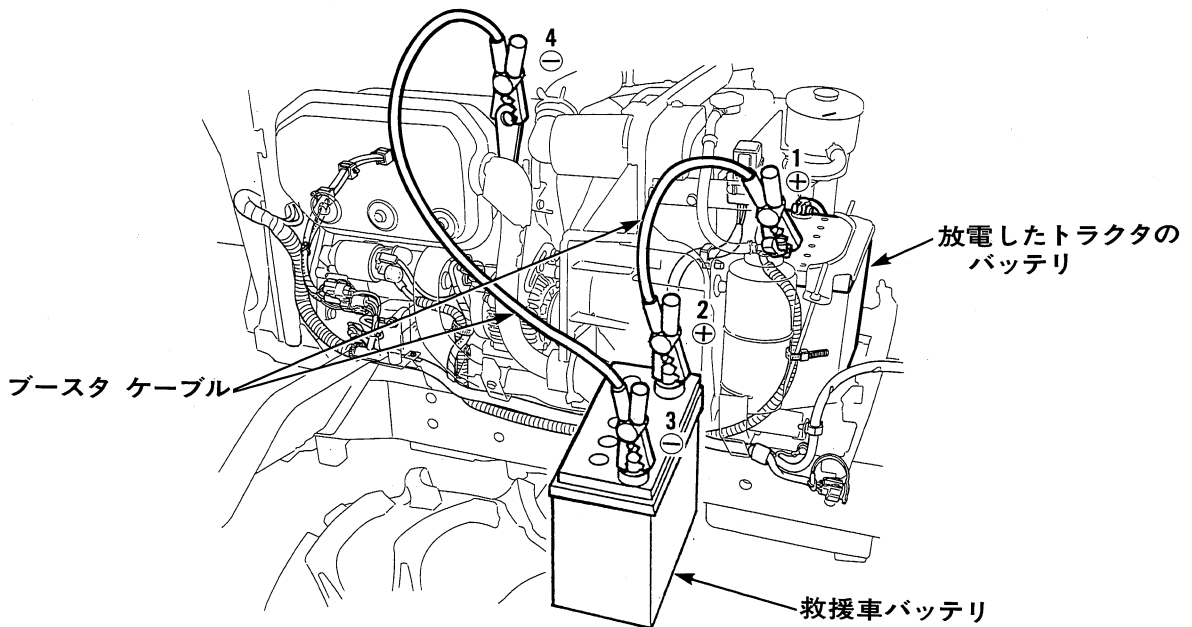
放電したバッテリーに他のバッテリーを接続してエンジンを始動する場合は、プラス⊕極とマイナス⊖極を間違えないよう注意してください。

1. ブースタ ケーブルを図の番号順で接続します。

- ・バッテリーのプラス⊕端子同士を接続します。
- ・マイナス⊖ケーブルの他端(4)の接続位置は、バッテリーから離れたエンジン本体に接続します。

⚠ 警告

マイナス⊖ケーブルの他端(4)を直接バッテリーのマイナス⊖端子に接続すると、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火する危険があります。



2. 救援側の車を始動し、少しエンジン回転を高めに保ちます。

3. トラクタのエンジンを始動します。

4. ブースタ ケーブルを接続順序の逆で外します。

- ・救援車は、必ず12Vバッテリー車を使用してください。
- ・ケーブル接続の際には、プラス⊕端子とマイナス⊖端子を絶対に接触させないでください。

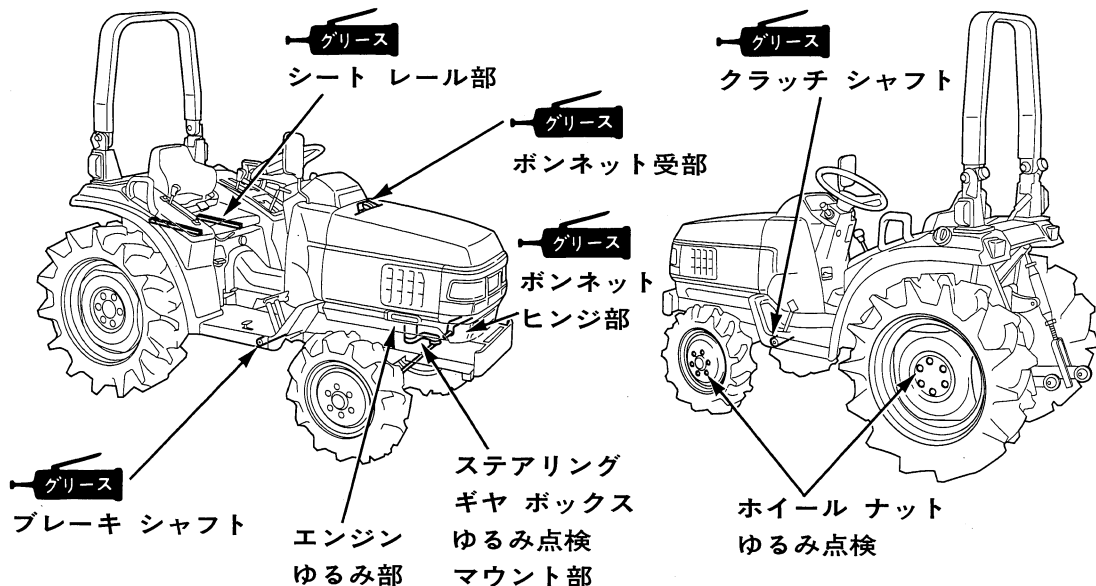
⚠ 注意

指、ケーブルなどがファン、ファンベルトなどに巻き込まれないように注意してください。

各部のゆるみ点検、増締め、グリス塗布

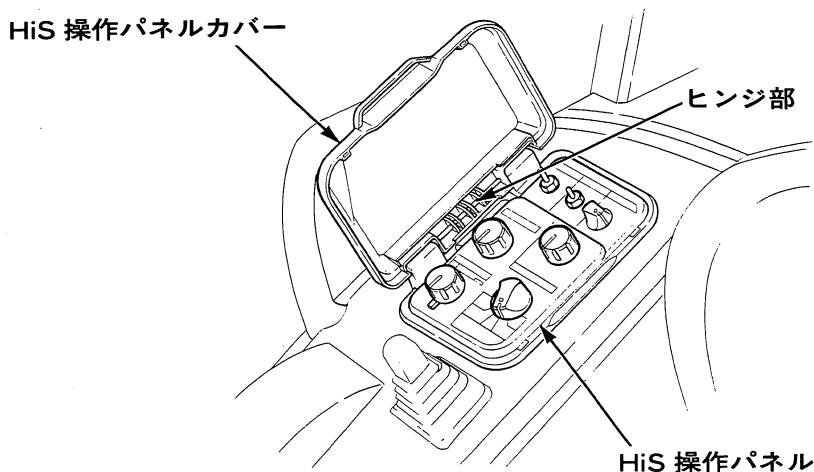
《点検時期》50時間運転毎

- ・各部のゆるみを点検してください。もしゆるんでいましたら確実に締付けを行ってください。
- ・各部に給油およびグリスを塗布してください。
- ・クラッチ シャフトとブレーキ シャフトは水田作業のあと必ず給油してください。



HiS操作パネルの清掃と給油

- ・乾いた布で汚れを拭きとってください。
- ・ベンジンやシンナーなどを使用しないでください。
- ・清掃後、ヒンジ部にグリスを塗布してください。



ヒューズの点検・交換

ヒューズが切れたら、その原因を調べてから規定容量のヒューズに交換してください。そのまま交換しても再び切れるおそれがあります。

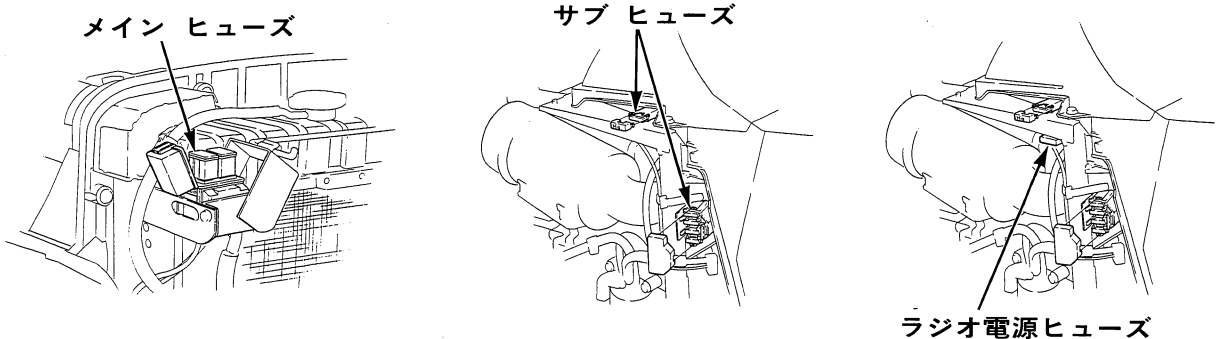
⚠ 警告

指定ヒューズ以外のもの、たとえば針金、銀紙などを使用すると配線コードなどを焼損させる原因となりますので、絶対に使用しないでください。火災を引き起こすことがあります。

⚠ 注意

運転停止直後は、マフラなどが熱くなっています。ヒューズの交換はマフラが冷えてから行ってください。

メイン ヒューズはラジエータ横、サブ ヒューズは左側サイド コラム カバーを外すと、フューエル フィルタの右上にあります。



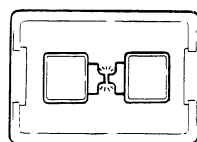
メイン ヒューズ(規定容量)	サブ ヒューズ(規定容量)	
主回路 : 50A	スタータ リレー : 10A	予備電源 : 10A
グロー回路 : 70A	前照灯メータ : 10A	グロー燃料制御 : 5 A
	グローランプ : 10A	ラジオ電源 : 5 A
	HiS : 10A	(固定式安全フレーム仕様のみ)
	(HiS仕様のみ)	

《点検・交換》

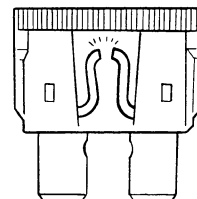
メイン ヒューズ : ふたを開けて切れていないか点検します。交換はお買いあげ販売店へお申しつけください。

サブ ヒューズ : ヒューズを取外して点検します。切れていたら新しいヒューズと交換してください。

メイン ヒューズ



サブ ヒューズ



ヘッドライト バルブ・コーナ ランプ バルブの交換

交換方法

ヘッドライト バルブの取外し

ボンネットを外し(56頁参照)、ヘッドライトの防水カバーを引き上げます。
ヘッドライト ソケットを押しながら左の方向に回し、バルブを取り出します。

コーナ ランプ バルブの取外し

ボンネットを開け、ソケットを左の方向に回して上に引き上げます。

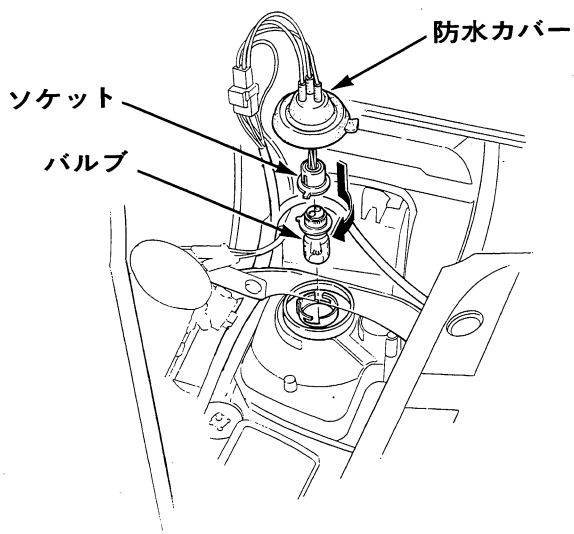
取付け

ソケットの突起をケースの溝に合わせ、押しながら右の方向に回してください。ヘッドライトは防水カバーを確実にケースへ取付けてください。

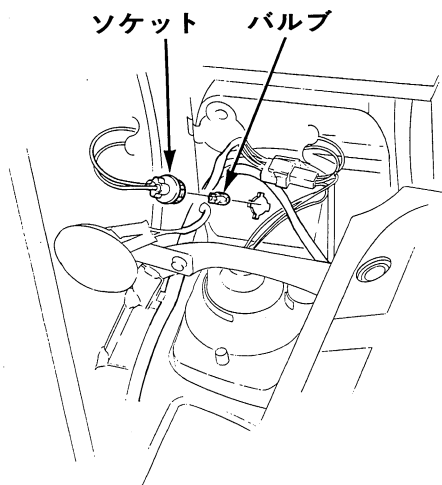
ヘッドライト バルブ(規定容量) : 12V 25/25W

コーナ ランプ バルブ(規定容量) : 12V 5W

ヘッドライト バルブ



コーナ ランプ バルブ

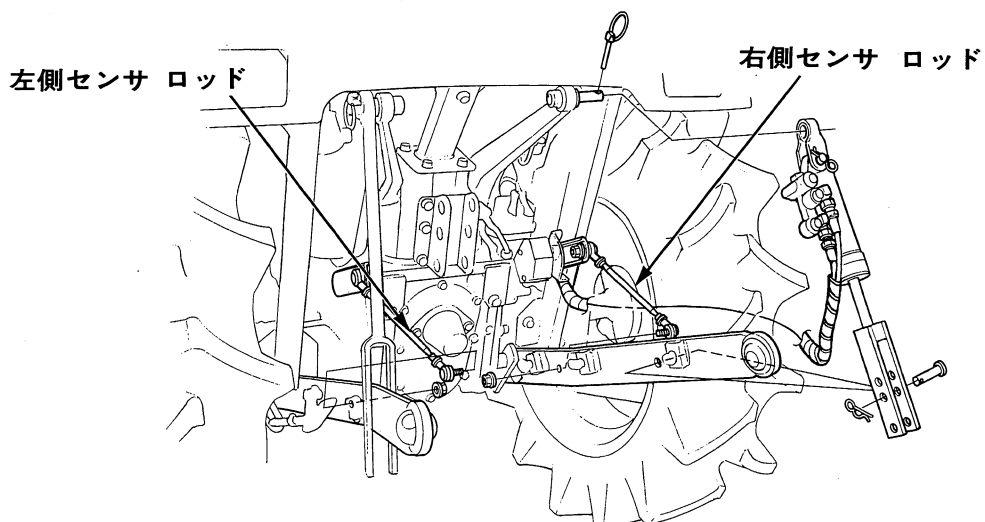
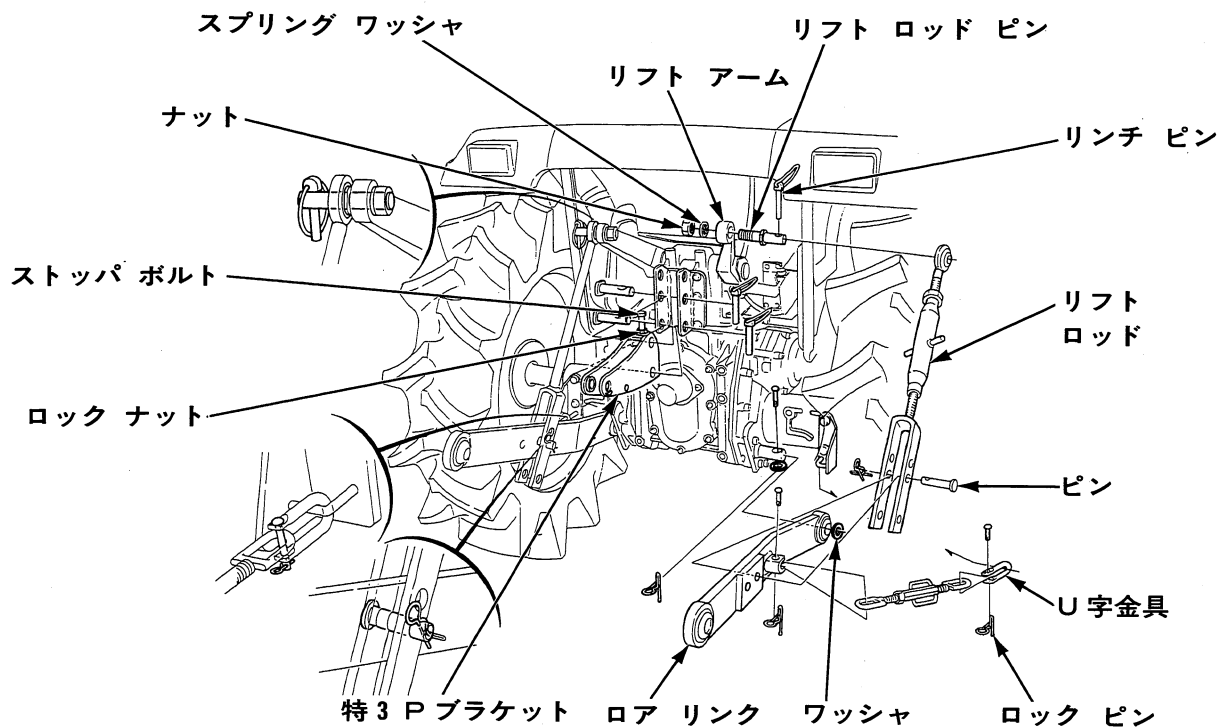


特3Pヒッチの取付け、取外し

取扱いのポイント

・使用する作業に応じて適切なウエイトをご使用ください。ウエイトについてはお買いあげ販売店へお申しつけください。

(特3Pブラケット関連部品はホンダ専用ロータリの標準部品です。)

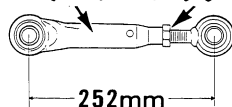


(HiS仕様)

・取付け

1. 取付けを行う前に、トップ リンクの長さが規定の寸法になっているか確認してください。

トップ リンク ロック ナット



規定の寸法になっていない場合はロック ナットをゆるめて長さの調整を行ってください。

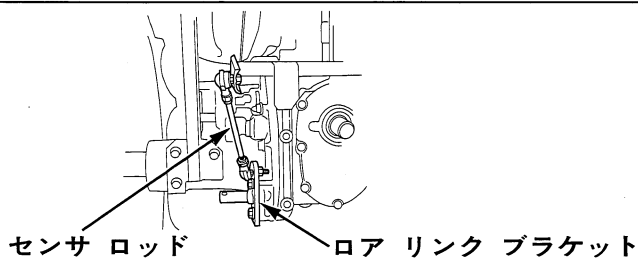
2. 特3Pブラケットを本機側のブラケットにピン2本とリンチ ピン2本で取付け、ロック ナット、ストッパ ボルトを締付けてください。
3. トップ リンクを特3Pブラケットに取付け、ピンとリンチ ピンで固定します。
4. U字金具をスタビライザ ブラケットに取付け、スタビライザの一方をU字金具に入れピンを通してロック ピンで止めます。
5. リフト アームにリフト ロッド ピンを通しスプリング ワシヤを入れてナットで締付けます。
6. ロア リンクを本機側のピンに入れリンチ ピンで固定します。
7. リフト ロッドをリフト ロッド ピンに入れリンチ ピンで固定します。
8. リフト ロッドとロア リンクをピンとロック ピンで結合します。
HiS仕様：センサ ロッドをロア リンクに取付けフランジ ナットで締付けます。
センサ ロッドの取付けは左側を先に取付け、次に右側センサ ロッドを取付けます。
9. スタビライザの一方をロア リンクのブラケットに入れピンをそう入しロック ピンで止めます。

・取外しは取付けの逆手順で行います。

・外したセンサ ロッドは図のようにロア リンク ブラケットの穴に取付けてください。

取扱いのポイント

ロア リンク、リフト ロッドを取外す場合は、必ずセンサ ロッドを先に(右側のセンサ ロッドを先に)外してください。センサ ロッドに無理な力を加えると正確な制御が行なわれなくなることがあります。(HiS仕様)



故 障 の と き は

本機の調子が悪いときは下記の項目を点検し、処置をしてください。

処置をしても、直らない場合はむやみに分解しないで、はやめにお買いあげ販売店で点検整備をお受けください。

1. スタータが回転しないときは

- ・クラッチ ペダルを踏み込んでいますか →クラッチ ペダルをいっばいに踏み込んでから、エンジン スイッチを“始動”にしてください。
- ・主変速機が“N”の位置になっていますか →主変速機を“N”の位置にしてください。
(EST仕様)
- ・バッテリー ターミナル部がゆるんでいたり腐蝕していませんか →ターミナル部を清掃し、確実に取付けてください。
- ・ヒューズが切れていませんか →新しいヒューズと交換してください。
- ・バッテリーが放電していませんか →バッテリーを充電してください。

2. スタータが回転してもエンジンが始動しないときは

- ・燃料はありますか →補給してください。
- ・始動手順が間違っていないですか →正しい始動手順でやり直してください。

3. エンジンの力が出ないときは

- ・エア クリーナのエLEMENTが目づまりしていませんか →ELEMENTを清掃してください。

4. 灯光装置が点灯していないときは

- ・エンジン スイッチが“運転”の位置になっていませんか →エンジン スイッチを“運転”にしてください。
- ・バルブ(電球)が切れていませんか →新しいバルブと交換してください。
- ・ヒューズが切れていませんか →新しいヒューズと交換してください。

5. ホーン(警報器)が鳴らないときは

- ・ヒューズが切れていませんか →新しいヒューズと交換してください。
- ・エンジン スイッチが“運転”の位置になっていませんか →エンジン スイッチを確認してください。

6. 作業機が上げ下げできないときは

- ・下降速度調整ノブは開いていますか →下降速度調整ノブを開き下降速度を調整してください。速度調整は下降のみできます。
- ・油圧リフト レバーが下降の位置になっていませんか →リフト レバーを作業に合わせて操作してください。

- ・トランスミッション オイルは入っていますか →オイルを規定量入れてください。
- ・油圧前後切換えレバーが使用する側にセットしてありますか(フロントPTO仕様) →使用する側に確実にセットしてください。
- ・モード切換えつまみが“非常”の位置になっていませんか(HiS仕様) →“非常”以外のモードに切換えてください。
- ・深さ設定つまみが“浅い”の方向にいっぱい回っていませんか(HiS仕様) →“深い”の方向に回してください。
- ・上げ高さ設定つまみが、低い”の方向にいっぱい回っていませんか(HiS仕様) →“高い”の方向に回してください。
- ・HiS異状警告灯が点灯していませんか(HiS仕様) →お買いあげ販売店へお申しつけください。
- ・エンジン スイッチを“運転”の位置にし、モード切換えつまみを“水平”、“耕深”と切換えたとき、各モード表示灯が消灯していませんか(HiS仕様) →ヒューズが切れていないか確認してください。

7. 耕深制御が作動しないときは(HiS仕様)

- ・耕深モード表示灯が消灯していませんか →モード切換えつまみを“耕深”または“水平・耕深”の位置にしてください。
- ・耕深モード表示灯が点滅していませんか →油圧リフト レバーを下降側いっぱい倒してください。
- ・HiS異常警告灯が点灯し、耕深モード表示灯が点滅していませんか →耕深センサ カプラが確実に取付けられているか確認してください。
- ・ロータリのリヤ カバーが上っていませんか →ロータリのリヤ カバーを下げて使用してください。
- ・ロータリのリヤ カバーが固定されていませんか →ロータリのリヤ カバーの加圧ロッドのロックピンを適切な穴にセットしなおして、リヤ カバーが自由に動くようにしてください。

8. 充電警告灯がエンジン始動後も消灯しないときは

- ・配線の破損、ショートなどありませんか →お買いあげ販売店へお申しつけください。

9. エンジン オイル警告灯がエンジン始動後も消灯しないときは

- ・オイルは規定量入っていますか →オイルを補給してください。

10. 走行中に駐車警告灯が点灯し、ブザーが鳴っているときには

- ・駐車ブレーキが解除されていますか →解除してください。

11. ブレーキが片効きするときは

- ・各タイヤの空気圧が不均等ではありませんか →各タイヤの空気圧を規定値にしてください。
- ・ブレーキ ペダルの遊び量が左右とも同じですか →左右とも規定の遊び量にしてください。
- ・ブレーキ ペダル左右セット(連結)してありますか →左右セット(連結)にしてください。

12. ハンドルが重いときは

- ・各タイヤの空気圧が不足していませんか →各タイヤの空気圧を規定値にしてください。
- ・パワー ステアリング液が不足していませんか(パワー ステアリング仕様) →パワー ステアリング液を補給してください。
- ・パワー ステアリング ベルトがゆるんでいませんか(パワー ステアリング仕様) →ベルトの張りを点検し適正值でない場合はお買いあげ販売店へお申しつけください。

13. ハンドルが取られるときは

- ・各タイヤの空気圧が不均等ではありませんか →各タイヤの空気圧を規定値にしてください。
- ・ブレーキ ペダルの遊びが左右とも同じですか →左右とも規定の遊び量にしてください。

14. クラッチがすべるときは

- ・クラッチ ペダルの遊びは適切ですか →お買いあげ販売店へお申しつけください。

15. エンジンがオーバ ヒートしたときは

本機を安全な場所に止め、エンジンを低回転で運転したままボンネットを開け冷やしてください。

⚠ 注意

エンジン各部は高温になっています。また回転部などに巻き込まれないよう十分注意してください。

水温計の針が下がってきたらエンジンを止めます。水温計が下がらない場合はただちにエンジンを停止してください。

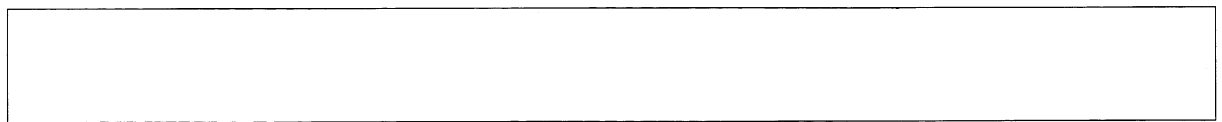
十分にエンジンが冷えてから、冷却水の量、もれ、ラジエータ スクリーンのゴミ詰りを点検してください。

故障の修理

お買いあげ販売店へお申しつけください。

主 要 諸 元

名 称		TX18					
タ イ プ		KAR	KAQ	KBR 2	KBQ 2	KCR 2	KCQ 2
型 式		TAAD					
エ ン ジ ン	型 式	GRA					
	形 式	4 サイクル縦置形ディーゼル					
	シ リ ン ダ 数	3 気筒					
	総 排 気 量	1,061cm ³					
	最大出力/回転数	18PS/2,600rpm					
	シリンダ内径×行程	76×78mm					
	使 用 燃 料	軽 油					
	始 動 方 法	セル スタータ式					
	潤 滑 方 式	圧送式					
	冷 却 方 式	水 冷					
	バ ッ テ リ 容 量	12V—45Ah					
車 両 寸 法	全 長	2,685mm					
	全 幅	1,160mm					
	全 高	1,885mm	1,940mm	1,885mm	1,940mm	1,885mm	1,940mm
	軸 距	1,350mm					
	最 低 地 上 高	290mm					
輪 距	前 輪	865mm					
	後 輪	910mm					
タイ ヤ ズ	前 輪	5.00—12					
	後 輪	8.3—20					
重 量(装備)		765kg	770kg	785kg	790kg	785kg	790kg
P T O 軸	回 転 数	1 速554 2 速735 3 速1,219rpm					
	軸 寸 法	6×35×28mm角形スプライン(JIS35)					
ク ラ ッ チ 方 式		湿式多板式					
か じ 取 方 式		ボールリサーキュレーティング式				ボールリサーキュレーティング式 (パワーアシスト式)	
変 速 方 式		選択摺動式・常時嚙合式併用					
変 速 段 数		前進 9 段・後進 3 段			前進12段・後進 4 段		
駆 動 方 式		4 輪駆動(2 輪駆動切換式)					
最 小 旋 回 半 径		1.85m					
制 動 装 置		機械式湿式多板ディスクブレーキ					
差 動 方 式		かさ歯車式(デフロック付)					
安 全 鑑 定 番 号		1301012〔農用トラクタ(乗用型)〕					
型 式 認 定 番 号		農1747					

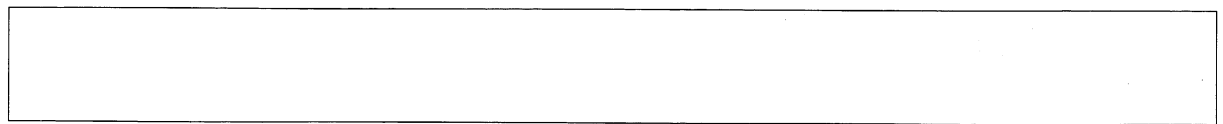


名	称	TX18	
タ	イ	ECR 2	ECQ 2
型	式	TAAD	
エンジン	型	GRA	
	形	4サイクル縦置形ディーゼル	
	シリンダ数	3気筒	
	総排気量	1,061cm ³	
	最大出力/回転数	18PS/2,600rpm	
	シリンダ内径×行程	76×78mm	
	使用燃料	軽油	
	始動方法	セルスタート式	
	潤滑方式	圧送式	
	冷却方式	水冷	
		バッテリー容量	12V-45Ah
車両寸法	全長	2,685mm	
	全幅	1,160mm	
	全高	1,885mm	1,940mm
	軸距	1,350mm	
	最低地上高	290mm	
輪距	前輪	865mm	
	後輪	910mm	
クサイヤズ	前輪	5.00-12	
	後輪	8.3-20	
重	量(装備)	795kg	800kg
P T O 軸	回 転 数	1速554 2速735 3速1,219rpm	
	軸 寸 法	6×35×28mm角形スプライン(JIS35)	
ク ラ ッ チ 方 式		湿式多板式	
か じ 取 方 式		ボールリサーキュレーティング式 (パワーアシスト付)	
ク ラ ッ チ 形 式		湿式多板油圧クラッチ切換式	
変 速 機 形 式		選択摺動式・常時嚙合式併用	
変 速 段 数		前進12段・後進4段	
駆 動 方 式		4輪駆動(2輪駆動切換式)	
最 小 旋 回 半 径		1.85m	
制 動 装 置		機械式湿式多板ディスクブレーキ	
差 動 方 式		かき歯車式(デフロック付)	
安 全 鑑 定 番 号		1301012〔農用トラクタ(乗用型)〕	
型 式 認 定 番 号		農1747	

単位km/h

TX18												
		副変速	主変速		KAR	KAQ	KBR2	KBQ2	KCR2	KCQ2	ECR 2	ECQ 2
走行速度	前進	超低速 (SL)	—	1	/	/	0.11				0.11	
			—	2			0.18				0.18	
			—	3			0.30				0.30	
		低速 (L)	1	1	0.32				0.32			
			2	2	0.49				0.48			
			3	3	0.84				0.82			
		中速 (M)	1	1	1.17				1.17			
			2	2	1.81				1.80			
			3	3	3.11				3.05			
	高速 (H)	1	1	4.54				4.54				
		2	2	7.02				6.96				
		3	3	※12.70				※12.40				
	後進	超低速	—	R	/	/	0.16				0.16	
		低速	R	R	0.43				0.43			
		中速	R	R	1.59				1.59			
		高速	R	R	6.17				6.17			

※印はエンジン回転2,750rpm時
その他の車速は定格回転2,600rpm時



名	称	TX20					
タ	イ	KAR	KAQ	KBR 2	KBQ 2	KCR 2	KCQ 2
型	式	TABD					
エンジン	型	GRB					
	形	4サイクル縦置形ディーゼル					
	シリンダ数	3気筒					
	総排気量	1,235cm ³					
	最大出力/回転数	20PS/2,600rpm					
	シリンダ内径×行程	82×78mm					
	使用燃料	軽油					
	始動方法	セルスタータ式					
	潤滑方式	圧送式					
	冷却方式	水冷					
		バッテリー容量	12V—45Ah				
車両寸法	全長	2,685mm					
	全幅	1,160mm					
	全高	1,900mm	1,955mm	1,900mm	1,955mm	1,900mm	1,955mm
	軸距	1,395mm					
	最低地上高	300mm					
輪距	前輪	900mm					
	後輪	910mm					
タイヤサイズ	前後輪	6—12					
	前後輪	8.3—22					
重	量(装備)	775kg	780kg	795kg	880kg	795kg	800kg
P T O 軸	回 転 数	1 速554 2 速735 3 速1,219rpm					
	軸 寸 法	6×35×28mm角形スプライン(JIS35)					
	ク ラ ッ チ 方 式	湿式多板式					
	か じ 取 方 式	ボールリサーキュレーティング式				ボールリサーキュレーティング式 (パワーアシスト付)	
	変 速 方 式	選択摺動式・常時嚙合式併用					
	変 速 段 数	前進9段・後進3段		前進12段・後進4段			
	駆 動 方 式	4輪駆動(2輪駆動切換式)					
	最 小 旋 回 半 径	1.93m					
	制 動 装 置	機械式湿式多板ディスクブレーキ					
	差 動 方 式	かさ歯車式(デフロック付)					
	安 全 鑑 定 番 号	1301013〔農用トラクタ(乗用型)〕					
	型 式 認 定 番 号	農1748					

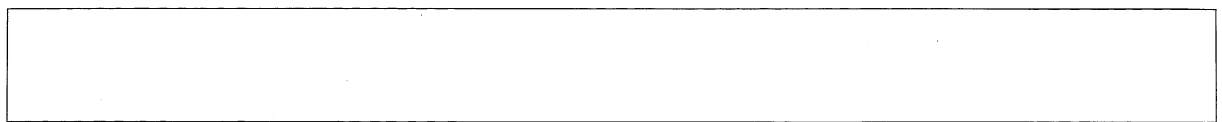
--	--	--	--	--

名 称		TX20			
タ イ プ		ECR 2	ECQ 2	EER2	EEQ2
型 式		TABD			
エ ン ジ ン	型 式	GRB			
	形 式	4 サイクル縦置形ディーゼル			
	シ リ ン ダ 数	3 気筒			
	総 排 気 量	1,235cm ³			
	最大出力/回転数	20PS/2,600rpm			
	シリンダ内径×行程	82×78mm			
	使 用 燃 料	軽 油			
	始 動 方 法	セル スタータ式			
	潤 滑 方 式	圧送式			
	冷 却 方 式	水 冷			
	バ ッ テ リ 容 量	12V—45Ah			
車 両 寸 法	全 長	2,685mm			
	全 幅	1,160mm			
	全 高	1,900mm	1,955mm	1,900mm	1,955mm
	軸 距	1,395mm			
	最 低 地 上 高	300mm			
輪 距	前 輪	900mm			
	後 輪	910mm			
タイヤ サイズ	前 輪	6—12			
	後 輪	8.3—22			
重 量(装備)		805kg	810kg	805kg	810kg
P T O 軸	回 転 数	1 速554 2 速735 3 速1,219rpm			
	軸 寸 法	6×35×28mm角形スプライン(JIS35)			
ク ラ ッ チ 方 式		湿式多板式			
か じ 取 方 式		ボールリサーキュレーティング式 (パワーアシスト付)			
ク ラ ッ チ 形 式		湿式多板油圧クラッチ切換式			
変 速 機 形 式		選択摺動式・常時嚙合式併用			
変 速 段 数		前進12段・後進4段			
駆 動 方 式		4 輪駆動(2 輪駆動切換式)			
最 小 旋 回 半 径		1.93m			
制 動 装 置		機械式湿式多板ディスクブレーキ			
差 動 方 式		かさ歯車式(デフロク付)			
安 全 鑑 定 番 号		1301013〔農用トラクタ(乗用型)〕			
型 式 認 定 番 号		農1748			

単位km/h

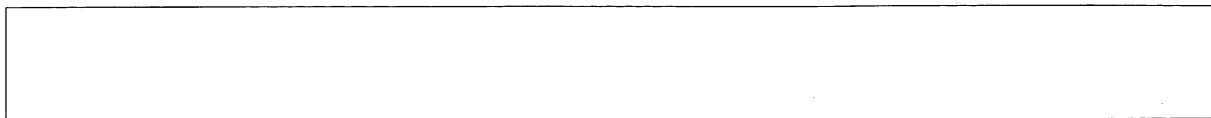
TX20													
	副変速	主変速		KAR	KAQ	KBR2	KBQ2	KCR2	KCQ2	ECR2	ECQ2	EER2	EEQ2
走行速度	前進	超低速	—	1	/	0.12				0.12			
			—	2		0.19				0.19			
			—	3		0.32				0.32			
		低速	1	1	0.33				0.33				
			2	2	0.52				0.51				
			3	3	0.90				0.87				
		中速	1	1	1.24				1.24				
			2	2	1.92				1.91				
			3	3	3.30				3.24				
	高速	1	1	4.81				4.81					
		2	2	7.45				7.39					
		3	3	※13.40				※13.20					
	後進	超低速	—	R	/	0.17				0.17			
		低速	R	R	0.46				0.46				
		中速	R	R	1.69				1.69				
		高速	R	R	6.55				6.55				

※印はエンジン回転2,750rpm時
その他の車速は定格回転2,600rpm時



名	称	TX22					
タ	イ	KAR	KAQ	KBR 2	KBQ 2	KCR 2	KCQ 2
型	式	TABD22					
エンジン	型	GRB					
	形	4サイクル縦置形ディーゼル					
	シリンダ数	3気筒					
	総排気量	1,235cm ³					
	最大出力/回転数	16.2kW (22PS)/2,600rpm					
	シリンダ内径×行程	82×78mm					
	使用燃料	軽油					
	始動方法	セルスタータ式					
	潤滑方式	圧送式					
	冷却方式	水冷					
	バッテリー容量	12V-45Ah					
車両寸法	全長	2,685mm					
	全幅	1,160mm					
	全高	1,900mm	1,955mm	1,900mm	1,955mm	1,900mm	1,955mm
	軸距	1,395mm					
	最低地上高	300mm					
輪距	前輪	900mm					
	後輪	910mm					
タイヤ	前輪	6-12					
	後輪	8.3-22					
重	量(装備)	775kg	780kg	795kg	800kg	795kg	800kg
PTO軸	回転数	1速554 2速735 3速1,219rpm					
	軸寸法	6×35×28mm角形スプライン(JIS35)					
クラッチ	方式	湿式多板式					
かじ取	方式	ボールリサーキュレーティング式				ボールリサーキュレーティング式 (パワーアシスト付)	
変速	方式	選択摺動式・常時嚙合式併用					
変速	段数	前進9段・後進3段		前進12段・後進4段			
駆動	方式	4輪駆動(2輪駆動切換式)					
最小	旋回半径	1.93m					
制動	装置	機械式湿式多板ディスクブレーキ					
差動	方式	かさ歯車式(デフロック付)					
安全	鑑定番号	15001〔農用トラクタ(乗用型)〕					
型式	認定番号	農1748					

名		TX22			
タイプ		EDR 2	EDQ 2	EER 2	EEQ 2
型式		TABD22			
エンジン	型式	GRB			
	形式	4サイクル縦置形ディーゼル			
	シリンダ数	3気筒			
	総排気量	1,235cm ³			
	最大出力/回転数	16.2kW(22PS)/2,600rpm			
	シリンダ内径×行程	82×78mm			
	使用燃料	軽油			
	始動方法	セルスタータ式			
	潤滑方式	圧送式			
	冷却方式	水冷			
	バッテリー容量	12V—45Ah			
	車両寸法	全長	2,685mm		
全幅		1,160mm			
全高		1,900mm	1,955mm	1,900mm	1,955mm
軸距		1,395mm			
最低地上高		300mm			
輪距	前輪	900mm			
	後輪	910mm			
タイヤサイズ	前輪	6—12			
	後輪	8.3—22			
重量(装備)		805kg	810kg	805kg	810kg
PTO軸	回転数	1速554 2速735 3速1,219rpm			
	軸寸法	6×35×28mm角形スプライン(JIS35)			
フロント軸	回転数	907mm			
	軸寸法	6×35×28mm角型スプライン(JIS35)			
クラッチ方式		湿式多板式			
かじ取方式		ボールリサーキュレーティング式 (パワーアシスト付)			
クラッチ形式		湿式多板油圧クラッチ切換式			
変速機形式		選択摺動式・常時嚙合式併用			
変速段数		前進12段・後進4段			
駆動方式		4輪駆動(2輪駆動切換式)			
最小旋回半径		1.93m			
制動装置		機械式湿式多板ディスクブレーキ			
差動方式		かさ歯車式(デフロック付)			
安全鑑定番号		15001〔農用トラクタ(乗用型)〕			
型式認定番号		農1748			



名	称	TX22
タ	イ プ	KAQ3
型	式	TZAJ
エンジン	型 式	GRB
	形 式	4サイクル縦置形ディーゼル
	シリンダ数	3気筒
	総排気量	1,235cm ³
	最大出力/回転数	16.2kW(22PS)/2,600rpm
	シリンダ内径×行程	82×78mm
	使用燃料	軽油
	始動方法	セルスタート式
	潤滑方式	圧送式
	冷却方式	水冷
		バッテリー容量
車両寸法	全長	2,685mm
	全幅	1,250mm
	全高	1,930mm
	軸距	1,395mm
	最低地上高	285mm
輪距	前輪	900mm
	後輪	910mm
タイヤ	前輪	23×8.50-4(M408)
	後輪	315/750-15(M408)
重	量(装備)	905kg(フロントウエイト120kg含む)
P T O 軸	回 転 数	1速554 2速735 3速1,219rpm
	軸 寸 法	6×35×28mm角形スプライン(JIS35)
ク	ラ ッ チ 方 式	湿式多板式
か	じ 取 方 式	ボールリサーキュレーティング式(パワーアシスト付)
変	速 方 式	選択摺動式・常時嚙合式併用
変	速 段 数	前進9段・後進3段
駆	動 方 式	4輪駆動(2輪駆動切換式)
最	小 旋 回 半 径	1.93m
制	動 装 置	機械式湿式多板ディスクブレーキ
差	動 方 式	かき歯車式(デフロック付)
安	全 鑑 定 番 号	15001〔農用トラクタ(乗用型)〕
型	式 認 定 番 号	農1748

単位km/h

TX22															
		副変速	主変速		KAR	KAQ	KBR2	KBQ2	KCR2	KCQ2	KAQ3	EDR2	EDQ2	EER2	EEQ2
走行速度	前進	超低速	—	1	/	/	0.12				/	0.12			
			—	2			0.19					0.19			
			—	3			0.32					0.32			
		低速	1	1	0.33				0.30	0.33					
			2	2	0.52				0.46	0.51					
			3	3	0.90				0.79	0.87					
		中速	1	1	1.24				1.10	1.24					
			2	2	1.92				1.69	1.91					
			3	3	3.30				2.89	3.24					
	高速	1	1	4.81				4.27	4.81						
		2	2	7.45				6.59	7.39						
		3	3	※13.75				※12.46	※13.50						
	後進	超低速	—	R	/				/	0.17					
		低速	R	R	0.46				0.41	0.46					
		中速	R	R	1.69				1.49	1.69					
		高速	R	R	6.55				6.37	6.55					

※印はエンジン回転2,800rpm時
その他の車速は定格回転2,600rpm時



農用トラクター(乗用型)用安全キャブ
及び安全フレーム検査成績表



型式名：ホンダ RAK

合格番号：90001

種類：安全フレーム(2柱式)

依頼者名：本田技研工業株式会社

住所：東京都港区南青山2丁目1番1号

製造者名：依頼者と同じ

住所：

Ⅰ 装着可能トラクター

1. 型式名

ホンダ TABD 22 ホンダ TABD ホンダ TAAD

2. 主要諸元(最大及び最小トラクター)

■型式名	：	ホンダ TABD 22	ホンダ TAAD
■種類	：	4輪駆動	4輪駆動
■質量(フレーム付き)	kg	810	770
■軸距	mm	1395	1350
■機関出力/回転数	kW{PS}/rpm	16.2{22}/2600	13.2{18}/2600

Ⅱ 構造の概要

1. 構造及び装着法

供試フレームは、鋼管及び鋼板を主材としたボルト締めによる組立構造の2柱式であり、取付金具を介して油圧シリンダケース上部及び後車軸ケース部にボルトで装着。

2. 主な装備

シートベルト(2点式)、キャノピー

3. 主要寸法 ※

■座席基準点から屋根部材(キャノピー下面)までの高さ	：	105.0 cm	
■フットプレートから屋根部材(キャノピー下面)までの高さ	：	144.5 cm	
■座席基準点上方90cmの高さにおけるフレームの内幅	：	72.5 cm	
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅	：	— cm	
■戸口の幅	(上部)	：	— cm
	(中部)	：	— cm
	(下部)	：	— cm
■戸口の高さ	：	— cm	
■最低位ステップの高さ	(フットプレートの高さ)	：	48.0 cm
■フレーム装着時のトラクターの全高	(キャノピー上面まで)	：	195.5 cm
■フレームの全幅	(フェンダーを含む)	：	101.0 cm
■座席基準点上方90cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離	：	29.0 cm	

※1. ホンダ TABD 22 (タイヤサイズ：前輪6-12, 後輪8.3-22)に装着時。

2. トラクターシートの銘柄型式：東京シート, TXS-01

4. 主要材料

- 主 フ レ ー ム：S T K R 41, S T K M 13 A, S A P H 41
- 装着 ブラケット：S A P H 41
- 組立・装着ボルト：S 43 C, S C M 435

Ⅲ 検 査 成 績

1. 強度試験

1) 水平負荷試験は、フレームの後部左側、前部右側、側部右側に対し実施。

■基 準 質 量：820 kg

■所要吸収エネルギー：後部負荷：1.15 kJ { 117 kgf・m } 前部負荷：0.91 kJ { 93 kgf・m }
側部負荷：1.44 kJ { 146 kgf・m }

■圧 壊 力：16.40 kN { 1672 kgf }

2) 試験後のフレームの永久変位

■後 部 (前 方 へ)：右側 0.5 cm 左側 1.5 cm

■前 部 (後 方 へ)：右側 -0.5 cm 左側 -1.5 cm

■側 部 (左 側 方 へ)：前側 10.5 cm 後側 5.5 cm

■上 部 (下 方 へ)：前部 右側 0.5 cm 左側 1.0 cm
後部 右側 0 cm 左側 0 cm

3) 側部負荷試験時のフレームの最大変位と残留変位との差：6.6 cm

2. 騒 音 ※

■ 88 dBA [ホンダ TABD22] 88 dBA [ホンダ TAAD]

※ 7.5 km/h に近い速度段における無負荷走行時のフレーム内騒音，運転者の耳もと

Ⅳ 付 記

本フレームは、既合格機（合格番号 88031）であり、装着トラクター 1 型式（ホンダ TABD22）の追加によって受検したものである。従って下記の試験成績を転用した。
強度試験（コード I による），分解調査



	農用トラクター(乗用型)用安全キャブ 及び安全フレーム検査成績表	平成 生研	平成 初年 系特 定産 業技 術推 進機 器
	型式名：ホンダ RZDR		
	合格番号：95105		
	種類：安全フレーム（2柱式）		
依頼者名：本田技研工業株式会社 住所：東京都港区南青山2丁目1番1号			

I 装着可能トラクター

1. 型式名

ホンダ TABD22 ホンダ TABD ホンダ TAAD

2. 主要諸元（最大及び最小トラクター）

■型式名	:	ホンダ TABD22	ホンダ TAAD
■種類	:	4輪駆動	4輪駆動
■質量（フレーム付き）	kg	809	762
■軸距	mm	1395	1350
■機関出力 / 回転数	kW(PS)/rpm	16.2(22)/2600	13.2(18)/2600

II 構造の概要

1. 構造及び装着法

供試フレームは、鋼管及び鋼板を主材としたボルト締めによる組立構造であり、取付金具を介して油圧ケース部及び後車軸ケース部にボルトで装着。

なお、格納等のためにフレーム上部を折曲げることができる。

2. 主な装備

シートベルト（2点式）

3. 主要寸法 ※

■座席基準点から屋根部材（下面）までの高さ	:	95.5 cm
■フットプレートから屋根部材（下面）までの高さ	:	138.5 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおけるフレームの内幅	:	74.0 cm
■ステアリングホイールの中心高さにおける座席基準点上方のフレームの内幅	:	— cm
■戸口の幅		
（上部）	:	— cm
（中部）	:	— cm
（下部）	:	— cm
■戸口の高さ		
（フットプレートから）	:	— cm
■最低位ステップの高さ	:	47.5 cm
■フレーム装着時のトラクターの全高（屋根部材上面まで）	:	190.5 cm
■フレームの全幅	:	90.5 cm
■座席基準点上方76cmの高さにおける座席基準点からフレーム後部までの水平距離	:	21.0 cm

※ 1. ホンダ TABD22（タイヤサイズ：前輪 6-12 4PR 後輪 8.3-22 4PR）に装着時。

2. トラクターシートの銘柄型式：東京シート、TXS-01

4. 主要材料

- 主 フ レ ー ム： STKR 400, SS 400, SPHCまたはSPCC, SAPH 400
- 装着ブラケット： SAPH 400, STAM 390 GまたはSTKM 13 A~C
- 組立・装着ボルト： S40~45CまたはSWRCH 43K, S40~50CまたはSWRCH 40~50K

III 検査成績

1. 強度試験

1) 水平負荷試験は、フレームの後部右側、側部左側に対して実施。

- 基準質量： 880 kg
- 所要吸収エネルギー： 後部負荷 1.42 kJ { 144 kgf・m }
側部負荷 2.34 kJ { 239 kgf・m }
- 圧壊力： 12.94 kN { 1320 kgf }

2) 試験後のフレームの永久変位

- 後部（前方へ）： 右側 9.5 cm 左側 11.0 cm
- 側部（右側方へ）： 8.0 cm
- 上部（下方へ）： 右側 2.0 cm 左側 1.5 cm

3) 側部負荷試験時のフレームの最大変位と残留変位との差： 6.5 cm

2. 騒音※

- 89.5 dBA [ホンダ TABD22] 87 dBA [ホンダ TAAD]

※ 7.5km/hに近い速度段で、けん引負荷をかけた時のフレーム内騒音、運転者の耳もと

IV 付記

強度試験はコードIIにより実施した。

この商品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後12年といたします。ただし、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

補修用部品についてのお問い合わせは、**お買いあげいただいた販売店**へお申しつけください。

HONDA
本田技研工業株式会社
東京都港区南青山2-1-1